

ふるさつ

岩原先生退職記念ならびに
名誉教授就任祝賀号

6

慶応義塾大学整形外科同窓会誌

岩原先生教授退職記念並びに名誉教授就任祝賀会にて

昭和42年1月21日 於帝国ホテル



漫
如
玉



和
三
郎



この色紙は特に記念号のために前田和三郎先生がおよせ下さいました。



慶応義塾大学医学部
整形外科同窓会々誌

6

1968



目

次

医たるもの

同窓会長就任にあたって

岩原先生教授退職記念並びに

名誉教授就任祝賀会

岩原教授最終臨床講義「椎間板症」

昔の憶い出

思 い 出

所感「反省と努力」

ハイキングの思い出

ごつつあんでした

手術の想い出

座談会「岩原先生と教室」

岩原寅猪……………一

池田亀夫……………二

於 帝 国 ホ テ ル……………三

前 田 友 助……………一六

白 田 正 雄……………二七

野 崎 寛 三……………三〇

伊 藤 盈 爾……………三一

久 保 義 信……………三二

泉 田 重 雄……………三四

……………三五



想 い 出

昭和26年入局（慶大医専3回生）

医局長日誌より

会 食 風 景

廻 診

岩原先生の外来

学会と岩原先生

印象に残っていること

教室の業績

編集後記

寺 村 正……………四四

藤 原 由利夫……………四五

矢 部 裕……………四八

野 口 朝 生……………七二

富 田 恭 弘……………七五

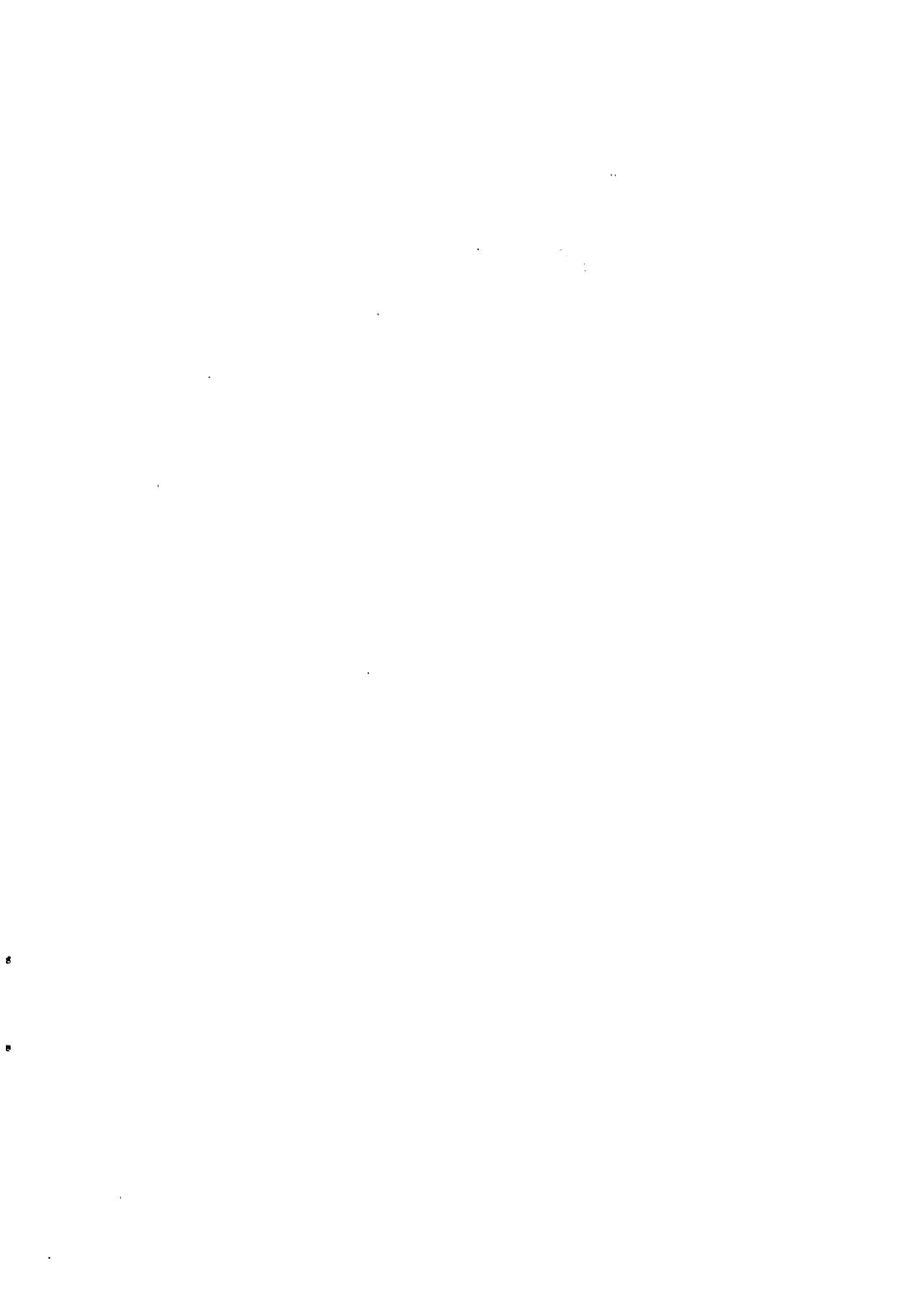
赤 坂 勁二郎……………七五

平 林 冽……………七六

佐 藤 キツ子……………七七

……………七八

……………八六



医たるもの

岩原寅猪

“医者は病人を相手とするもので病気を相手とするのではない。病気をもったヒトを相手とするのである”とは古くから伝えられた医の道の訓えである。

これは技術の切り売りだけでは医者ではできない。医の道は歩けないということを言っているともいえる。古くから“医は仁術なり”といわれてきた所以でもある。

医者と患者との間の関係は人間と人間、人格と人格との接触交渉であって、お互の人格は十分に尊敬されなければならぬ。ここが、機械を使ったり、牛馬を役ったり、大根や胡瓜などを作ったりするのと大きく異なるところである。

どの世界でも実力を持つことが必要である。実力とは権力ではなく、暴力ではもちろんない。文字通り、そのヒトが実際にもっている能力である。頭腦的に、肉体的に、根性的に、さらに人格的にそなわった力の総和である。医者は実力をもっていなければならない。

実力をもつには絶えず鍛えなければならない、たえず磨かなければならない。鍛え磨いてはじめて天性は強くなり輝いてくる、力ができてくる。

よく読み、よく考え、よく演練することである。読書にも、思考にも、演練にも過ぎるといふことはない。そうして、技術がみがかれ、実力が養われてゆく。

実力をもった医者がまじめにかかつてはじめて患者から信頼される。患者から信頼されてはじめて医者は仁術を施せる。実力のない医者がいくら口巧者にムンテラしても患者の信頼をとりつけ続けることはできず、また、少々よい技術をもっている医者も誠実さに欠けるところがあつては容易に患者の信頼を失う。

患者の信頼をえることは患者を把握することにつながる。よく患者を把握して医の道をまっとうに歩みたいものである。

同窓会長就任にあたって

池田 亀夫

このたび、同窓会員諸氏のおすすぬにより岩原先生のあとをうけついで整形外科同窓会会長の重任にあたることになった。

岩原先生の学問的業績は、先日完成した業績集の全巻に満ち溢れているが、先生のなしとげられたもう一つの大きなお仕事として同窓会の充実をあげねばなるまい。実に延べ三百人を越す人々が、あるいは大学において孜孜としてはげみ、あるいは全国各地の医療の第一線で活躍して地域社会の信望をあつめている。そして内に向ってでは全てお互いに相和し相敬まって一体となり、日本の整形外科学界に一大人脈をかたちづくっている。

この目覚ましい発展が、岩原先生が各人について非常に細かい点まで熟知されながら、なおかつ大所高所にあつて配慮をめぐらすことを怠られなかつたことのためものであることは今更贅言を要しまい。

この大世帯をあづかる責任の重さを痛感するとともに、先生が益々ご健在であられて、親孝行をする喜びをいつまでも味わせてくださることを切望するものである。

岩原先生・教授退職記念並びに名誉教授就任祝賀会

昭和四十二年一月二十一日

(於帝国ホテル)



久保 「それでは定刻も過ぎましたので、只今から岩原先生の教授退職記念並びに名誉教授御就任のお祝いの会を開きたいと存じます。私、本年度の同窓会の幹事長をつとめます久保でございます。不慣れのためいろいろ失礼にあたることもあるかとは存じますが、何卒よろしく願いたします。

それでは先ず、昨年十二月岩原教授の後を継がれました教授の池田亀夫君に開会の御挨拶、引き続きまして略歴の御紹介をお願いいたします。どうぞ」

池田 「本日は皆様方、御多忙中のところ、又寒さ厳しき折にも拘りませず、多数御出席下さいまして誠に有難うございます。主催者側を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。次に



岩原先生の略歴を御紹介させて戴きたいと思えます。

岩原先生は明治卅四年九月二日に高知市の弥生町にお生まれになりました。同地にあります第一中学校を經まして大正九年慶応義塾大学医学部に御入学になりました。昭和二年に医学部を御卒業になりまして、約三年間、外科の助手として勤務されまして、五年二月に前田教授の求めに應じ

られました整形外科へお移りになられ、同年講師、昭和九年に助教授に御就任になりました。尚、昭和十二年八月に応召されました十六年四月に召集解除になりますまで、陸軍軍医として戦傷軍人の診療に従事されたのであります。昭和十九年には初代国立埼玉療養所の所長、同二十年には国立箱根療養所々長に

就任されました後、昭和二十一年十月に慶応義塾大学医学部教授に御就任になられたのであります。

教授在職中は三十四年に医学部附属厚生学院及び准看護学院の院長を、又三十五年には大病院院長を兼務なさいました。昨年五月九日医学部教授の職を停年に先立ちまして御退職になられ、五月十日、国立村山療養所々長に御就任になりまして、十二月一日付で医学部名誉教授となられたのであります。

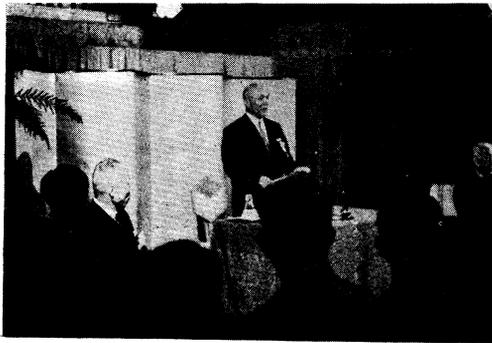
学会方面におきましては、昭和十一年に前田和二郎教授とともに外科整形外科の共同宿題たる「脊髄外科」を担当されました、尚二十四年には第二二回日本整形外科学会々長をおつとめになられまして「脊髄損傷の後遺症と後療法」を宿題報告されました。二十八年には第二六回日本整形外科学会総会におきまして共同研究として「仙腸関節と腰痛」を御報告になりました。

更に第一五回日本脳神経外科学会会長、第三回日本手の外科学会会長、第九回日本形成外科学会会長をおつとめになられました。又、前後四回にわたりまして、欧米諸国、東南アジア方面の各種の学会に御出席になりまして、彼我の医学交流に非常に大きな役割をお果たしになられますとともに、国際親善の実をあげられたのであります。

以上簡単ではございますが、岩原先生の略歴を御紹介させていただきますました。

岩原先生には今後益々、御自愛いただきまして多年の御経験を社会、学会のために更に生かされますとともに、我々後進の

御鞭撻を切にお願いしまして御挨拶にかえる次第でございます久保 「有難うございました。本日は岩原先生の御縁の深い方が沢山おられまして、数々の祝辞をいただくのが適當かとは存じますが、会の進行上、ごく数を限らせていただきます。甚だ失礼かとは存じますが、まず初めに整形外科学会の現職の教授といたしまして最長老であられ、岩原教授と多年御親交の深い九大の天児教授に御祝詞をお願いいたします。



天児 「ええ今日ここで何か一席やれということでございます。実はどうかで宴会がございまして相当アルコールも入った

ところで何か私がテールスピーチをするんだと思ひこんでおりましたので、実は余りこう堅苦しい話の用意は何もして来ないのでございます。実は原稿も書いて来ておるんですが、その原稿たるや岩原先生に私をおしかりをこうむるような事を書いて来ておるのでございます。まあこうなったらやむをえませんのでこの様な非常にまあ堅苦しい様な会場でござい

するが、多少こう原稿の内容を訂正しながら、お祝いの言葉を申し上げたいと思います。

今も御紹介のありました通り、前回日本整形外科学会で、まだどうにか学会の名誉会員にならん者の中では、僕が一番最年長者だそうでございます。

しかしこうして二人顔をくらべて見ますと私の方が少し先輩に見えるんじゃないかと思うんです。言いかえますと岩原先生は停年で御退職になるんですが、未だ元気であります。非常に元気であります。

実はこの先生と私とのこのあいそめは昭和六、七年だったと思います。お名前を拝見すると恐ろしいお名前でございますし、お顔を拝見しますとそうおやさしいとは思いませんので私達はこの先生と交際する時に何かガミツとかみつかれるようなことがありはしないかと心配しておったんであります。ずっと今日まで交際してまいりましたが、非常にいい方であります。おやさしいのであります。それは僕等にだけではなし勿論奥様にも大変におやさしいんでございますが、そのために約三〇余年間、親密にやってきました。

又、先生は以後、脊髄の方面のことをよく御勉強になっただらっしゃいますが、実は私もその方面のことをやっております。脊髄腫瘍の手術がお互いにも一〇〇〇例を突破しておるんだらうと思います。

私も三、四年前に脊髄腫瘍の手術が一〇〇例を突破して会をやりました。会といっても品がいい会ではありませんので、皆

医局員が集って一杯やった様な次第でございます。又、応召中は第一陸軍病院でやはり脊髄損傷患者のことを先生がずっとやっておられたんですが、そのあとを私がやはりやっております。

それから、召集解除になりましたから、先生が丁度前田先生の後任として慶応大学の整形外科の教授に丁度なられた時分に又、私も新潟大学の教授に就任いたしました。

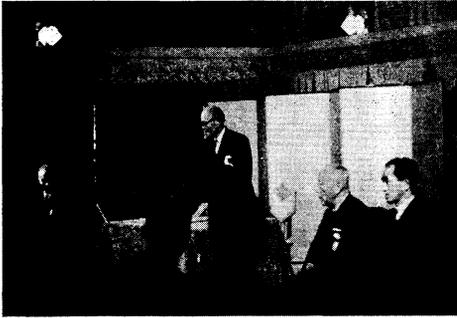
そして学会ですと今日まで一緒にやってきました。先生はいろいろと学会にもいいお仕事を残しておられるのであります。余り宣伝をなさらない。例えばこんなのがあります。頸のところが強く打撲しまして上腕神経叢の損傷のある場合に、脊髄の方で神経が剝離してしまっているという様なわけでありますが終戦後その様なのを *root avulsion* といまして若い先生方も盛んにおっしゃられるんであります。そういう問題は昭和十一年に先生がここでちゃんと発表しているんであります。そういう事も先生が余りおっしゃらないんでけしからんというんで反対に私が大いに宣伝をしておるような次第でございます。

先生はこの通り非常にお元気でですのでこちらの大学を退職されました。又新しい療養所の所長として今後大いにおやりになる事と私は信じております。

先生は品行方正です。酒も余りお飲みになりません。少し召し上がりますと大きな声で小学生が唱歌を歌うように歌をお歌いになります。これはこの先生の性格をよく表わしておると思

うんでございまして、まっすぐに立って堂々と歌をおうたいになるのです。その歌は我國のみならず太平洋を越えてアメリカにおいても歌をおうたいになりまして、先生を流行歌手としても、アメリカの整形外科医者もよく存じ上げているようなところであります。先生はそれだけに天真爛漫であります。どうぞ今後ともその天真爛漫なところで今後学会のために又、いろいろと御協力たまわらんことをお祈り申し上げます。

大変、変な事を、祝辞を申し上げまして、誠に恐縮でございますが、私の祝辞をこれで終らせていただきます。



久保 「有難うございました。次に岩原先生よりワンストローク早く名譽教授になられました慈恵大学の片山教授に友人代表としての御祝辞をいただきます」と存じます。どうぞ」

片山 「ええ只今、天兎先生から大変にくだけた、やわらかいお祝いの言葉がございましたので、私もそれに調子を合わせてひとつやわらかくお祝いの言葉を申し述べ

ることにいたします。

このたび、岩原先生には長い間の学校生活を無事におえさせられまして、しかも非常に輝かしい歴史を学会に、母校にまたその他の方面にお残しになって目出たく御退職になりましたことを私は心からお祝いを申し上げます。しかし、めでたくと申しましても、岩原先生が御退職になるということは、これは岩原先生御自身は勿論そうでしょうし、私共までも非常にさみしい気持がするのでございます。

もっとも後継者として愛弟子の池田先生のような立派な先生を得られたのでありますから御満足のことであろうとは存じますが、それでも何となくさみしい気持がなざるのではないかと私存じます。実は先程も御紹介がございましたように、昨年の三月、私は慈恵大学を停年退職いたしましたので、只今の岩原先生のお気持がよくわかるような気がするのでございます。しかし人間六十五才にもなりますと、元氣なように見えておりまして年々の重みにたえかねまして、老化現象がひそかにしのんできておりますから、この辺で御自分の体に合うようにお仕事をなさるといふも又、結構なことではないかと、思うのでございます。これを私自身のことについて申し上げます。先程、岩原先生がお互に電話でもかけて慰め合おうかという事をもられましたけれども、私はもう現在はさみしいというような気持は全くございまして、読みたい本を読み、又、自分の体に合うように仕事をいたしまして、したがいまして体の

調子がよろしく、又、自分自身では少し若返ったような感じになつております。

ところで岩原先生は先程、天兎先生が天真爛漫ということを申されましたが、天真爛漫であるだけに又、仲々の頑固者でございます。しかし、今までは御自分の職責をお考えになりまして、あれでもまあ相当に控えておいでになつたのではないかと申うのでございます。しかしこれからは相当に自由なお休になつたのでありますから、どうぞこれからは思う存分、頑固にひとつやっていただきたいと存じます。岩原先生が頑固なことをおっしゃっている顔を見ているのは仲々愉快でございます。同時に又、岩原先生が頑固なことをおっしゃればおっしゃる程、我々は親愛の情を覚えるわけでございます。

ところで岩原先生は頑固者だ、頑固者だと申しましても、あれで仲々自然を愛する気持が豊かな方でございまして、よく日曜大工ということを申しますが、岩原先生は日曜百姓をおやりになりまして、そして大根などをお作りになり、それを沢庵漬けになさるのでございますが、その沢庵は仲々、色素なんかもお使いにならないようではございますけれども、色は大変に良くて、においも良くて、そして味は極上でございます。

ところで我々岩原先生にお会いいたしますと、岩原先生「どうだ、沢庵とりに来ないか」と、申されるのであります。ここで一寸困った事があるんです。といいますのは、頂いて帰ります時にどうもその包装がその……包み方が充分でないらしいので、これを電車の中に持ち込みますとあのいいにおいが電

車の中全体に充満し、これは大変に困ります。

つきましては、これから頂きます時にはビニールの袋の中に入れて密封をして頂きたいと存じます。そして出来るだけ沢山頂きたいと思ひます。沢山ということを申しますと岩原先生、多分といひますか必ず心の中で「いやお前達、おもしろが来ないから味がかわつちゃつて駄目だよ」ときつと思つてらっしゃるにちがいないんです。ところがビニールの袋の中に入りました冷蔵庫の中へあつらえておきますと、絶対味が變りませんからひとつなるべく沢山頂きたいと存じます。

それから、岩原先生は、聞くところによりますと近くに植木屋さんがありまして、その方に植木の剪定を教わつて、そして仲々盛んに剪定をなさるそうでございます。

そして御自分の御宅の植木の剪定をしつくと申すと、丁度害虫が、岩原先生のことを害虫といつてはいけません、害虫がある地方の草木の葉っぱを喰べつくしますと今度は又、飛んで行つて他の地方の草木の葉っぱを喰うというように、御自分の御宅の庭の剪定がすみますると今度はその植木屋さんの庭木の剪定をなさるそうでございます。

これはその植木屋さんも随分困っているんじゃないかと思ひます。その様に仲々お盛んな、いや御熱心なようでございます。ある時岩原先生の奥様をつかまえて近くの御婦人が「お宅に出入りの植木屋さんは随分熱心ですわ」といふことを聞いております。

又、岩原先生はあれで仲々情緒豊かな方でございまして常々

やわらかい小説を読んでおられるのは、私共大変な驚きでございます。

又、先程天兎先生がおっしゃられましたのが、あの顔で……ですわね、仲々その歌が上手なんです。もっとも流行歌手の中にはあまり色男もおりませんし、又、美男子もおりませんから、大体この顔でいいだろうと思いますが、まあお酒を一、二杯飲みますと真赤な顔をして土佐節をうたいだします。ところが既に声帯には老化現象がしのできておりまして、昔のように音吐朗々というわけにはまいりません。世にも哀れに、悲しそうに、又苦しそうな顔をしてお歌いになるのでございます。ところで私、岩原先生がどんな苦しそうな顔をして歌をおうたいになりまして、私は岩原先生が非常に好きでございます。

何故好きかということの理由はよく解りませんが、まあこれはやはり岩原先生の人徳のいたすところではないかと思うのでございます。まあ例えてみまするならば、これは丁度沢庵のようなものでございまして見た目は余りよろしくはございませんが、喃めば喃む程味の出て来る人柄でございます。丁度竹を割ったような性質で、人格高潔、あるいは人格高邁という言葉は岩原先生のために作られた言葉であるような感じがするのでございます。

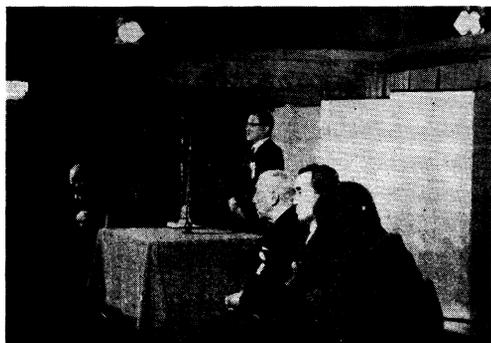
聞くところによりますと、もう既に村山療養所の所長さんになられておられる由でございますが、所内の先生方又職員の方々は、あの高潔な人格とあのあつたかい人徳につつまれて必ず病院の中は楽しく、又、あつたかいムードになることだろう

と存じます。

ところで実は私、今日は岩原先生について日常感じていることをそのままお話をするつもりであつたのであります。どうもお話をしていううちに段々とほめる言葉が多くなつてまいりましたのは、私として初めの考えと違つておりましてどうも少しマズかつたと思つております。まあしかしこれも岩原先生の人徳のいたすところであらうと存じますが、これ以上お話をしておりますと、ただほめる言葉ばかりが出そうな気がいたしますので、この辺でやめさせて戴きたいと存じます。どうぞ岩原先生にはこれから益々頑固にそれから益々沢山に沢庵をお漬けになり、そしていよいよ御健康であられることをお願いいたしました。私のお祝いの言葉とさせて戴きます。どうも有難うございました。」

久保 「有難うございました。次は岩原先生が昨年の五月から国立村山療養所々長といたしましてもう徐々に馬力をかけられつつあるところでございますが、その意味におきまして厚生省医務局の若松局長に御祝辞を頂きたいと思つています。どうぞ。」

若松 「この岩原先生のお祝いに私のような者が出て参りますのは大変場違いの感じがいたしました。私自身大変気がひけておるわけでございます。しかしまあ考えてみますと、略歴の御紹介等にもありましたように、岩原先生には厚生省全体として非常に御厄介になつて参りました。戦前から埼玉療養所長もおやりいただき、あるいは箱根療養所長もおやりいただき、又彼所の関係では身体障害者の問題や、身体障児の問題等でも色



々お世話になって来て参りました。そういう意味で私共としては本当にお世話になった先生という気持ちでいっぱいでございます。

天児先生や片山先生のお祝いの言葉がございました。私は一体どういう風なお祝いを申し上げた方がいいのか解りませんが私は岩原先生が大変頑固な恐い先生だと実は思っております。これは天児先生が非常に天真爛漫だとおっしゃいましたし、その後片山先生がようやく少し頑固だということ云って戴いたんで、まあまあと実は救われた思いでおります。

私は児童局におりました頃に、高木憲次先生が未だ御健在でいらっしやいます。身体障害者の問題から身体障害児の福祉の問題が段々力が入って参りました頃に、丁度岩原先生と片山先生が、高木先生を両側からかかえるようにして高木先生の仕事を促進して参られました。丁度お二人が車の、高木車の両輪のようであったという風に感じています。その当時いろんな育

成医療だとか更生医療の指定の機関の審査をやっておりましたが、その審査が、どうも非常に厳重になって参りました。しかもその厳重になって来た元兇はどうも岩原先生のようにとられております。

そして指定や何か難かしくなると、「それは岩原先生をくどかなきゃ駄目ですよ」と裏から教えてやっつてようやくこの岩原先生の諒解をとりつけて、会合の時には何とかパスをさせるというようなこともあったようで、そういう意味で非常に恐い、頑固な一面、非常にそれこそ清潔でサッパリしております。いうことを私共、非常に感銘を受けて、又、その後私は結核や癩の問題をやりました当時も、岩原先生あるいは今度の池田先生等に癩の問題を非常に御援助いただきました。癩病におけるリハビリテーション特に手の手術、手の機能の恢復等についてはもう本当に親身にお世話をいただきました。

脊髄損傷患者であるとか、或いは癩患者というように世の中から見捨てられた、見放された世界の方々、患者達に非常に厚い同情を献身をもってお仕事をしていたいたというところについては、本当に感謝いたしておるわけでありませう。そしてこのたび、今度は村山療養所で今後段々多くなって参るでありましょう。交通事故や産業災害にともなう脊髄損傷やそういう中枢神経の損傷について、非常に深い御経験をもって仕事をやっていただきますというところは、私共として将来の療養所の一つの大きな目標をつくる事が出来ると思っております。結核療養所等が段々といわゆる斜陽化して参ります中で、私共が何とか

ハビリティジョンの問題を療養所の中に採り入れていきたいと考えております矢先に岩原先生を村山療養所にお迎えすることが出来て、しかも誠に御無理をお願いして停年以前にご就任いただいたということは、前々から先生にご期待申し上げていた点を、ただちに表現の軌道にのせることが出来たという意味で、本当に有難く感謝いたしてゐるわけです。いろいろ厚生省全般として御厄介になっておりますが、特にこれから私共の医務局、あるいは医療問題を担当しておりますものが、非常にお世話になることと思ひます。

今後ともどうぞ御健在で、長くひとつがんばっていただきまして、同時に先生のお育てになつた多数の後輩の方々にもどうぞ先生をお盛りあげただくと同時に、私共の行政にも先生を中心に御協力いただきますことをお願いいたしました。お願いばかりになりましたが、ごあいさつにさせて頂きます。」
久保 「ありがとうございます。次からは内輪になって参りますが、まず慶大医学部を代表していただきまして、牛場学部長にお願いいたします。」

牛場 「岩原先生のこの記念すべき日に、御挨拶を申し上げますめぐりあわせになりました、私誠に光栄に存じます。慶応の医学部として岩原先生に祝辞というよりは今日はお礼を申し上げますなければならないということでここに立つた気持ちでありますけれども、もう皆様御存じの通り、長い間慶応医学部のためにつくしていただき病院長もやっていたとき、教育・研究・診療の面で、非常なお世話になり、ここに慶応の整形あり、ここに慶



応の岩原ありということ
を文字通り成就されたとい
うことは私が今更い
うまでもないところで、現
在医学部を代表しまして
改めてその御努力にお礼
申し上げる次第でありま
す。

私個人としては又、いろいろ申し上げたいこともありますが、医学部とすることだけを簡単に申しますと、先程からも御紹介しましたように医学部には六十五才の停年と申しておりますけれども、それに先立って、転出されたということは、やはり岩原先生の御実績と御人徳によるもんだと我々一同非常に喜んでお送りした次第であります、今後はまあ、潜越であります、これから先の長い人生を、どうぞはげまれて、又、我々のために御援助いただきたいと、今度はお願いを合わせてここで申し上げる次第であります。

岩原先生は、非常にまっすぐに教室を指導されたことは、もう申すまでもないので、私も専門外から見ている非常に慶応の整形というものが、いわゆる Kleine Fach というようなもの



ではなしに、日本有数の大学の教室として発展したということ
は誠に御同慶にたえないんですが、どうぞ今後もその精神をう
ち極めて発展されることを祈ってやまない次第であります。

岩原先生がその精神的な面のみならず、物心両面でですね。
医学部につくされたことを、又あわせて感謝いたして私の御接
拶にかえたいと思います。」

久保 「有難うございました。次に普段、教室員の色々お世話
になっております関連病院の、慶応に関連病院長会というもの
がございますが、その会長をしておられます浜松赤十字の山田
院長先生にお願いいたします。

山田 えー私は只今御紹

介にあずかりました慶応
の関連病院長会議の会長
という資格において御祝
辞を述べさせて戴きます
慶応はもう卒業生が出
ましてから大体、四十年
になり、ほぼ半世紀に亘
っておりますが、したが
って卒業生が勤めておる
いわゆる関連病院という
ものが誠に沢山できたわ
けでございます。然し、
残念ながら昭和三十八年

までは校外人事の窓口と言うものが、学校の、何処に持って行
っていいかと言う事が非常に解らなかったのでございます。と
ころが他の大学を見ましてもえー、ことに東大あたりは、確固
たる関連病院のつながりがございまして、一寸も触れ得ないも
のを持っております。

こう言った所から三方教授が主張されて出来上ったのが
この会であります。岩原教授は発会の中から教授側の交渉委員
として御出席なさいまして、実に正論をお吐き下さるのでござ
います。我々の調査ではかかる病院は一〇〇近くございますが
岩原教授はこの名簿を御覧になって俺が関連病院として認めら
れるのは一割位しかないが、という様な事をおっしゃいまし
た。しかし、当時から岩原先生は「俺が関連病院と認めた病院
には整形の医者はどうしてもやる。他から取ってもやる」とい
う固い信念のもとに御努力下さったのであります。このように
はっきりとした態度で人事を下さるので、前時代的という
人もありませんが、私は教育というものはこうでなければな
らない、岩原教授がかかる態度で教室を指導して来られたため
に、整形外科教室がかように盛大になったものと確信致してお
るのでございます。又、私たちの所に若い医長がどんどんおい
でになるのでございますが、この方たちもどうか岩原先生の様
に信念を持った、多少ワンマンの信念を持って物事を処理して
いただくという事が関連病院を増々盛んにして行く事になるか
と私は思うのでございます。そこで昨日関連病院の常任理事会
がございまして、岩原先生は相談役になって戴くことに一同可

決致したのでございますが、えー多分先生の御考によるとお引受けいただけると思いますが、来月よりの理事会には相談役として御出席いただきまして、よきアドバイスを戴くことになりましょう。信念をお持ちになる方が理事会に入って戴くという事は、まったく何よりもうれしくございまして存じますのでございませう。ええ今後は関連病院のためにも、是非、御健康を保たれて我々のためにもう一つ御尽力戴きたいという御祝辞を致したいと思ひます。

拍手

司会 有難うございました。

司会 次は我々同窓会の一員であり、いわゆる岩原門下から先年慶応の中に形成外科学教室を作りましてこの担当をしておられます伊藤盈爾助教授にお願い致します。

拍手。

伊藤助教授 大分昔の話になりますが私が整形外科の教室に入りましたのは昭和十六年、丁度大東亜戦争の始まる直前でございます。当時岩原先生はまだ助教授でいらっしゃいました。遊ぶのにも、勉強するのにも、我々の直接の指導者という様な立場にいらっしゃいました。私も非常に可愛がってもらいました反面、又、非常に厳格な、仕事の面では厳格な躰を受けた事を覚えております。それは今なお、私の中に生きていっている様な感じが致します。この様な恵まれた生活も終戦と共に一変致しまして、衣食住にも事欠くような中で教室の再建が始まったのであります。その頃の私達若いものには、よく分らなかつたの

でございますが、先生のご苦勞苦心には一方ならぬものがあつたと思ひます。しかしこれに乗切られたからこそ今日の隆々たる整形外科の教室が出来上つたものと思ひます。私達は先生の輝かしい一面のみを見がちでございますけれどもこの様に人知れぬご苦心がある事を忘れてはならないと思ひます。先生の整形外科における数々の業績は、先程いろいろとご紹介ございました。えー私は形成外科の立場からこの席をお借りして先生にお礼を申し上げますと共に、これからの事をいろいろとお願ひ致したいと思ひます。御承知のように日本の形成外科は他の医学に較べまして一歩も二歩も遅れをとつておりました。これがいわゆる先進国といわれます国々と、較べると、歴然たるものがあります。岩原先生は逸早くこれを察知なさいまして慶応に形成外科を独立させるために奔走なさいました。昭和三十八年の五月に教授会で形成外科教室の新設が受理されました。それから既に四年近くたちますが、その間、先生は陸になり日陽になって私達を育て下さいました。今幸いにして形成外科が順調な發展をしておりますのも先生のお力添えによるものから感謝しております。

先生は慶応ばかりでなく、昨年度は日本形成外科学会長として、日本の形成外科を御指導下さいました。このように育ての親と申さるべき岩原先生が、この度停年とは申せ、少しでも遠く離れられるということは、私共にとりまして誠に心に穴があいたような淋しさ、心細さを感じずにはおられません。どうか

先生には今まで通り、いや今まで以上にお力を賜ります様お願い申し上げます。私達もご期待にそうよう出来る限りの努力は致す覚悟でございます。お見受けしますところ先生はまだ停年とか躰鑠とかいう言葉はそぐわないようなお元氣さでございます。この点、私達は非常に心強い限りでございますが、先生には増々お元氣で、いつまでも私達の師であって下さいませよう心からお願ひ申し上げまして御挨拶に代えたいと思います。

拍手

司会 次は我々同窓会一番の兄貴分でございます東京医大の野崎寛三教授に最後の祝辞を頂きたいと思ひます。

拍手

野崎 時間も迫りましたのでいろいろ申し上げたい事はございますが、最後に心に残る事だけ申しましてしんがりのご挨拶と致します。私は昭和七年に前田先生の教室に入局しました。当時岩原先生は講師であられて、非常に頑固なこわい兄貴であるものの如くでありましたが、それは昼間の事でありまして、夜になりますとあるいは夕方になりますと一緒に風呂に入りまして、それが済みますという雑談します。あるいは酒の飲み方教育の仕方、いろいろ教えて頂きました。(笑い)いろいろ教わりながら今日に至りました。岩原先生は一面非常にやさしい親切な方でありませう。昼間は非常にこわい面も、教育者としての厳格な面も持っておられる私共の兄貴でございます。先生は昭和五年に整形の教室に、前田先生の教室に、外科から転向されました。ここに始めて、私達の慶応の整形外科教室の実際の

活動が始まったと申す事が出来ると思ひます。私共が入局しました時は、私共が三人で、あと岩原先生と前田先生という事でございます。以来、今日に至りますまで、先生の講師時代、助教授として教授時代にお世話になりました同窓は二六〇余名に達します。先程山田博士から関連病院のお話しがございましたが、今年の同窓会の名簿によりますと、先生の厳格な査定をへた関連病院が六十余ございます。かくして慶応の同窓生がお蔭さまを持ちまして、非常に活躍しております事は、代表と致しまして厚く御礼申し上げます。なお、私入局しまして以来、昼に夜にお世話になりました他に、先生のご家庭に伺ひまして、奥様にいろいろおもてなしや、アドバイスを受けました。入局しました時は若かったんですが、その後見合とか、結婚とか、媒酌とか、その他数々、いろいろなプライベートなお世話も願ひました。おそらく同窓生は私の他にいろいろお世話になった事と思ひます。かくして岩原先生の今日のお立場を寄りそってお助けになったのは高千夫人でございます。奥様は先生と同様にお若く拝見しますが、もう既に二男三女の母親であります。二人のお嬢様が嫁がれて、もうすでに五人の孫さんを得られているようですが、なお、親がかりのお子さんが男二人女一人、いずれも一人は大学を出られ、家を持たれましたし、一人は慶大生だし、お嬢さんも大学生といわゆる親がかりのお子さんを三人かかえておられます。先生ご夫妻の村山療養所長のお仕事もさることながら、ご家庭の事も含まれまして、まだまだ私達の将来をいろいろお世話になる事を期待しまして、ご健

康でますますご活躍なさる事をお祈り申す次第でございます。なお、同窓会としまして、これを記念しまして業績集を発行しますが、私共同窓生の志を集めまして、金一封を差上げる事に致しました。どうぞお受け取り下さいますようお願いを申し上げます。

岩原先生謝辞

司会 続きまして岩原先生御夫妻に、花束の贈呈をさせていただきます。どうぞ。(拍手)

司会 たてつづけて失礼と存じますが、最後に時間の都合で、先生から謝辞をいただいてこの式を一応終りたいと存じます。どうぞ(拍手)

岩原 御礼の御挨拶を申し上げます。今日は大勢の友人、同窓の方々がお集りいただきまして、私の退職を祝って下さいまして、身に余る光栄、大きな喜びであります。

まず何よりも先に、永い間、皆さんから賜りました暖かい力、お導きを、この退職の期に際しましてお礼を申し上げます。ればならないと存じます。お蔭様で四十年の教職を大過なく、かつ愉快につとめ、果たすことができました、まことに有難うございます。先程から沢山の過分なお言葉をいただきました。実は面映ゆい思いをし、穴に入りたいような気がしたのであります。後に岩原がこの位置まで来たのは、ただただ皆様のお蔭と感謝しております。

先程御紹介いただきましたように、私は最初、茂木先生の外

科の教室に入りました。兵隊を二期しまして、丁度丸二年すんだところで、前田先生からよんでいただきまして整形外科に移ったのであります。これは今はやりのアメリカ式の修練制度から見ますと、*General surgery* の課程をふんだということになるかと存じます。整形外科に変わりましたからの私は、良き師を得まして思う存分に勉強ができました。殊に助教授の十二年半の間は、恐らくは私の勉強の面では黄金時代であったかと思ひに思っております。私は大変運が良かったと存じます。昔から運、鈍、根という言葉がありますが、この言葉は恰かも私のために作ってくれてあった言葉でなろうかと思つたことさえある程であります。

教室をおあがりしまして二十年の間、整形外科が最初 *King's Path* でありましたが、次第に育ちまして今日は教室員が九十をはるかに越えまして一〇〇近くなっております。戦前の約一〇倍、年間の受付患者も一万三千を越えまして戦前の四倍ベツトは仲々いただけませんが、それでも一一〇前後でありまして大体三倍となっております。さらに先程もお話がありましたが、いわゆる慶応の関連病院として、院長ないし医長として出ている同窓が五〇、六〇と、これは大体戦前の二〇倍ないし三〇倍かと思ひます。自慢をするようでまことに恐縮ですが、整形外科の教室は、時を得て順調に育つたということができるかと存じます。

私は御承知のように、前田先生から脊髄、脊髄外科の遺産を受け継いだようなことになりまして、これが私の一生の仕事にな

りましたが、第二番目に私がとり上げました研究課題は、骨折特に骨折の保存的治療、特に牽引療法でありまして、この基礎的研究を池田教授を中心に行ないました。御存知のように前田先生は、骨折は保存的治療に徹された方でありまして、特に前田式牽引架台等もあるのであります。私はその基礎的研究をし、裏付けをして日常の臨床の一端に便なればと思つてこの研究をしたのであります。

第三番目に骨端線と骨の長径成長の問題、第四番目に関節滑膜の活力と活動の問題、そして最後にまた、再び脊椎外科に帰りまして、特に椎間板の問題をとり上げて、山口講師の協力を得まして勉強いたし、これは未だに研究が続いて行なわれているような次第であります。この四〇年の間に戦争にぶつかりまして、先程わが戦友天兒教授が東一の勤務の話をして下さいましたが、足掛け五年、満三年九カ月応召しておりまして、私は軍陣外科を満喫いたしました。

これも先程、若松局長さんからお話がありました。箱根療養所の勤務の十二年の間は、私の勉強にとりましてはむしろマイナスであったかと存じます。しかし、私は、ひとつの社会事業をしたんだと自ら慰めて今日に参りました。

あの有名な松川事件の鑑定、これは私のホロ苦い思い出であります。今は亡くなられました日本医大の齋藤一男さん、東大の三木、この三人で同時でしかも各個別の鑑定をいたしましたことでありませう。勿論、結論は同じであったようでありませう。

それから私はマッカサーにならないうして、老兵は去るべ

し」という持論であります。それが、同席の若松医務局長さん、それから坂本前関東甲信越地方医務局長さん、牛場学部長さん、松林前学部長さん達の御心づかいによりまして、先程御紹介いただきましたように、既に昨年五月に村山療養所長としまして新しい職場が与えられて、これからの生き甲斐を覚えている次第であります。その上に後任といたしまして私の最も信頼する池田教授を得まして、私はまったく心残りがありません。この席をかりましてどうか新しい教室の主任者にも、私同様、あるいはそれ以上の御支援と御協力を賜りますように私からもお願いしておきます。

この様に私はその時々、その場所場所におきまして、まわりの多勢の方々の善意と好意にささえられまして、あるいは助けられまして、四十年の教職を無事に悔いなく終ることができました。程しあわせなことはないといわなければならぬと存じます。この年になりまして自分で自分がしあわせ者であると思つて程しあわせなことはないといわなければならぬと思つております。

すっかりした気持で職を退くことができましたことにつきまして、重ねて皆様に厚く御礼申し上げます。これをもちまして私の御礼の言葉といたします。有難うございました。

司会 有難うございました。続きまして祝宴にうつりたいと存じます。恐れいりますが岩原先生御夫妻を先頭に、前の方から宴会場の方にお進み願います。



岩原教授最終講義

「椎間板症」

池田教授

「私の臨床講義の時間でありませけれども、岩原先生の最終講義に変えましたので一つ御静聴願います。医学部長牛場先生お願い致します。」

牛場先生

「医学部では御存知の通り退職教授に何らかの形式で記念の御講演をお願いしているのですが、慶応医学の例会でやりましたこともあり、今回は学生諸君のカリキュラムの時間で最終講義ということになりました。」

他の教室ならば同窓の方々にも一部御通知申し上げた次第です。従って岩原教授としてはここで皆さんの前で御送りするという意味もありますので、慣例によりまして簡単に岩原教授の御経歴を御紹介したいと思います。

岩原教授は昭和二年この医学部を卒業されまして、当時軍隊にいかれたと思いますが、昭和三年から整形外科学の助手になり、昭和五年に講師となり、さらに昭和九年助教授となられたわけでありませ。

丁度戦争が始まりまして、昭和十二年（十六年）まで応召されてお働きになり、復員後もその関係で臨時保護院の療養所で勤務され、特に昭和二十年十二月から数年間、国立箱根療養所々長を兼任され御活躍なされました。

その間昭和二十一年一月に医学部の教授に就任され、以来昨年まで教授として御在職願ったわけでありませ。

その間御承知の通り、御活躍なされたわけでありませ、かいつまんで申しますと、昭和二十九年には日本整形外科学会の会長をされまして、その後学会関係は申しませんが、色々会長をされ、ごく最近でも手の外科学会とかあるいは、形成外科学会の会長を御歴任され、その他厚生省関係の審議会委員長では広く御活躍をされたのです。

なお昭和三十二年から三年にかけてはアメリカ、ヨーロッパを視察研究され、その後学校としましては、昭和三十四年厚生女子学院及び准看護院長をお願いし、昭和三十五年から一年間慶応義塾大学病院長を務められたわけです。

たまたま昨年五月に国立村山療養所長に転出されるため教

授を退職されましたが、医学部にあります停年制の一年前に御転出され、その後も後任の教授がきまるまで、昨年の十二月までは客員教授の教授職として、例年通り御診療をお願いしてきただけであります。

これが大体ざっとした御経歴なんです、ここで医学部としては、岩原教授をお送りすることで、真にお名残り惜しいわけでありすけれど、これまた致し方ないことでありまして、幸い御存知の通り整形外科教室は昔から岩原教授の御努力で、非常に日本で優秀な大学の教室として、発展されましたので、今後の憂いはないものと我々も信じております。

なお今後共色々の形で御援助いただきたい、又、いただける方でありまして、現に村山療養所も新しい資格で新しい方面に発展されると聞いておりますのでその方面で新しく出発されること、又、その前途を大いに期待してお送りしたいと思っております。

長い間、岩原教授が医学部及び病院につくしていただいたことを非常に万腔の感謝を通しまして、これから最終講義を拝聴したいと思っております。」

岩原教授

「学部長まででいただいた特別のお言葉をいただいて恐縮です。全くの臨床講義のつもりでまかり出て来ました。講演の積りはありませんので、その積りでお見逃しを願いたいと思っております。」

今日始めにお目にかける患者さんは、二〇才の男性で、仕事

は警察官です。Lumbago を訴えて来た方であります。

現病歴を申し上げますと、昨年七月下旬柔道の試合中に腰投げをやろうとして、腰がギクッとしたことがあるそうです。

当時近くの病院に入病し、注射療法などをうけ、九月十六日警察病院で受診しまして、Lumbal Disk といわれたそうです。十月三日入院して、Becken Extension 注射等をしたが左の下肢のシビレ感と、腰部の鈍痛が時々あったそうです。十月の終りに退院して、十二月七日当科受診、本年になって入院された方です。

プラカンの人達みて下さい。まずどんなものを考えますか？患者は若い人ですね。

① 「まず脊髄腫瘍」

若い人で腫瘍などありますが、どんな腫瘍ですか、それはまあ、珍らしいですね。

② 「やっぱり運動で急になったから Disk Hernia」それからその他に、

③ 「脊椎の骨折」

骨折だとういうものを考えますか骨折を考えても悪くない、柔道をやって腰をひねって腰がいたんだもの。

④ 「椎体」

椎体は起らない。

⑤ 「棘突起」

そう、腰をひねってもし骨折がおこるならば、腰椎の横突起の骨折、それから？

② 「靱帯の断裂」

靱帯の断裂は普通臨牀にはのぼってこない。

① 「まれだけどカリエス」

カリエス、それからもう一つあるでしょう若い人に、

③ 「脊椎こり症」

そう、こり症の前に脊椎分離症ですね。

年若い元気な人の Lumbago がある場合に、一番考えることは、今日では俗に椎間板ヘルニアといわれるもの。それから脊椎分離症。カリエスはこの頃では見事に減っている。一つ大体のねらいをそこいらにおいてみて下さい。

① 「Skoliose はなく」

やっばりみるには立たせてみた方がよい。

① 「やや腰部にて左凸の Skoliose がある。」

Rucken は余り rundlich でない著明でない」

円背は著明でない？ これが正常？ 脊椎をみるには後斜めからがよい。もう少し患者に密接して、

① 「それ程円背は著明でない」

いやこの頃の若い男の人にはこんなのが多いが、それがまさに円背です。若い男の七々八割は猫背です。

若い女の人は七々八割り良くなったのですが……。この場合は円背であるだけでなく、右の腰部仙棘筋を中心とした Musk ①が緊張してより上っている。

② 「前方にまげて」 Kr. 「ごたご」

② 「もっと曲りますか」

その場合に曲るかどうか。

③ 「Rumpf を beugen すると Rucken は steif」割合よく曲る。ただ腰仙移行部は少しつっぱる。

② 「右へ曲げて」

その時の様子をしっかりとみて、曲りますか。

② 「überstreckung は割合引弓のように曲りますが、その際 Schmerz を認めています。」

これは十分曲ってこない、Lumbosacral はよく曲るが Dorsolumbal は制限されている。

② 「下部腰椎に Schmerz を認める」左ですわね。

② 「Wirbel を klopfen する」

ずい分無造作にやるけれども、もっとていねいに、どこが痛いかわからない、腰痛患者だから下の方を調べればよい。

② 「どこが痛いですか」

叩打痛はどこにあります。背骨の数を数えるのにどこを Merkmal にしますか。

② 「ヤコビー線」

日本人ではヤコビーは第4 LW Sina の下方です。

やはり、LWIV に Klopschmerz がざります。とんどんみて下やご。

③ 「寝て下さい」これから足を上げますから痛みがあったら言ってお下さい。」

それは何を調べるのですか。

Lasegue の徴候

③ 「左はラセグー大体五〇度位です。

Straight leg Raising test です。アメリカ式にいうと。

④ 「rs は——」

両側同じですか、Lasegue は両側(中)ですが右側が少し弱い、大ざっぱにいうと、Laseguerr (中) ④〇という程度です。どんな感じですか、

P. S. R を調べてみますね。どうですか、ずい分叩いたですね。

⑤ 「PSR は bds. 消失している様です」(笑い)

PSR は消失しておられない、ちゃんとおるですね。普通ですね。

PSR は下腿の動きだけでは見逃します。Quadriceps の収縮をみなくては、⑥は ASR 一寸弱めかと思えます。

disc hernia を考えているのだからそれに沿って

④ 「親指を下にやっつ下さ。」

それは何の Muskel の力を調べているのですか。

この時に必要なのが解剖学と生理学だ。

④ 「N. Peroneus profundus 支配の」

それでは逆だ、前脛骨節を調べるなら脊屈筋だからどうする。

hernia を疑うならもう一つ大切な足指を背屈させる運動をする

「十分強さ」

それと一緒にもう一つ調べて

「Muskel Atrophie」

ここにありませぬ。hernia の時は

「Tibia Kante」

そう Kante 外側ですね。Tibialis anterior の Atrophie も著明でなうですね。

(Sensibilitat Test)

それはどこをやっていますか、これを調べる場合もやはり神経支配を考えながら調べる。無造作にやると意味がなくなる

「L5~S1 だけ」

下腿の外側、N. peroneus の支配を調べています。

これはよくわかりますね。

Kr 「2 分さ」

にぶい、これとこれは？ これはどうです。

今調べてみますと、左 Unterschenkel 外側上部より足背にかけて軽度の知覚障害があります。

大小便は出来ますか。そうするとどうですか、知覚、運動、反射を考えてありますか。

① 「あってもよろが、Lasegue 等軽いしあっても軽度だと思えます」

そう、X—P を一番左二枚は単純写真です、何か異常は

② 「第 VII W を頂点として左凸の Skoliose があります。

腰椎柱が右に倒れているようです。それだけですか。

③ 「Z—Raum は特に狭くなっている」

我々がみると LWIV—V 間は一寸狭いかなという所です。

この患者には椎間板造影をやっています。これは諸君には

一寸無理だと思いますが。

IV—V 間は正面でも乱れ、側面でも後方にとびでて、軟骨瘤を

思わせる。少くともこの患者には何があると思われまますか

①②③「disc hernia」

もう一人患者を用意してありますが、時間がないので X—P 22才の女性、仕事は看護婦、四年前より時々仕事で Lumbago あり、気胸、Karies と診断された事がある。その後某大学で X—P の結果、Karies は否定されたが Gips Bett を一年程使ったことがあります。

一昨年、某大学整形外科で否定され、三番目の大学で Kaies といわれた。その他二、三の病院を歩いて、昭和四十一年八月我々の科を受診、今年になって入院した患者です。(X—P を見て)

「第IV～VIIW 椎間板を中心に上下の椎体面に陥凹がありません。

指でおされたような陥凹ですね。

「その周囲に硬化像がある」

Diskographie がある。この場合まず IV 間はほぼ正常に近い、正面像で比較的まとまっています。

側面像でも円板状になっている。しかしその上と下では椎体内に Schattmittel の侵入像がある。これは「Schmorl の結節」第三四椎間板上縁 Kantenabtrennung の侵入像がある。これは「Kantenabtrennung」そう、これはくいぎっついています。第三腰椎前下角を Schmorl の出来さえないといっています。これはむしろ Kantenabtrennung といっています。

英語ではいい言葉がない、日本語では椎体偶角分離症と称し

ておる。

先程は disc hernia 今度は Schmorl 又は Kantenabtrennung 一連の疾患と考えられるが、

「disclasion」

KO の先生だから disclasion という言葉をおぼえてくれたありがたい。

これから少し我々が主張して来ている disc hennia について話したい。只今おめにかけた俗に disc hennia といわれたもの専門家に Schmorl の結節 Kantenabtrennung といわれる疾患は一連のものと考ええる。この他に一部の人が言う椎間関節の動揺性 facet 症候群は内科の人が好きな名かもしれませんが Ghondley さんがいいでした。

その他老化現象の変形性変化—Osteoarthritis を含んで椎間板症といった方がいいと数年来提案してきました。これは五、六年間教室をあげた研究の結果です。これらの変化は disc の変性を基盤としておこった病態である。Schmorl でも Kantenabtrennung での hernia も各々その病態ですが、基盤には変性がある。

別の言葉でいうと、世間でいう disc hernia も Schmorl も Kantenabtrennung もその終末の変形性脊椎症もそれぞれの現われ方にすぎないという解釈であります。Deformans はなれの果てというのが岩原の考え方でこれは頸部であってもよろしい。この考えに従いますと、さき程の Disk Hernia は髄核の乱れたのが後方になっっている。Schmorl は軟骨板及

び、閉鎖板の弱みにつけ込んで椎体にくいこんだもの、椎体にくいこんだものが椎体の辺縁を分離させたものが隅角分離である。

椎間板がひどく変性すると椎間板が *buffer* としての役目を果しきれなくなる。

前方における椎体間の固定にも破綻がくるし椎間関節での動揺性もくる、当然椎間関節の *rocking*、又、*Chomley* のいうフアセット症候群が来ても不思議はない。

ここ数年来、日本整形外科学会では、分離のない迂り症が非常にやかましくいわれている。ことに後方迂り症の症例報告がありました。我々の考えでは椎間板に変性があり、前方椎体における固定がゆるめば当然異常に可動性が出てくる、だから後方に迂るのも、分離がなくて前方に迂るのも当りまえである。

若い頃は、脊椎分離のない前方迂り症の解釈に非常に苦しみました、我々の学会の先達の一つ主領でありました、神中先生は分離があり、迂り出した位置で、又、分離部が癒合したものと解釈をされたことさえありました。

我々の現在の知見からするなれば、分離がなくて脊椎が前方に迂ろうが後方に迂ろうがちっとも不思議はない。これは椎体間の固定がゆるんでしまっているということでもあります。分離症、迂り症まで *disclusion* に入れることは、まだふんぎりがつかないが、少なくとも分離症があれば、必ず *disclusion* が大なり、小なりあります。

これは我々教室の *Discographie* を中心とした、あるいは内圧を測定したりした研究で明かであります。スライドをちょっとお目にかけてみます。entrach の X-P (c) に側面わかります。我々は普通の直すぐを *Neutral Position* 中間位といっておりますが、これは普通の側面像といっております。

これを最大前屈、後屈すると背骨が迂ります。この固定が不十分ならば当然であります。話が少しそれますが *Halswirbel* でございますとこの間が非常に口があいたりしぼんだりする。前屈すると口があき、後屈すると口がしぼんだりするという現象が頸部などではよくあります。

スライド、どんどんやって下さい。これは前後屈の像です。これはごらの通り変性がずい分高度にあります。

椎間板造影をしますとまんじゅうのようになるのが普通で、二重になりまして重ねもちになっているのも正常です。これは全部前後にのびきっていますから正常の場合と全く違うことが想像出来ます。

これが今の標本です。相当高度に変性しているのが分ります。

造影剤と一緒にメチレンブルーを入れてとったものです。こんなに広がっております。これは椎間板ヘルニアのあまり著明ではありませんが、*Skoliose ischiatica* のつもりです。

これはミエログラムの正面像です。ここに大きな陰影欠損があります。ディスコグラムの側面像でもり上っているのがよく分ります。

これは典型的 Schnorr。普通写真に出ないちょっと疑わしいものでも椎間板造影をやりますと、しばしばこのようにきれいにできます。この所にチョコンとへこんでいるのが立派に出ます。

これはKantenabrennungになる前段階と想像されるものです。我々は Kansenbrennung, Schnorr の結節まで臨床的意義をときつあります。

池田教授が手術が好きで、標本が欲しいといつとこつそりとしてくれます。これは解剖標本ではありません、手術標本です。これは後方の Kantenabrennung、これは比較的珍しい。後方のは馬尾神経根症状が出てくる恐れがあり、これにも我々はメスを加えて One することがあります。

ともかくも我々が現在 disc lesion という概念のもとに一括している病態の中で、文字通りの椎間板ヘルニアは少なくとも、第二次大戦の少し前、一九四〇年頃アメリカでは Lumbago の原因として有力にとり上げられてきました。日本では、一、二足おくれ戦後発達開拓された分野であります。

少なくとも、Lumbago、非常に多くの場合、坐骨神経痛を伴なう Lumbago を二応 hernia と誰もが認めている、逆に著明な坐骨神経痛を伴なう Lumbago は hernia であるという見当をつけている。将来内科へ行く人にに特にお願したい。ここに Skoliosis ischiadica をみるものは坐骨神経痛といひ、注射してもらつてはかりいては困る。神経痛という言葉を使う医者はどやブ医者だ、真面目な医者は神経痛という言葉を使わ

ないというのが岩原の持論であります。

この場合でもそうでありまして、定型的な坐骨神経痛は病態として dis chemia であることが多い。

ところが薬がききすつてこの頃 Lumbago があればなんでも hernia と思つてしまふ。一部のものがそうなのでありまして、多くの Lumbago はそうでないといえます。

岩原の考えている腰部椎間板症という言葉を理解して貰いたい。Lumbago の最も有力な原因として、今日では Lumbal disc lisan があるという考えであつて、今世間で使われている腰部椎間板ヘルニアと言われている言葉を、椎間板症をおきかえていただければ文句はない。

若い頃我々が腰痛の最も大切な原因として考えたのは、先程 プラカンが言つたように、Karies であつた。

今日ではそうではない。ことに若い人の Lumbago をみる時はまず Disclasion を考えてもらいたい。

腰部椎間板にはいろいろな現われ方がある。そして坐骨神経痛を伴なっているのも狭い意味で hernia であるが、コブによらず Lumbago の原因となっているものも沢山ある。単に変性だけでも腰椎柱の固定が不十分でありますと Lumbago が出る。不安定性だけで痛みがおこつても決して不思議はない。関節包等に二次的な影響を与える。

逆に Ischias を伴なう Lumbago の有力な原因として Lasion があるところを強調した。

その他に特殊な形として Schnorr も決して少なくない、単

純写真でなんともなくても、一寸でも疑わしいものに *disco-graphy* を行なうと立派な Schmorl の結節が出てくる。Kantentabrennung もそうそう珍しいものではない我々の若い時分には報告されましたが、Schmorl の結節とか Kantentabrennung に臨床的意義をほとんどおかれておりませんでした、だが岩原にいわせればこれも一つの病態として取り上げるべきである。

先程お目につけた様な患者は、だからほとんど Ope する。勉強の意味もありますが、ごっそり病巣をとって、そこに自家骨の移植をしまして不安定な椎間を固定してやりますと、長年の頑固な腰痛がとれてきます。

世間で *hernia* の Ope をして 20〜30% すっきりしないという正直な人の報告がありますが、これは当然でして、その原因として Ope の仕方が悪かったとか、*myelo* が悪かったとかいうことを反省の材料としております。後から入って *disc hernia* のコブをとっても、その後 *disc* の機能不全が残ったり、増進したりするので、*ischias* はとれたが、腰痛がすっきりしないというのが当然です。

我々は新しいものにはある期間保存的療法をしますが、ある時期ではちゅうちょなくメスを加えて根治する方針をとっております。

disc hernia はもちろん、Schmorl Kantentabrennung も、さらに単に変性の時でも、高度で不安定性が加われば、メスをとり脊柱固定術を行なうのを原則としております。

単に *hernia* も世間の人のようにコブをとるのみ、又は逆に

片っぱしから骨をうめるといことになしに、手術を同じ様にやるとしても、若い人で病歴が短くて単にコブが立派にあるだけだったらコブをとるだけ、これを我々は *Love* の手術といっている。これは *disc hernia* のある高さで偏側に入り、弓間靭帯をとるだけで、又は展開が不充分のときは上縁の椎弓を一部とるだけでやります。

これは一番侵しゅうが少ない。うまくすれば局麻で、出血も三〇〜四〇cc、三〇〜四〇分位。後もたいして心配しなくてもいい。時々コブがなくて手をこまねいて退却するが、そうでなければ無理に線維輪や後縦靭帯にメスを加えて髄核をひきずりだす人もいますが、我々はそういう事は手を加えずそっとしておいて棘突起間に自家骨を移植して制動衛を行なう。人まねで考え出したんですが、腰部の前彎を減少した位置で Down 間に自家骨を移植して間に合わせる。コブをとっても又、コブのあるなしに拘らず線維輪や後縦靭帯が変性している時は同じ様に後から出来るだけ椎間板を、少なくとも上下の軟骨板までとって代りに腸骨の全層骨移植をします。これを *Choward* 法といいます。家で *Love* をやらず、*Lumbago* が来たものは前方から侵入して我々のお家芸であります、腰椎部の腹膜外前方侵しゅうにより椎間板をぬいて自家骨移植をします。

こういう風にきめこまかに手術の処方、治療の処方をしていきます。大部分の人は大きなことを言っておっても一つの手術方法しかやっております。

我々にいわせれば、後から *osteoplastic hemilaminectomy*

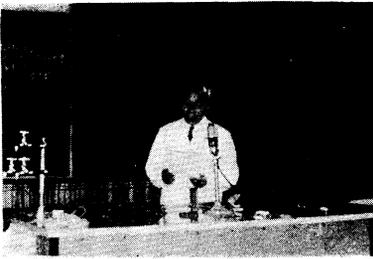
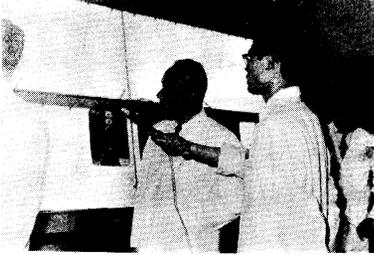
なんてやらす、後からはラブを、それがだめなら、クローワードで固定します。これらの再手術には前方固定 Schmoft Kantatabrennung には前のは前から、後のは後から固定します。

従来別々に考えておりました腰部における椎間板性のいろいろの病態、これを一つにまとめた椎間板症という新しい概念これは岩原の作った言葉ではありませんが、こういう考え方で解釈するのが便利なのであります。

五、六年來、そろそろ、慶応を去ることを考えなくてはならない頃から、又勇気をふるいおこして行なった脊椎外科の結論がこれです。これは単に病理組織、解剖だけでなく色々な方法でやりましたし、実験動物にも、人間に一番 Wirbel の似ている猿を使い何十と惜しげもなく殺しました。むずかしい所では理研で光弾性実験をやりましたし、又、その他椎間板の内圧や緊張度を測ってやったのがただ今の結論であります。従来いくつかの名前で呼ばれていた腰部における病態、病態は椎間板原性のものであるから椎間板症というべきであるというのが私の考えであります。

これを今日の話の結びにしたいと思います。





昔の思い出

前田 友助

大正十年冬、私が慶応医学部の整形外科につとめるようになってからやがて五十年近い年月が流れた。本科は初めは整形外科とはいわずに整形接骨科と呼んでいた。何時頃から整形外科と呼ぶようになったのか私はよく知らない。当時はまことに徹々たるもので医局員の数も十に満たず主に骨折等を取扱っていたもので、業績の発表等も極めて少なかった。まもなく関東大震災となり私は協調会の臨時病院を受持ったりして非常に忙しい思いをしたのであった。私が慶応医学部を辞して開業医となつてから暫くの間、桂秀三君が同科の主任をしていたが、まもなく前田和三郎氏が来任され、それから慶応の整形外科は非常に大きな進歩を遂げ多数の患者に色々と新しい手術や処置を行なうようになり、私はよそ乍らこれを見て実に慶ばしい事であると思つていた。

前田教授も数年前に退職され、その跡を岩原教授が襲いでからは同科は益々発展をし、日本全国でも筆頭に挙げべき整形外科となつた。これは岩原教授の著しく優れた頭腦の力である事

はいう迄もない。その岩原教授も既に定年に達し先般退職されたのを知つて私は実に年月の歩みの速いのに驚いている。私自身まだ何とか毎日働いてはいるが、体力も頭も年と共に目に見えて衰えて行くのは当然で何も不思議な事ではない。

岩原教授は整形外科の多方面に涉つて色々の業績をなし遂げられたが殊に私の知る範囲ではその脊柱脊髓外科方面における功績は極めて高く評価すべきである。今日外科方面の進歩は実に目覚ましいものがあつて三十年前まで所謂 *Noi me tangere* としても誰も手をつけなかつたものが今日では多数の人によつて処置せられ立派な効果が挙げられるようになって来ている。脊髓は必ずしも以前から *Noi me tangere* ではなかつたがそれでも今日多数の刀を用いる医者が進んでこれに手をつける様になつたのは岩原教授等の努力があつて大いに力あるものと信ぜられる。脊椎より等についても同教授は新しい方法を多く行なつて後進の歩む途を開いている。今後同科の進歩は益々著しくなつて行くに違いない。岩原教授は定年には達せられたがまだ絶対には老人ではない、今後何十年かに涉り学界の先に立つて指導の役を果たされん事を希つて止まない。

思 い 出

白 田 正 雄

昭和五年大学四年のポリクリ。当時整形外科は、旧病院庁舎のうしろに、出来て間もない頃である。そこに軍隊から帰ったばかりで、ボーズ頭のテレビで見た青年坂本竜馬を思わせる、鬨志満々、「いき」のいい若い助手がおった。これが若き日の岩原先生である。当時医局は外科と一緒で、整形外科専属の助手は、岩原先生だけだったと思う。

我々九回生は、二年の時整形外科は、前田友助先生が担当されたが、三年の時前田和三郎先生と交代された。はじめは、病院の階段講堂で講義されたが、後には病院玄關上の平面講堂だったと思う。昭和六年卒業。

「甲種合格」の故を以って、九月海軍に入った。処が、その九月二十七日に満洲事変が勃発。更に翌七年一月には上海事変と飛火し、正にその火中に入った。更にその翌年は連合艦隊で鍛えられる等々で、海軍に残留のこととなった。それから八年、昭和十五年三月、海軍々医学校専外学生を命ぜられ、母校の大学院で整形外科を学ぶべく内命をうけた。そしてある日、久しぶりに、整形外科教室に前田先生を訪れた。滌刺たる青年教授も、八年を経て、前髪中央から半分だけ白髪となられ貫録に威圧を感じた。かくてその四月一日から、教室員として

御指導をうけた次第である。当時岩原先生は陸軍に応召され、陸軍病院にて脊髄損傷患者を担当されていたが、時々教室にこられて、何かと御指導御助言を賜った。

時々天児氏の名前の出たのもこの頃である。その頃野崎君は大久保病院、伊藤、大内、左奈田、小柴、富田、西、等々の諸君は陸軍に応召され、小泉講師を中心に森田、蓮江外若手の諸君が留守番をしていたが、時々教室で歓迎、送別、壮行等々、色々の会があって、岩原中尉をはじめ、軍服姿のお歴々が集まられた。当時は、「脊髄外科」の宿題報告がすんで間もない頃とて、活気にあふれ、あれや、これや、さまざまの怪(?) 気焰をうかがったものである。やがて、前田先生から「脊髄硬膜」のテーマを頂いた。目をはらして、「脊髄外科」時代のホルマリソリン漬脊柱をいじったのも思い出であり、又、横浜の整形外科集談会への途中、前田先生が、「演説をする時は、その原稿はすぐ印刷に出せるようにしておくことだね」と申され、科学の厳しさを強く教えられた。

昭和十六年新潟大学における第十六回整形外科学会。それは小さい階段講堂で、会員四、五十名だったように思うが、そこで、今迄の研究発表の機会を与えられた。ついこの間、古びた整形外科学会雑誌に当時の記録を発見し感無量だった。昭和十六年十一月、日米関係は悪化の一路をたどった。中央では何か期するところがあったのであろうか、学業中途で呉海軍病院に転勤を命ぜられ、同院の整形外科を受持った。出発に先立って、送別会を開いて頂いたが、その際特に海軍の水交社に御案

内し、歴代海軍大臣の肖像がかかげられた食堂で歓談した。これも思ひ出の会である。

かくてその十二月八日開戦となった。早速その年の暮にはハワイ航空戦の戦傷者、翌年五月には珊瑚海々戦の、そして六月にはミッドウェー、更に七月には第一ソロモン海戦のなまましい戦傷者を收容処理した。その間、山本元帥（当時大特連台艦隊司令長官）が二度患者慰問に来院され、説明役をつとめた。ミッドウェー患者、それは特に極秘患者だった。その時丁度西軍医大尉が私の病室を訪ねられたが、御案内出来なかった。今でも恐縮に思っている。戦傷者治療のかたわら、学位論文をまとめた。その跡始末について、岩原助教に大変御厄介になった。論文通過したのは、昭和十八年、第二艦隊旗艦愛宕軍医長の時であり、ラバウル港内で爆撃をくらった直前である。改めて前田、岩原両先生に感謝を捧げたい。その後間もなく再び呉海軍病院に戻ったが、池田教授が新進軍医中尉として異病に着任したのはこの頃である。海戦についての「思ひ出」は、先に「ふるさと」に二回投稿した。

戦後、前田先生がビルマからお帰りになって、岩原先生の埼玉療養所の官舎におうつりになった頃、お見舞したのも、つい先頃のような気がする。

昭和二十三年一月現在の小諸に開業した。郷里に近い中心町の故である。その頃岩原先生は陸軍病院時代の脊髄損傷患者をつれて、箱根療養所に兼務された。昭和二十四、五年頃とと思う。療養所長会議の途次、私の家をお訪ね下さった。戦争時代

のX線写真を中心に、いろいろ御教示をうけ、御高説を拝聴したが、お帰りの時、「これは日本一の病院だ。」と申された。戦後のドサクサ時代、小諸に開業場所をさがしたところ、ぶつかったのがこの家である。大きい茅ぶきの家老屋敷。間敷はあるが中廊下のない昔流の間取り、左右に仲間がいたという長屋づきの門があった。チャンバラ映画に出て来るあの門だ。ここで当時の最新医療（？）をやるうというのである。成程「日本一」であろう。思えばその前年が熊の平事件で、埋まった重傷者十九名が軽井沢病院に收容された。そこへ我々小諸医師会員が召集され、応急手当をした。時こそ来たれりと、海軍仕込みで大いに腕をふるった。大腿骨折その他の重症者が八名あった。当時軽井沢病院は夏だけで内科の院長、只一人。さてあとどうするかは、我々の権限外で帰った。処が翌日、MPの救急車が古色蒼然たる私の門前にとまった。件の患者をつれて来たのである。青い目の兵隊さん、車から降りて目をパチクリさせて、あたりを見回していた。日本の感想や如何と思わずすぐったな。先輩の加賀山鉄道院総裁が、この門長屋の病室に見舞に来られたのも、その後間もない頃である。

昭和二十九年新築の病棟が出来上り、現在の場所に移って、一応病院らしく態勢が整った。この頃から更生、育政、医療法が発足したが、この指定病院は長野県では、たまたま井上君が勤めていた関係で、国立松本病院だけでこれが最初であり、信大には未だ整形外科はなかった。信州で整形外科を標榜して立上ったのは私が最初である。従って昭和二十三年開業以来、

「整形外科とは何ぞや」、のPRが大変だった。病棟が出来たのを機会に、岩原先生のお勧めに従ってその指定機関の申請をした。審査会にて高木会長の付添で来た佐藤君（日大教授当時東大助教授、元呉海軍病院副官）の証言もあって、無事通過したと後に御通知をうけて感激した。昭和三十六年岩原先生が病院長に就任された。当時は病院再興の重大時期であり、大変な役目であった。大内君が「男と生れて慶応に学び、教授となり、病院長となる。これを男子の本懐……」ずばり祝辞を述べられたのが印象にのこる。負け戦でも艦隊司令長官を誰かがせねばならない。その心境を読んだことがあって何か祝辞を申し上げ、万才三唱したのが記憶にのこる。

世の中で意地のわるいものは①天気、②患者、そして③病氣と思う。切角いい計画を予定していたのに天気がわるくなる。さて出掛けようとしている時に、急患が来る。やっとこれで安泰に仕事が出来ようになったと思っていると病氣になる。これが大意地悪である。新築が出来て、さてこれから、うんと稼ごうとした頃から手が荒れて来た。それから三年、遂に入院手術を要することになって、岩原先生に相談した。マツサージ師のお世話と留守番に医局員をお願いした。一週間位と思ったら、「君そんなことじゃだめだよ……。」結局二週間宛四名の方にお世話になったが、その第一回が松井君である。その後もこんな風に二回にわたってお話になった。いつも「見殺しにはしないよ」とはげまされた。地獄で仏に逢った思いである。斗病十年、落ちつくところに落付いた。又元氣を出して働けそう

である。思えば「いい兄貴」をもったものだ。





所 感

「反省と努力」

野崎 寛三

進歩を意義あらしめるためには本人の反省と努力が必要である。私は運あって東京医学専門学校への教授赴任が昭和二十二年二月、従って現在在職二十二年になる。そして当初の第二外科学担当から整形外科学講座に転じて早くも十五年余になる。赴任後、招かれた期待に反して第二外科と変更されたので教室開設のため、現在の東京医大、外科の牧野性義教授を当時、講師として迎えたのであるが、その後整形外科学教室を新設するに当っては整形外科の性格を確立するために、慶応から井上雅夫助教授を迎え、そして現在の永井隆助教授に至っている次第である。この間、学会会長に就任し、私の教室も慶応の分家と

して成人並びに成長して来た。しかし、その背景として前田、岩原兩名誉会長以下同窓諸氏の親切なる御力添があった事に對し心から御礼を申し上げねばならないと痛感している。

—たまたま私は昨秋、還暦の年を迎える事となり、私の教室員が祝事をするというので、平均寿命が延長された現時代に今更の祝意でもあるまいとの私の提言で、会合を持つのなら私の六十歳確認会、即ち退職迄の期間になすべき事に対する相互反省会とするならばというので承諾をしたものの、結局宴会の席上で赤いものを着させられてしまった。又、更に教室代表者は遠慮深く？ 私に今後暴飲を控えて欲しいと提言した。その時私は職場と同席した妻と家族に對し強い自責感に襲われた。私としては私なりに今まで、一生懸命に努力して来た心算ではあったが、やはり反省と努力が不足であったのか。その点、学位指導論文の数は三十余点に過ぎないし、よき弟子、教室後継者の養成という重責もよく承知している心算である。今後教授職にあるものとして更に多くの努力が必要である。

以上、諭吉先生の処世訓「運、鈍、根」を肝に銘じつつ自責する次第である。

ハイキングの思いで

伊藤 盈爾

わたくしの入局当時は、医局員は、わずか数名にすぎず、厳格な中にも団ランがあった。夏もすぎ、秋風の立ちはじめの頃に岩原先生が医局ハイキングを提唱された。毎週か隔週の日曜日に二十五キロ程度の山歩きをしようというのである。わたくしは歩くのは嫌いではないし、チョンガーでもあり、弁当は先生の奥様がつくって下さるし、まことに気楽である。しかし、ハウプトアルバイトに追われ、家庭の事情などいろいろとおありになる諸先輩はそう簡単に賛成できないふしもあったように思われる。それでも毎回四、五名の参加者があったのだから、天皇という言葉はまだ医局に存在しなかった当時でも、先生の一言はかなり偉力をひめていたと考えてさしつかえない。

医局員は健脚ぞろいであった。満洲の広野できたえた脚、今なお若い者と山登りを続けている脚など、自動車でご通院になる昨今の若い先生方の及ぶところではない。一日二十五キロといえは相当なもの、しかもかなりの急ピッチである。途中で一休みしたくとも、それを口に出してはコゲンにかかわると思っていた人はわたくしだけではあるまい。一先輩の曰くに、岩原先生は、きれいな花があるといつてはよく立ち止まられる

が、あれはお休みの口実ではないかと。たしかに先生は、しばし道ばたにたたんずんで、可憐な花を賞るのがお好きであった。当時先生の園芸趣味は、現在の如く医局の内外の人口に膾炙されておらず、ためにつまらぬ憶測をされて、さぞ不本意であつたらうとわたくしは推察する。

このような特訓により、健脚はますますみがかれて、一日二十五キロ位では、翌日何らの疲労ものこさぬ程強力となった十一月末の出来ごとである。

例によって岩原先生の提案で、金時山二十五キロのコースがえらばれ、五人の参加者は日曜の早朝、新宿駅の小田急ホームに集合することが決定した。

ところが、当日はあいにくの小雨模様、十一月とは思えぬ肌寒い朝である。約束の時間が近づいても、先生とわたくしだけで、三人の先輩の姿はみえない。どうしたことかと思廻すうちに、まずうつむきかげんに現われたのがA先生の奥さんである。いかにもいいにくそうに、「実は主人が急に体の具合が悪くなりまして」と医者のお奥さんにしては極めて抽象的なお言葉である。それにしてもあと二人はと思うまもなく、B先生の奥さんが歩みより、実はと同じ態度で同じ口上をなさる。まずここまでなら、少々変だとは思っても、二十何年後の今日、改めて報告する価値ありとも考えないが、続いてC先生の奥さんまでが、大切なご主人を病気にするに及んで、いくら鈍感な僕でも、はたと感ぜざるをえないではないか。善意に解釈して、昨夜お三人がご一緒にお飲みになって、何かに中毒でもされた

といいたところだが、それにしては、この日の天候がよろしくない。かくいうわたくしも、内心中止を望んでいなかったわけではなく。ちらと先生の顔を横目でうかがったが、先生は平然たるもの「でかけようか」と一言、電車に向って歩き出されたのである。

車中では、空ばかり気になる。しかし、雲はますます濃く、雨はますます繁く車窓をうつ。目的の駅におり立ったときは、まさに本降りとなり、冷気が一入身に滲みる。この天候ではいくら岩原先生でもと、ひそかに中止を期待したが、先生は軽く一わたり空を眺められただけで、無言のままマントをご着用に及ぶではないか。必然的に僕も同様の行為に移らざるをえなかったのである。山のふもとに着く頃、雨はますます激しい。

金時山は急坂つづきで、巨人の長島が前年の不振をとりかえさんと、山ごもりをしたところと聞く。二人は黙々として登る。雨はいつしか雪にかわり、人っ子一人通らず無気味でさえある。あたりを眺める余裕すらなく、ただ木のまから落ちる雪が目に入るだけである。快よい青空のもとで自然を楽しむのがハイキングではないか、などと、愚痴をいってもはじまらない。とに角、くるところまできてしまったのだ。後は雨が降ろうと槍が降ろうとひたすら歩くよりほかはない。

かくして途中一回の休憩もとらず、最後の急坂も一気に登りきって遂に頂上をきわめた。ところがである。何たる奇蹟、何たる感激、忽然として雪はやみ、雲の切れ目から薄日さえさし

はじめたではないか。山頂はうっすらと白銀に被われ、見渡す山々の清らかさ、雄大さ、しかも征服者はただ二人。さすがの先生も喜びと安堵の色をかくせないようだった。ただ評判の金時娘が不在だったのは少々心残りではあったが、この天候では止むをえまい。

苦勞のあとのあまりの感激に、あとのことはあまり記憶にない。ただ、また大分歩いて箱根療養所につき、西先生のご歓待をうけ、密柑を沢山頂戴して帰ったことだけを附記する。

ごつつ あんでした

久保義信

相撲の知識は甚だ乏しい一人であるが、おすもうさんの使う「ごつつあんでした」という言葉は日本語の中でも粗朴で親しみやすく、案外情がこもっているので大好きである。

横綱が優勝した時も「ごつつあんでした」で随分沢山の意味が通じるらしいということを新聞で見たことがある。

そんな言葉を思い出して、岩原先生に何となくごつつあんでしたと申し上げたくなったのである。

すこぶる感のよい先生はこれだけ申し上げれば充分すべてを周知されるに違いない。

が、同窓会の役員任期中に「ふるさと」の片隅に何か書けと

いわれた手前、少々駄文を続けさせて頂く。

先生が教授退職に際して、教授会で述べられた言葉の中に「私はなすべきことは十分にさせて頂いた。過去を顧みて遊ぶ満足である」という意味のことがあると漏れうけたまわった。つまり、ごっつあんでしたということであろう。

そして私達弟子どもも、先生からうけたあらゆる御薫陶に對してごっつあんでしたといいたいのである。

かくして先生は本当に幸せなお方であるとしみじみと思うのである。

先生は「生のまま」のこと、「ほんもの」が特に大好きなようである、つまり曲っている——にせもの——が大嫌いといつてよい、これが相当激しいのである、「竹を割ったような」とはよく聞く言葉であるが、その竹が寅猪の寅とびったりする。それだけに折々損もされるが、これもいたし方のないことと弟子共は胸にたたみこむのである。

先生はまた、好き嫌いの別を實にずばりといわれることが多い、私はどちらかという嫌いと嫌いという表現が大変消極的になってしまう、生れつきらしいので（ボンクラの証拠と自認しているが）しばしば羨ましく思うのである。

学問は条理を明らかにするものであるか、先生のこの割り切り方が教授という職域において大いに役立ったのであろう。

「追いついて、追いつく」これは岩原先生の弟子に對する今も変らぬ大鉄則である、先生らしい指導言である。水泳や、陸上競技（かけっくら）で、先生がムキになって勝つことを考えら

れた若い時からの根性から出た名言であろう。

慶応の整形外科はこの根性を最もよく引きつがなければならぬと思う。事実この点から見ても、池田教授就任以来教室のムードの中には正しくこの勇ましい言葉が新時代のいぶきとあって、脈々と流れ出しているのである。

私は同窓会の一員として最近の教室をかいま見て、大いに意を強うしているのである。むしろ、張り切りすぎて、肝心の池田教授が、いかに頑健とはいえ、のびてしまわないかとはらはらしている一人である。病氣にも急性のものや慢性のものがあると同じく、長距離にもむくような羅針盤の使い方もお忘れないうように、なまけ者のたわごとというか、年長者の老婆心といおうか、そんなことを真面目になって考えてしまふ今日の頃の感想である。

その半面、若い教室員各位には、教室で勉強する時代位はみんなが教授になる位の意気ごみで頑張って頑張って頂きたいと思うのである。

教授になるかならないかは天の定むるところである。私なんかほんくらながらも自分のペースで精一杯、教室時代は頑張った心算である。入局当初から今日あるを計算して歩んでいたら、今一層グータラになっていたに違いない、というよりは一昔、二昔も前は、自分がどうすればどうなるということは考えずに、今から見れば至って天心爛漫であったかもしれない。自分としては精一杯力んだところで遠く顧みれば大したことはない。ましてや、はじめから功利打算の道を選ぶとしたら問題に

はならない。合理主義の美名にかくれることは許されないといいことである。

人生は短くあるが、また長いものである、現実の相手をけ落すことだけが追いこすことではない。急がば廻れということも少なくないだろう。大世帯になった最近の教室はすこぶる多方面の人材を求めているに違いない、学会のすべての分野で、追いついて、追いこさなければならぬと思う。追いつく必要がない面が勿論少なくないが、人に先んずるエネルギーは同じように必要であろう。そこに岩原先生のロマンが生きてくるに違いない、哲学ともいってよからうか、私は先生のこのロマンがこれからの先生の人生を美しく飾るものであると信じている。

同窓会の力は現教室員の力によって伸びもするし、縮みもしよう。懇親の意味が一つに溶けあって、そしてこの両者が大きな一つの目的をよく見極めて伸びてゆく、強く歩む——これが「ふるさと」であり、われわれ同窓会の使命であろう。

最後にまた、力んでしまったが、これをもって、岩原先生の名誉教授御就任の祝言としたい。

手術の想い出

泉田重雄

大抵のことは忘れて了うのだが、手術場の先生のお姿は昨日のこの様に活々としている。先生の脊髄腫瘍手術の大半は不束乍ら第一助手を務めさせていただいた。はじめは勿論アシスタント等というものではない。レジスタントで、先生も随分我

慢されたことと、今にして恐縮に思う次第である、稍々馴れて漸く手術の助手がどんなものがわかって来た。助手は手術を手伝うものではなく、術者を助けるもので、術者の意図を素早く察して術者が施術し易い様に事を運ぶのが務めであると知った。脊髄腫瘍の手術は高位の決定、体位の選定に始まる。体位の頸椎では特に重要で、はじめは只前屈しさえすればよいと考えて無闇に強く前屈、伸展させた、頂部の筋、靱帯、硬膜までが緊張し過ぎては却って工合の悪いことと悟ったのも、先生が棘突起列から筋を剝離されアルビー鑿の進みに応じて筋鈎を次々移動してゆく呼吸を呑み込んだのも大分回を重ねた後のことであつた。御迷惑をおかけしたことである、椎弓列の展開を終り、愈々椎弓蔽除の段では、手術野を無血に保つことが重要である。先生の心、眼、手がピタリと揃って、次の動作に掛かれる時、手術野が無血でなければならぬ、しかも先生が無血の手術野を見られてどこの骨を絞られるか咄嗟に判断されるだけの時間が必要である。食塩水ガーゼをどの位の塊にして、どの瞬間まで創内に置くかの心配りが必要であつた。快心の助手を務めさせていただいた事が何度位あつたであらうか。

大休先生は恐い先生ということになっておられた。然し意外に手術場では叱られた覚えがない。心の平静が正しい手術の第一の条件であることを身を以て示しておられた。黙って時間をかけて、丁寧に手洗いをしておられたものである。

小児病院に脊髄腫瘍はない、一昨年慶応で第一、二頸髄前方、右寄の大きな腫瘍を鮮に剔出された時が最後のお手伝いであつた、又、折があれば又、私でよろしければ、いつでもお手伝いさせていただきたいと思う。



座談会

『岩原先生と教室』

出席者

第一部 野崎、伊藤(原)、大内、西平、西、伊藤(盈)。

藤(盈)。

第二部 伊藤(盈)、池田、久保、田中、今中

松井、野口、矢部、伊勢亀。

大内 後輩の私の司会でおがましいのですが、糸口を切らねばなりませんから。全部録音をとって都合の悪いところは後で消しましょう。

伊藤(原) 消すのは盈ちゃんに一任しよう。紳士だから。

野崎 最初僕達の入った頃から追いましょう。

大内 僕は昭和九年に入りました。島田さんが外科に帰り、堀田さんが寄生虫に行つて、野崎、畠中、竜野、伊藤(原)などの新進気鋭の人がいました。標本室というきたない部屋にね。大きさは十畳位かな。前田先生は教授室におられ、岩原先生以下この部屋に同居で、都合のわるいこともありましたね。夜帰るにも帰れず……。

伊藤(原) みんなよく働きましたね。わからないことは皆野崎先生にきいた。

大内 よく教えてくれましたよ。誰にも、面倒がいいから。

西 整形の先輩のいいところは、みな角をたてないところでしたね。

大内 僕は外科に入ろうか、整形にしようかと迷っていたら勉強する気なら整形にしろといわれた。女の話もしたけど、勉強の話もしましたね。

伊藤(原) 岩原先生からずい分耳学問をしました。これがためになりましたね。

西平 本にない失敗談の方がためになりますね。

伊藤(原) 岩原先生はよく面倒をみてくれたけれど、こわかったね。

西平 すぐおこつてね。

大内 気嫌がわるいと、みなウロウロしているから、僕は奥さんの話を切り出したりしたよ。岩原先生は兄貴のこわさ、前田先生は雲の上だった。

伊藤(原) みなで面白い話をしていて、前田先生は「ドーテスカ」といつてこられる。テーマをもらって一週間もすると催促された。

大内 原稿の間にあわないのは野崎先生の専門だったね。

伊藤(原) 当日の午前中に書くはめによくなくなったりして。

野崎 医局は外科と一緒に、教室は別。整形専属の助手は僕

等がはじめてだったので、外科にはずい分気をつかったね。

大内 共同の医局の図書室で勉強していると、外科の豪傑が、「ご勉強ですか」などとあらわれたりしたね。

西 当直が一緒だったので、アッペンなんかを習いました。

西平 それで戦地で役に立ちましたね。

大内 とに角、勉強させられましたよ。岩原先生は青山の自宅から、外苑を通って朝早くこられる。

伊藤(盈) 先生より遅れると部屋にはいけないし、夜も先生が帰られるまでは残らざるを得ない。

野崎 前田先生もお早かった。

西平 七時頃こられたでしょう。

西 回診は八時からだったが、集まりがわるいので八時半にしようといわれた。

伊藤(盈) 私が入った頃は八時四〇分で、時間は国鉄より正確でした。

西 回診は大変だった。ことに患者の前でおこられるのが一番つらかったね。前田先生には論文のことでひどく叱られたことがある。

引用文献を皆出さされた上、書き直しさせられました。そして、論文は配置が大切だとこんこんとさとされ、全く肝に銘じました。

野崎 論文、文献のことは、よく岩原先生に習った。まず原著を読み、それから感じたことを詳しくカルテに書いておけといわれた。

西 前田、岩原先生ともに、論文で推論してはいけないといわれ、これは身にしみた。

伊藤(原) 脊椎の標本をよくとったね。正月モーニングで、一パイというときに、連絡があって、モーニングをまくり上げてヴィルベルをとった時の気分なん忘れられないね。

西平 すぐにとんで行かないと片附けられちゃうから。

伊藤(原) あの頃は皆仲がよかった。

大内 皆で風呂にはいるのも日課だった。

西 プールにもよく行った。岩原先生は二十五メートルを息をしないで泳いだ。馬力があつたね。

大内 そろそろ夜間部とゆこう。当時夜間部教授を選挙したら、伊藤原さんが教授、僕が助教授、岩原先生は講師にも入らなかった。

伊藤(原) 岩原先生はあちらのサイズでも、番付にはいらなかった。

大内 岩原教授の命令で、フレッシュマンの持ち物での審査をフロでやったが、全部落第だった。でも医局会のあとで、待合に行こうかといったら、「マーチアイとおっしゃいましたね」と後世にのこるよろこびの奇声をあげたやっがいた。

〇〇あときは、飲めない酒を飲まされてね。僕は医局に入るまではウブだったんだ。中学の学旅行のとき、春画をみせられても意味がわからなかった。

大内 それがよく指導者を与えたとはいえ、急速な進歩には目を見張るものがあったね。ウツ積されていたエネルギーが一

気に爆發した感じだ。素質があったんだね。とに角エピソードが多いよ、この頃は。

伊藤(原) 当時のスペシャルは五十銭だった。

西平 だれかが何やらいたした、その指を洗ったビールを飲んだり、

大内 マーゲンに発生したウルクス、モルレの一例だ。それから雪の渋谷事件、これは僕が被害者だ。自分だけお楽しみでお前は帰れといわれた。

〇〇 こちらは新入りをいたわったつもりが、かえってうらまれた。

〇〇 イヤハヤ事件も有名だね、〇〇が戦争に行くから男にしてやらにゃというわけで、芸者にはじめてだからよろしくといい含めて隣室でまっていた。ところが〇〇は何んたって初めてだから、目的遂行を目前に、はかなくなっちゃった。出てきた彼女は開口一番「イヤハヤ、大変でしたよ」といったとかいわないとか。

伊藤(原) 僕は西君や盈ちゃんは指導しなかった。両君は真面目だから。

大内 でも、戦争から帰ってきたときは、大分悪くなったけど、僕は盈ちゃんが戦争から帰ったときに、岩原先生から夜の指導をたのまれていたんだが進歩は思わしくない。

その他「ブسنメラメラの行灯事件」だとか、「ツエッペリの無事格納庫入り」とか話題は多いね。

西 長坂三ちゃんが「標本室では女の話か学問の話かしかな

いじゃないか」といったら、「世の中に、その他に何かある」と岩原先生におこられたことがありましたね。

伊藤(原) これは岩原先生らしい。

大内 宿題報告は大変でしたな。

伊藤(原) 人が少ないのに、テーマが多くてやれやしないんだ。配分のしなおしを岩原先生にたのんだりした。毎晩餅を焼いて食いながらガンバった。正内君は扁平足をムンテラしてチステルノンブクチオンをやったね。

大内 岩原先生はそれを講義でいわれるから困るんだ、その位熱心でないといかんというんだが、今なら裁判ものだ。

伊藤(原) 野崎、伊藤(原)先生の斜頸の宿題も大変だった。野崎先生は人使いが荒いからいくらやっても追いつかない。徹夜はあたりまえで、二日連続も珍らしくなかった。

野崎 僕はある頃、ねむれないので寝酒をおぼえたよ。

伊藤(原) 一週に一度しか家に帰らなかった。電車にのる暇が惜しくて。

伊藤(原) 楽しかった、苦しいのが楽しい思い出になる。

伊藤(原) 野崎先生の予演会は前日の夜十二時からやりましたね。

伊藤(原) どもののを心配したが、うまくいったね。西君ははじめからうまかった。

大内 罔々しい人だよ。

伊藤(原) 大内先生は立板にエーテルといわれた。

西 僕達の頃が楽しかりし日の最後ですね。最初の召集は、

伊藤原さんですか。

伊藤(原) それは左奈田君ですね。

野崎 彼の論文は大分手伝ったが、最初の応召は蓮江君で、次が左奈田君ですよ。

伊藤(盈) わたしが入ったときは、岩原先生が中尉で軍服をきて講義をしていました。大変はりきっておられたのが印象にのこっています。

伊藤(原) 僕が十六年にかえて医局長になり十八年に中島に行ったとき大内君が帰ってきた。

大内 慶応が焼けたときの整形の世話役でした。

伊藤(原) 焼けたとき、本や大切なものを運ぶのに寺村君が働いた。彼の功績は大変なものですよ。

大内 医局に僕と寺村と二人しかいないことがあったから。

西 当時岩原先生は蓮田にいたんですね。

大内 当時は手術を十やったら八つは化膿した。蒸気が上がらないで消毒が出来ないんだ。

西 終戦直後は別館だけで内科が二十数床、整形はたった三床でした。ノボカインなどもなくて、オベもなかなかできない。

大内 モデルは戸外の木にシュリングを引っかけてとりましたね。

伊藤(盈) 患者に浴衣のおふるをもつてこさせ、電気コンロで粉をやいて包帯をつくって戸外で巻く、だからすぐこわれてしまいましたね。

大内 外来は畳の上に机をおいてやっていた。

伊藤(盈) この悪条件下でも岩原先生は頸髄腫瘍などやられましたね。僕は手袋がないので素手でオベをして大変叱られました。運わるく、これがまた化膿して。

伊藤(原) 終戦後しばらくして前田先生が南方から帰られ外科の教授になられ岩原先生が昇格した。僕が同窓会幹事長のとき、正式に外科と別れることとして前田先生に叱られた。

西 その話して僕も前田先生のところへ行きました。

大内 この問題で毎日議論しましたね。僕と西君が反対で、あとの若い人は賛成でした。

伊藤(原) 大内君の女子医専の教授は適任だったよ。

大内 岩原先生が先に行かれて、俺も助平だが、お前も助平だから行けといわれてね。

伊藤(原) 俺は真面目だから駄目だから駄目だといわれた。

野崎 僕も行くわけだったんだけど、東京医大にきまってしまった。

伊藤(原) 慶応が忙がしくなり、僕も医専だけでも引きうけてくれといわれた。

第二部

矢部 この前の座談会では戦前、大体昭和十八年位までを中心として頂きました。今日は、大体戦後のことをお話したいだきたいと思えます。この間隙は寺村先生が孤軍奮闘なすった訳ですが、その頃の詳しいお話しを原稿として頂いてあります。

医局長は、戦後かぞえて見ますと、稲留、井上、久保、池田泉田、今中、宮本、野間博、菅野、小川、木住野、松井、今井、矢部の十四人で二十一年間おつかえしたことになります。

まず、時を追ってということになりますが、戦後はしばらく岩原先生は埼玉から通っておられたんですね。

田中 埼玉で百姓やってけがをしたもんだから破傷風の血清を使ったら血清病になって、生れて始めて静脈注射をやられたなんていわれて怒られた。

久保 田中君達が留守番で、僕達が帰って来る迄は大変だったろうね。

田中 僕は職業軍人になる積りだったから、どうしたらいいかわからなくてうろろしていたら、うちで遊んでいろよといわれて、そのまま医局員になってしまったんです。

伊藤(盈) 軍服の古いのを着て汽車にぶら下って埼玉の田舎から通ってましたね。

回診なんてズボンなんかはかないで、パンツかふんどしの上に白衣を着て毛ずねを出して回診していたんですね。

久保 昔の軍隊のカーキ色のオーバーを着て小田原からも通われたけれど、東京駅なんかで見ると、世の中から大分カーキ色がなくなつて普通の洋服になって来て、先生は未だ着ておられて、最後のカーキ色という感じでしたね。

田中 戦闘帽に雑のうを下げて元氣良かったね。何かというところの岩原の診断に狂いはないと来るんだ。一度三田の方の偉い人が何かのことで一寸手心を加えて診断書を書いて欲しいと

言つて来たら怒つたね。岩原中尉は未だかつてそんなことをしたことはない。お前の様な奴がいるから日本は敗けたんだなんてどなりつけた。

伊藤 終戦後一年位してから、女の人が足を細くしてほしいといつて来たら、これまた大変に怒つた。人の命を助けるかどうかという材料もない今日なのに足を細くしろとは何事だ。娘なら親を呼べ、女房なら亭主を呼べ、岩原が説教してやるというのだ。あの頃は鼻息があらかつたね。

久保 若い娘が親に連れられて、鼻を高くしてほしいといつて来たら、この顔で嫁に行けないはずはない、私が独身ならば私でもらうといつたらほうほうの態で帰つたことがあつたよ。

田中 あの頃のことだから一つの部屋で診察をして、すんだら片付けてそこで皆で昼飯を食うんだ。岩原先生は奥さんが余程苦勞をされたとみえて、とにもかくにも米の飯なんだ。こちからは芋を食っていると、おしんこはわけてくれたけど、飯はくださらなかつた。

池田 芋といえば、伊蔵先生は芋に詳しくて岩原先生によく調子を合わせていましたね……。

田中 岩原先生が蓮田で話をしておいでくれたところへ芋を買いに行くんだ。駅で道をきいて遠いところをとぼとぼ行つてまた汽車にゆられて帰つて来ると午後三時頃になって、先輩におそいぞなんて怒られる。こっちは新兵だから芋を洗つて料理すると教授のうまいまずいの話から芋談議が始まつた。

伊藤 僕は週に二回教室に顔を出すと昼には必ず教授室に

呼び込まれて野菜の話だ。よくも続くと思った位ですよ。実際にうまい芋を作ったね。

久保 話はあるが僕の時に外科の伝田さんに研究室をもらい、内科の古館さんに内科の図書室をもらって医局にした。お二人ともそれぞれの医局で大分おこられたらしいけど、こっちはいいところを貰ったって大いに感激した。

矢部 昭和二十四年に整形外科学会会長ですね。

久保 その時だって食事の準備はまだなかなか大変でした。評議員に鰻を昼食に出すのが本当に大変だったおぼえがあります。

田中 あの時に在局三年以上の人の全国の分布図を作りましたね。六二〇人位だったと思います。

久保 あれは整形外科を各病院で名乗っても実際に経験のある人を配置出来るかどうか、整形外科という科名が有名無実にならないかどうか調べるのに作ったわけです。富山、石川その他整形外科医の一人もいない県が三つ四つありましたね。

今中 スライドを取り入れたのもあの学会が最初ですね。

池田 何しろ北里講堂で出来たからね。

久保 それでも二階なんか空席があったし、学会の費用も今の中流の学会の一〇分の一位ですからね。

今中 図書きが大変でした。線が太いか細いかいわれ、病院へ来なくてもいいから、家で一〇枚でも二〇枚でも書いて来いといいつけられて。

久保 それ複写するのに六桜社の玉置先生に大分お世話にな

った。

今中 スライドがロールだし、プロジェクターにファンがついてないし、うまくうつすのは大変だった。プロジェクターの電球を素早くとりかえる練習なんか随分やったもんです。

同じ電球を長く使うと、ファンがないもんだから、切れちゃうんですよ。それで時々とりかえて冷やす。

矢部 スライド原稿みたいのはあったんですか？

田中 ない。話に合わせて出す。

矢部 昔からの伝統ですか、岩原先生がスライド原稿をおつくりにならないのは……。

矢部 それからしばらく学会がなくて、今度は三十一年に脳神経ですね。

野口 あの時は兵隊さんで大分やらされてよく覚えていますよ。

池田 仕事としては、その前に九州で天児先生が学会長の時に仙腸関節の協同研究をやっておられますね。

松井 脳神経の時も北里講堂でやったんですね。

矢部 その翌年にアメリカとヨーロッパに行かれましたね。
久保 国から費用が出るので脊髄損傷の視察ということになっていました。

矢部 三十三年には箱根から移されましたね。

久保 箱根では大分みんな御馳走になりましたね。

松井 午後の三時頃からお風呂に入られてね。

今中 フレンドという外人を泊めてやったら、お嬢さんのお

っぱいに感激して、富士山二つといいおったなんて話も聞かされた。

池田 あの時は、岩原先生は娘さんが二人おられるし、奥さんは若いし、フレンドなどを泊めて大分ヤキモキされたよ。あのフレンドは集談会で髓内釘の話をしましたね。僕も岩原先生のお伴で横須賀の海軍病院に見学に行っただけど、骨折の手術などジャブジャブ出血させてどんどん輸血してやっているんだ。うらやましかったのは手術の合間にチーズなんか食ってるんだ。こっちはそんなものなんか食いたくたってありゃあせんのだ。

田中 僕はアルバイトで箱根療養所に通ったんだけど、敬遠して金井君のところに泊めてもらうと、先生のお嬢さんが二人ともマージャンのおぼえ立ててやたらに誘うんだ。金井君と二人で出かけてってやっていると隣の部屋でせきばらいが聞こえるだろう。あの声があるんなら帰るよっていったら、お嬢さんが隣の部屋に向かって「お父さん少し静かにしてよ」ってどなる始末なんだ、おれはとたんに大三元振り込んじゃったよ。

久保 ところでお得意の「伊豆の山々」は何時からだ。

田中 伊豆ちゃんが生まれてしばらくしてからですね。
久保 時期から見るといつもに似ず世の中に流行してから直ぐだったね。

池田 流行といえバニシリンを使っておこられたね。
田中 本当に使えるまでには苦勞しましたね。

今中 ギネは新しいものが出ると直ぐ使ったんだけど。

久保 ああいうものに対するレジスタンスがあったね。

松井 薬なんか、サルチル散とサロメントが多かったです。

田中 脊損が入るとウワウルシだね。

久保 結核のストマイだけは感激されたね。あれは効くんじやないかといつてね。一グラム一万二千円位の時だったけど一グラムを一〇等分してチステルネンから入れて結核性髄膜炎の一命をとりとめたことがあります。退院してから再発して死亡しましたけど、私の副論文になりました。

池田 骨髄炎にベニシリンを使っと思っていいわいんだ。すると、やけによく治るじゃないかなんていわれる。それまでいわないんだ。そういうスタイルでしばらくやった。
ミエロの透視でも今では折れたけど昔は頭ごなしにおこられたものだよ。

田中 大腿骨頸部骨折のミスビクターソンもやらなかったねある時にどうしてだか聞いたら、天児君はあれを四〇分でやりおるといんだ。ジャクだからとはいわなかったけど。

松井 牽引はうるさかったですね。

田中 昔はギブスを作るのが大変だった。屋上の上ってどこが日当りがいいか見るんだ。カヤと浴衣で作ってね。

今中 ギブスカッターをいくらいっても買ってくれないんだ。手の方がよく切れるというんだもんね。フレッシュマンは九時半に外来に来て股脱のギブスを二つ切ったらお昼になった。

田中 外転シーネをやっと作ったら左右アベコベだったり

ね。

久保 この間の座談会で赤犬の話は出たんですか。

伊藤 出ませんでした。僕はその話を知らないんです。

久保 あの話は田中君が独だん場らしいね。

田中 僕はポリクリの最後だったけど物がなくて何となく犬を食おうということになったんです。前もって先生に食べますかと聞いたらいいでしょうといわれた。金井君がうまくてね、芋を持って昼ねをしている犬をさっとかっさらってリュックに入れて持って来た。あの頃は、この辺から新宿までの犬はあらかたひなくなりましよ、僕らが食ったのは四匹位だけだ。

西先生も丁度来合わせられたけれども流石に食べなかつたね
岩原先生は食って牛よりはましうなといわれた。

今中 アルコールは木城さんがエチールにメチレン青を入れてメチルに見せかけてとられるのを防いでいたから本人しかわからない。それにオリザニンとかコハク酸とか入れて製造するんですよ。

田中 あいつは宴会でえと朝から味を見ながら調合にとりかかるから、本当にやる時にはベロベロだ。調合しながら「泉田よ池袋でイカを買って来いよ」といった調子ですね。

岩原先生は全然のまなかつたね。今は大分飲まれるけど、まともな酒が出回ってからです。アサヒゴールドの始めにこれは今までのよりも全然うまいなんていわれたけどもあの辺が始まりじゃないですか。

池田 医局から駿河療養所へ行って大いに飲んだことがある

ね。ドラム缶で作ったアルコールだった。

久保 あのアルコールにはまいったね。岩原先生は、前の日から出かけて行って手術をされた。あれは世界最初のオペのはずなんだ。僕も手依いに行つたけど前の晩に吞まされて血をはいちやつて富田先生に止血剤だの、ビタカンだなんて注射されたの日にフラフラして大いに面目を失つたおぼえがあるよ。

田中 何だかだといつても、岩原先生は皆なに大事にされたね。

矢部 院長をやられる前は全くイゴッソーという感じだったけど、院長をやられてからは感情をむき出しにするというところがなくなつて円満な感じになられて少し淋しい感じもしましたね。

今中 だけど外に出た時はこちらが恥しくなるほどほめてくれましたね。

矢部 よくおこられる人とそうでない人がいましたね。

久保 庭いじりをされるから刈り込むべき木と、肥料をやるべき木の見分けが習性になられたんじゃないですか。

矢部 それは名言ですね。人を十分に活用される点が本当にすばらしいと思います。

今中 二十四回から三十回生の所で子供と孫のちがいがあつたね。いじめ方、かわいがり方がちがう。二十四回は末っ子ですよ。

久保 赤犬グループは末っ子という感じだ。僕なんか甚六の最たるもんだ。

赤犬グループなんか未っ子的で、僕らならいえないことを、よくいえるんだ。

松井 私はヒマゴですか。

一同 君はまだ孫だよ。

今中 医局員のことは好い面も悪い面もよく知っておられたね。よその教授はもっと冷いですよ。

松井 ヒトのことはよく覚えてましたね。

伊藤 名簿見るのが楽しみで、学校と家に別々に置いてあるんだ。横から見るとそれに種々とマークがついていてね。僕が見ても判らんけど。

松井 昼食会がお好きだったけど昔からですか。

伊藤 回診と会食が楽しみだった。

久保 今の形の昼食会は二十八年頃からじゃう。

田中 それまでは毎日だったんだから。岩原先生がなかなか来ない時は半分位食ってフタでかくしていたよ。

矢部 岩原先生が胃が悪くなって、トーストとミルクになったら、他人の弁当が気になって、盛んにのぞきこんで何かおっしゃってましたね。ちょっとかわいそうでした。

今中 のぞくのは以前からのくせなんだよ。おかすが貧しいとつげものなんかくれましたよ。

松井 岩原先生の弁当は豪華でしたね。

田中 一同山手線でのり越して、おこられたことありましたね。

今中 中央線の定期で山手線の代々木まわりに乗って五反田

でつかまったんだよ。

田中 五反田の駅長室で怒られて慶応の岩原だといってはつたけど通じなかった。

それ以来山手線には絶対に乗らなかつた。それから済生会でも民生病院の入口から入ろうとして小使に追っばらわれた。何んとしても入れてくれないうで、大回りさせられたけど、岩原先生は、あれはなかなか見どころがあるといっておられました。

伊勢亀 岩原先生が全員に怒ったのは、私が覚えているのは北海道の学会の前ですね。行く人が少なく、怒られている時にお兄さんの先生が、北海道に行くと五万円かかるからといったら、「この乞食」と大喝された。キャバレーへ行く金はあっても、学会に行く金はないのかつて。

矢部 新富町でやった忘年会の時も、怒られたんじゃないけど、皆シンとしましたね。

田中 キャバレーっていうのは、やはり膚に合わないんじゃない。

今中 いや好きなんですよ。初めてジョーボートに行った時のうれしそうだったこと。階段が曲っているから下から見えるよなんていってね。

田中 それだから他人が行くといやがるわけだ。

久保 私が怒られたのは、九州の学会へ行く時大勢で一緒に汽車に乗っていて、私と本城君がピンかかえて酒をのんでいたんだ。そしたら汽車の中でまで酒を飲む下等な奴って怒られた。

伊藤 話がちがうけど、レントゲンを撮らないで診断をつけるのが好きでしたね。

手首を捻挫して赤くはれて来ている患者にアナムネを読まないうで、一目見るなり、これは結核、何を今までばやばやしてました、なんていいだされて。あわてて予診を見せて、先生これこれといったら、何故早くそれをいわない……。

池田 然し総体的に感は鋭いね。これにはいつも感心した。

伊勢亀 岩原先生の気嫌の好い時は、手でお尻を叩きながら口笛を吹くんですね。

今中 口笛というんじゃない。メロディーにならないんだな。

久保 手まで行かなくても、口笛吹いて顎を突き出した時は気嫌良いよ。カナリヤの類だね。だけどそうたんとはないよ。

今中 岩原先生こわいだろうと他の教室の人にいわれるけど、一面うらやましがられました。

伊藤 出張は強引に出すけど、あとまで面倒見てくれると思っていますよ。

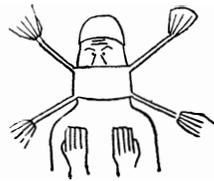
矢部 これだけしたわれるのも、正しいことを正々堂々とされたからだろうと思います。実はこの前池田先生の代理で集談会のあとの教授懇親会に出たんですけど、そこで最後の天皇が岩原先生だったんだろう、まだ法王が一人おるが、といってました。

今中 島教授が慶応の医局の雰囲気を実似したいといっていましたよ。

田中 意識してやっても駄目ですよ。意識してやったら政治

家ですね。

矢部 それでは、この辺で終わります。今日はどうも有難うございました。



想 い 出

寺 村 正

昭和二十年頃の空襲が激しくなった頃又、終戦の頃の整形外科の教室を想い出して一筆書いてみた。私が卒業したのは昭和二十年九月であるが。当時は戦争のために大学の期間が大分短縮されて、昭和二十年三月に仮卒業として軍隊や医局に入ったものである。そのために私は昭和二十年四月に整形に仮入局した。その頃整形には岩原先生以下三、四人の先生がおられたのである。

とも角毎日のように空襲々々とやられていた頃だったので、病院に来ても警報が発令されると、鉄帽をかぶり、防空の服装をして診療どころではなかった。勿論外来患者も少なかったのである。

当時岩原先生は埼玉の蓮田から通っておられた。時々先生自ら作られた美味しいさつまいもを持って来て下さって、標本室でよく焼いて食べたものだ。食べるものが不自由で、さつまいもなどを主食にしていた頃だったので、先生の作られたきんと

きとか農林何号とかいうさつまいもは格別味が良く、御馳走になるのが毎日の楽しみであった。本を読むことも診療も落着いて出来なかった頃だった。

又、整形外科の器械や図書などを岩原先生のおられる蓮田や山形などに疎開したのも空襲が激しくなってからだだった。

慶応病院が空襲で焼けてしまった日は確か昭和二十年五月二十五日で、東京が大空襲を受けた日であった。その焼けた日私は防護当直として病院に泊っていた、まさか病院が焼けるとは思っていなかったが、不運にも焼夷弾が雨あられの如く落ちて来て、別館の裏の運動場などには後から行って見てわかったことだが、焼夷弾の薬夾が沢山刺さっていてびっくりしたほどである。当夜私は始めに焼夷弾が落ちた「に号」病棟に行つて防空頭巾をとって火を消していたが、あちこちから燃え出して来たので、諦めて病院の外へ出た。煙のもうもうする中で消火をやっている看護婦などもいた。みんな一生懸命である。本館の入院患者は別館などに移し、負傷者が一人もいなかったのは幸いである。それから私はすぐ整形の標本室に行つて本をある程度運び出していた時、目の前で真赤な焰と共に焼けている天井がぱらぱら落ちて来たので、びっくりして逃げてしまった。ホースで水をかけてもただ燃えるだけで、手がつけられなかった。夜が白々と明ける頃やっと下火になって焼跡となった本館を眺めて、がっくりし、力がぬけたようになってしまった。

このように空襲で慶応病院が焼ける頃の整形外科の教室は実に淋しかった。岩原先生が召集され、その他の先生方も皆んな

おられなくなり、小生ただ一人になった頃があった。一人では診療に差支えるので、当時大久保病院から野崎先生に、埼玉の蓮田から大内先生に、又、外科から植草先生に来ていただいて当時整形の外來となった別館一階の外來で診察をお願いした事もあった。又、その頃は消毒も不完全だったためか手術をするとうよく化膿し、大内先生と二人でよく嘆いたものである。

やがてその内に終戦になって岩原先生も帰つて来られ、次第に医局員も多くなった。

この様に昭和二十年という終戦の年は整形の教室には人がいなくなり、私一人でどうにかやったこともあり、今考えてみるとよくやれたものだなあと、何だかいろいろのことが想い出されて、一筆書いた次第である。

昭和26年入局

(慶大医専3回生)

藤原 由利夫

私は昭和二十六年、七名の同僚と共に入局した。それまで、整形の入局者は年に一、二名位のものであったのに、吾々の年には八名も一度に入局したことは珍事であったに、吾々の年は今と違って、各医局の門は狭かったので無理をして入れて貰ったような気もした。爾来、入局者の数は毎年数名を越える盛況となり、教授を初め先輩諸士からも喜ばれているが、いわば吾

々はその切っ掛をつくった尖兵といえるであろう。この辺は大変よいが、さてそれから後はどのように映ったか諸賢に聞いてみなければ判らない。大体文句が多く、内容的にも期待に沿えないことが多く、教室ではさぞかし落胆、お嘆きなされたであろう。しかし、馬鹿も使いようを地で行なったようなもので員数要員としては結構お役にも立てたと自負している次第であるが如何であつたらうか。

良い点も全然ないわけではなかった。エゴ、奸智を知らず、又、先輩の当直は無条件で代つて上げたものだった。揃つて運動好きで、吾々の入局以来整形の野球と運動会は頗に強くなった。三四会運動会では毎年優勝の他、四〇〇米リレーの新記録もつくつた（これは金成先生の力が大）。野球では当時隆盛を極めた外科のクレープスと決勝戦を演じて病院中を湧かせたり、対慈大整形との定期戦では相手を寄せつけなかったのである等。一回関東整形野球大会で優勝した時は岩原先生にも大変喜んで頂けた。「あの水町君が驚いていたよ」と愉快そうに笑つておられた。このように外で勝つと喜んで頂けたのだが、普段はそうでもなかった。「遊ぶ暇があつたら学問せよ」と睨まれているような気さえした。運動のファイトを仕事にも、と思われたであろうが至らなくて申し訳ない次第である。学問の道における第一の目的をもって銘すべきであつたのだが。

私は学問の方は傍役だったのでどうも教授の前に出るのが苦手で気がひけて仕様がなかった。せめて命ぜられたことだけでもちやんとやろうと思ひ非力の点は時間をかけて補ひ、陰なが

ら努力した心算である。期待されざる一人ではあつたが、一度ほめられたことがある。それはハウプト、アルバイトの最中だった。當時も医局の雑用が多く、平日は動物実験をする暇が殆んどなかったので専ら土曜日から日曜にかけて泊り込み、例数を重ねたものだった。夏休みもその意味で絶好のチャンスだった。殆んど休まず研究室へ通つたが、教授はそれを知つて何日の日か廊下ですれ違つた時に「夏休みもとらないのですか」と労わるように声をかけてくれた。ほんのひと言葉であつたが実に嬉しかった。

何度かへまをしたが、そのへまがもとて岩原先生に新知見をもたらしたことがあるといつてはお叱りを受けるかも知れないが。後頭窩穿刺死亡例である。それまで、後頭窩穿刺で脊髄上部を刺入しても一時的ショック症状だけで生命等には別条ないといわれてきたのが死んでしまったのである。さすがの岩原先生も黙つてしまった。当時新人だつた〇君と二人で交代で二日間麻酔器を離さなかつたが遂に駄目だった。解剖の結果、脊髄上部に刺入痕があり、偉大なる教訓となつたのであるが、私には申し訳なさでたまらぬ毎日が続いた。そうしたある日の会食の時、岩原先生はいわれた。これは明らかに過失であるが、終つたことは今更仕方がない。これかも十分注意するようにといわれてから、「このような場合、解剖などさせてくれないことが多いのですが、それをやらせてくれたということは、こちら側の誠意が通じたのでしょう」と、昔の例をあげて慰めてくれた。岩は頑に通じ、原は徹に通ずる教授であつたが優しい機

微を肌感することも度々あったのである。しかし、私は自ら進んで教授に接して行こうとしなかったので、さぞかし可愛げのない弟子と思われたであろうと。それでもよく酒を飲ませてくれた。愛酒家の私にとって正月三日の箱根参りは愉快だった。私が行くと「君のために沢山用意しておいたよ。うんと飲んで下さい」と先生御自慢のサカタ錦という酒を存分に飲ませてくれた。私が先生の前で平気で飲まれたのはこの時位のものであった。正月という開放感と、酒のお陰か、一同大いに食い、かつ飲み、高歌放声を發して騒いだ。小生如きは、そうすることが好意に答えているようにさえ思えて鯨飲、大食振りを發揮したものであった。若さと羨坊のなせる業だろうか。

先生は食べ物にはことその他やかましいようで、うっかりしたものは献上できなかつたが、気仙川の鮎と、浦和の鰻には喜んで頂けたようだった。殊に魚がお好きのようで「肉は種類も少なく、料理法も決っているのだから、とも美味いと思わぬ。その点、魚は種類も豊富だし、料理法も多く、夫々違った持ち味が生かされて美味い」といっておられるのをよく耳にした。同じ魚好きの一人として私も同感であった。先生のお好きなものは学問と女性であると聞き及んでいるが、又、なかなかの文学者であられることも衆知のところである。先生の著は文飾豊かで独得の味があり、いつ読んでも懐かしい。論文も何度か直して戴き、医学論文の書き方を教えられたが、今になって自分一人で書く時、又、人のある時、随分役に立つことは大変有難い次第である。

私は昭和十六年に慶応商工に入学した。戦争の下サクサにまぎれて十年後には方向違いの医者になっていた。好きでなつたわけがなく、又、医者が私にとって最適の職業でないことも知っているが、とに角、慶応は私を医者にしてくれた。これは慶応義塾のお陰である。それから整形外科医になった。これは好きで入った道である。医局を出て現在の職に就いて丁度十年になるが、どうやら一人前の整形外科医にしていた。これは岩原先生と医局のお陰である。全く非才の私が今日あるのは慶応義塾と、岩原先生のお陰であると深く感謝申し上げる次第である。

岩原先生には一慶応のみならず、日本の整形外科のために御尽力なされ、今や功遂げ、名を成し、惜しまれながら、風塵を外に悠々自適の道を歩まれることとなつたのはお目出たい限りである。向後の御健康を祈り、又、私も一層精進することを心に誓いながら筆を高く次第とする。





医局長!!

医局長

日誌より

矢部 裕

41・6・3

今井医局長が来月より、足利日赤へ行かれる。今月コンファレンス後、臨時医局長選挙があった。今月コンファ

全く予期しない結果が出た。

次期医局長は多分岩原教授現職中最後の医局長となろう。その責は重い。たとえ小生が最高点をとったとはいえ、小生にとってその責を全うするだけの自信はない。

直ちに岩原教授室へ赴く、帰室後である。同窓Kに電話する。どうしたらよからうか。……チャンスは二度来ない。精神一到何事かならざらん。やれ……君は励ましてくれたが。

帰室後、一晚考える。時期がまずい。俺如き若僧が。松井先生もおられるし、野口先生もおられる。松井先生であれば、大舟に乗った気で総べては円滑に進むであろうし、野口先生であっても、俺が第一の子分となつてしばらく助太刀すれば、イタリヤ留学中の三年間の空白はすぐにとりかえさせるだろう。俺

40・6・4

が失敗すれば、岩原先生、医局長が波をかぶるであろうし、後任の人もより苦勞して梶を握らねばならない。そして舟は一年半後には大漁旗をかかげて入港せねばならないのだ、であれば、最初からより適任者に譲るべきである。かく結論して午前三時に寝る。

少し目が張ればつたいが、気持はさっぱりしている。

教授室前で岩原先生の登院を待つ。

「どうかしましたか。」

「実は先生、今日はお叱りを覚悟で出過ぎたことを申しに参りました。昨日の医局長選挙で私が最高得票を得たわけですが、私には自信がなく、昨夜一晚考えたあげく、私自身不適任と思いますので、宜しく御願ひ致します。」

「そうですか。医局長がそう考え、岩原自身も矢部君以外に人はいないと考えておる。御苦勞ですがしっかりとやって下さい。」

「しかし先生……」

「医局長の仕事もやり、かつ自分自身の勉強も怠ることなくやって行って下さい。大変でしょうが。」

ミイラトリがミイラになった。

しかしこの人のためなら命をなげうつてもいい。その気でやれば俺でもなんとか出来るかも知れない。

40・6・19

今井医局長代理として北関東病院長、医局長会議に出席す。

於日光、湯元、南間ホテル。

何故息子の様に若い医局長に対して、親父の年であり、かつ学生時代恩師でもあった大先輩の院長がペコペコせねばならぬのであろうか。

40・6・23

幹部会に始めて出席する。今井医局長最後の司会。次回からは俺がやらねばならない。

一言一句、聞きのがすことなく、その司会ぶりをみる。

今井医局長からの申し送りも大半終わった。幹部会、週、月、年の行事、医局員のこと、勤務、人事、学会のこと、研究費、医局運営費のこと、そして退職記念事業、岩原、池田先生外遊のこと、西先生学会担当のこと。そして同窓のこと。ETC……。

何から手をつけて良いのやら分らない。

どこまでが医局長の仕事であるのやらも分らない。

大幅版式でなく、合理化された規約の設定、と、各方面にわたる記録の必要性を感じる。

40・7・1

今日は今井先生の送別会。

今井先生、僕は先生の下手な字で書かれたノートや紙切れの

一枚一枚をみていると、先生はある一定の方針のもとに医局長の職責を貫かんとし、その勇途がある事情のために空しく挫折せねばならなかった寂しさを見出すのです。

先生は、僕の助力をありがとうといってくれたが、僕は何もしてあげられなかった。もっとも先生を助けて医局のために尽くさねばならなかったことを今悔んでおります。

40・7・3

医長会の司会をやるのだそうである。医長会は発足以来三回目だから特別の方針は未だ決っていないのだそうだ、だから適当に司会すれば良いとの事。

しかし、これだけ多くの医長さんの集りだ、ただ医長さんと医局の幹部が対座して、人が欲しい。人が足りないというだけでなく、これをもっとまとまりのある大きな力に総合すべく……止めておこう。その前に医局長としてせねばならぬ身近な仕事がある。

まず内部を固めてからと。

① 医局員カード作製。

どこの会社においても総務課、人事課には社員カードがあるはずだ。医局員カードには、発表論文と出張と各係の明細を訳そう。

② 出張病院調査票の作製。

いわば支店の現況報告だ。医長会を開いてもその実態は把握し得ない。

④ 助手出張制度の再検討。不公平な出張人事を避けるために

も、その根本原則を再確認する必要がある。

この三つだけは早急に決めねばならない。

40・7・10

野口先生、赤坂君、伊勢亀君と共に岩原先生のお宅へ医局のお中元をとどけに行く。例によって山海の珍味であった。

岩原先生、今後この四人の若造が協力して医局長の責を果します。

きつと解してくれたことと思う。

40・7・12

ひばり学園プール開設、木城、春日先生へ電話のこと。

リハビリテーション委員会出席の件

外来手術場委員会、山田君代行のこと

小野里先生、電話のこと

医局長、病院長会議(明日)に対する資料の件。

日本災害医学会演者、村尾君で宜しいか。

岩原先生も出席されるかどうか、確認する事。

今井先生の印をもらうこと。研究費の件、

山崎、石下君交代の件、電話連絡、

伊川先生神奈川済生会へ出張の件昨日より夏休み。今日行なつた仕事を手帳より写してみました。

40・7・21

毎月第三水曜日は医局長会議。

何ということはない。各科のセクションナリズムの代表者の集い。

教授会の縮図か。

40・7・29

藤野婦園

公用のため迎えにも行けず。

ワイフの出産予定日が過ぎたこと一週間。

40・7・30

午前零時半頃より陣痛が始まり直ちに慶応へ入院さす。午前

七時四十九分、無事誕生。今度は女の子、四三〇〇グラム。

午後幹部会。

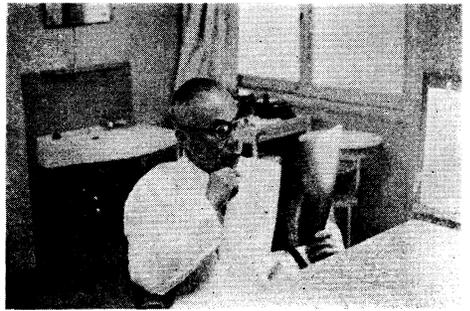
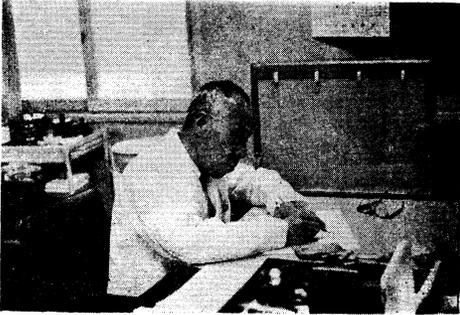
医局員カード、出張病院調査表の件、承認される。

助手出張に関する規約改正の件。

これは大分もめた。現医局九八名、内渡来者三名、大学院生七名。八八名出張要員助手中在局者三八名、出張者五〇名となる。三八対五〇で一年交代の出張制度が組めるソロバンはない。当然一年では帰局出来ない助手が出て来る。この不公平だけは医局長としてなくしたい。解決案。

① 六名分の出張先をけずること。

② 教育出張病院と赴任出張病院とに分け、前者に出張中は





在局期間とみなす。

③ 専門医制度とのかね合いで、一応レジデントの期間を六年と考え、在局対出張の比を二五対三五とする。出張三、五年中〇、五年は肢体不自由児乃至後療法施設にあってる。

④ 六年以上の在局者、つまり学位をとらずに在局している者に対する処置。これが赴任すれば、出張に関して助手二名分に相当する。

この四案が出る。第一、二案は今後の問題として考える。第四案はプロフェッサーから強力に助手にいったたく。結局本意ながら、とりあえず第三案に沿って公平な人事を行なうことに決る。

ついでに大学院生は一年間後療法、不自由児施設、交通災害病院、小児病院等を回ることに決る。

幹部会の内容を鉄のカーテン内に閉すか、ガラス張りにするかに関して考える。勿論、助手に公表してはならない部分もあるが、決定事項に関しては、そうならざるを得なかった過程を公表して、助手全員に納得してもらわねばならないだろう。六年中三、五年の出張は問題があろう。しかし、苦しみを公平に分ち合うことから出発したものであれば納得してくれることと
思う。

人事委員会が幹部会という名称に変わってもその内容は相変わらず人事委員会だ。もっと大病院本来の使命である研究、教育

にも時間を費したい。次回からは、例え議題がなくともよい。研究(学会)教育・診療・人事の四項目を作り、各々に関し審議して行く様にしたい。

40・8・11

夏休み前半終了。

武長さんによる納涼会、於椿山荘。出席者四〇名。

40・8・20

塩原へ行く。

ロイマとナルベの患者の手の手術を行なう。今日は医局長としての公式出張でもある。昼は病院内を見学し、夜は泉屋で院長、齋藤先生をはじめ、出張医局長と共に一杯やる。

マーシャン卓を囲みつつ、出張問題を話し、又、岩原先生退職記念事業、特に寄付に関して野の人の意見を聞く。大方間違いない線を行なっている。

40・8・21

国立栃病、宇都宮済生会、佐野厚生病院をめぐる。

国立は広いものだ。済生会は狭いものだ。済生会を一人減らして佐野を一人増したら、医局としては増減零となる。中村先生怒るかな……。

40・9・3

東日本臨床整形外科学会。於伊東ハトヤ。慶応より二題。

先天股脱の関節造影の吟味……泉田、○赤坂

腰椎後方迂り症の正体……河野、平林、夜は松田君の別荘、杏林荘泊。

40・9・13

いよいよ二学期。

夏休み中、結局一日も私的には休めなかった。別にこれという用件はなかったのだが、何となく二カ月終ってしまった様な気がする。

しかし、医局員の黒い元氣な顔が勢ぞろいしたのをみていると、やはり二学期が始ったのだと思う。

早々に幹部会を聞く。

二学期の勤務分担割当。

学会……秋の学会、そして来年四月の本学会の予定を立てるべく議題にする。

人事……今冬の人事、今から一応の予定を立てておきたい。資料を提出する。

その他……医局ベランダ改造の件。これは予め事務長と接渉しておいてよかった。先週医局の前の廊下にある医局長室兼物置（日本輸血協会のあと）を工務課の連中がとりこわしに来た。事務長命令で消防署からのお達しでもあるという。

直ちに事務長とかけ合い、医局の前のベランダを改造するこ

とを納得させる。一〇万円以下の改造費であれば事務長一人の

裁断でとのこと。とりあえず七万円の見積りて物置よりの囲いを作り、又別月の予算で窓をつけたり、内張りをしたり、カーテン、電話、応接セット等を入れてやろう。

ともあれ、ベランダが改造出来ない限り、廊下の元日本輸血協会のあとは引越さないという事を強調した。であれば、この改造は早くやってくれるに違いない。

工務課長とも仲良くしておきましょう。

大体、一〇〇名の医局員がいて、研究室が一つしかなく、昼食会でも立ちんぼが出る様な狭い所で医局長の事務がとれますかってんだ。

ぼつぼつ医局長職にもなれて来た。医局内の事には多少の余裕が出て来た感がある。

今後は主に対外的に接触して教室発展の一助にしよう。

パート先の給料の値上げ

リハビリテーションセンター開設

退職記念事業、並び同窓会関係

が今後の直接の課題となろう。

40・9・18

同窓会幹事会。

1、総会の件

2、西教授学会担当陣中見舞の件

3、名簿発送の件

4、ふるさと五号発刊の件
5、退職記念事業の件

二と五の件に関し、早々に印刷物を発送せねばならぬ。同窓会係りは赤坂君に変わったから安心してまかせられる。彼に頼もう。



定例医局長選挙。

四三票中三一票をいただく。

医局長三カ月間の批判、まあまあという所か。

しかし会後は対象が主に医局外となるため、医局内のこと、特に医局員各自にまでの細かい神経は配り得なくなるであろう。伊勢亀君に頼もう。

40・10・1

富田君ひばり学園出張。

君は小生が医局長となって出航後、人事面におけるまず最初の氷山であった。お陰様にて元来短気である私の気も大分長くなりました。そして航海にとって短気は禁物。氷山も時が経てば解けて単なる海水となることを知りました。富田君「損して得とれ」という言葉がある。岩原教授程人事において公平を期して日夜頭を悩しておる人はいない、私は幹部会に出る席毎に

そう感ずるのです。

40・10・18

フレッシュマン独立祭。年々フレッシュユとなり、自分の年を感じさせる。

ハワイアンダンスが圧巻。

ミドリさん仲々魅力的。

40・10・20

医局長会議。

総婦長とやり合う。セクシヨナリズムの集りは総婦長において然りだ。何故慶応全体のことを考えて部下を説得しないのか。ただ看護婦の数が足りないからとか組合がどうのこうのといった責任を他に転嫁しようとする。それで一体総婦長がとまると思っておるのか知れん。大体院長まで気に入らん。八方美人で総婦長の肩をもつなんて。

しかし、まあよく舌の回るバーサンであることよ!

医局長会議後医局へ来たら、ペランダ改造の外荘の大略が出ていた。まるで倉庫だ。七万円ではかくあらん。事務長にENBANDを入れる。来月の予算で内張りをし窓をつけることを確約す。予定の行動だ。その次には電話を入れよう。冬になるからカーテンとガス暖房も必要かな。

40・10・28

泉田先生送別会・於留園、出席者一二〇名位。

出席者は予定数を大分上回った。しかし何となく今日は寂しい。

しかし、感傷もたちまちふきとばされた。同窓の先輩X氏が岩原先生退職記念事業のことに関し難癖をつけたからだ。俺一人でやってるんじゃない・世話人や幹事会の意に基いて事務を代行しているだけにすぎない俺に難くせをつけるのはお間違いだ。いろいろとある事情も分らんくせに。しかし、このために岩原先生まで腐されるとしたら我慢出来ない。よほど一発かませようかと思ったら松井先生の顔が見えた。そして彼の言葉が頭に浮んで来た。「ハイ、分りました。私が悪うございました。意を休して善処致します。」との言葉がスラスラと出た。寂しいのときやくにさわるのがゴツチャになって大分飲み歩いた。最終的には済生会中央病院から小林に見送られてタクシーで家に帰ったことを憶えている。

40・11・5

医局対抗野球。四対二にて東校舎に惜敗。

40・11・7

関東整形野球。第一回戦にて東邦に五対一にて敗る。

野口先生の怒ること。

40・11・8

「医局長、形成外科学会をうらに引っぱって来ててもよいですか。」

「いっただったか岩原教授が、そういわれたことがある。」

「医局の名誉でございますから、どんなに忙しくても医局長一同心から喜んで立派になしとげると思っています。」

こう答えたことがあった。

今朝藤野からいよいよ決ったことを聞く。

「お早うございます。形成外科学会担当の由おめでとうございます。」

「いや、伊藤君を中心として、整形外科からも出来るだけ援助してやって下さい。」

そうだ。これは岩原教授、そして教室の名誉だけのためではない。同窓伊藤先輩を思う親心の発露でもある。「何も最後の花をかざるために……」なんて蔭口をどこかで聞いたことがあったが……。

そういえば西教授の学会担当に関しても常に兄貴としての心遣いがある。「若し要請があれば松井君を特別派遣部隊長として医局員を何名でも送る積りだ」といわれたことがある。はからずも陣中見舞だけの援助に終るかも知れないが、同窓として成功することだけを祈っておられることであろう。

形成外科学会は野口先生が派遣いや医局における部隊長となる。そしてその下にそうそうたる連中を配分しよう。

夜は関東整形医局長会議。いろいろと他校の内裏がのぞけて面白い。

インターン、水島、新名君入局に関する相談に来る。
 そうそう入局勧誘案内をせにや。野口インターン係と相談して一人でも多く獲得すべく誠意ある大風呂敷を拡げよう。

41・11・12

教授退職記念事業用印刷物出来る。これを作るまでに都台五回の幹事会と一〇回に近い医局準幹部会を開いた記録がある。
 野崎先生にまで御足労願ったこともあった。勿論伊藤幹事長池田世話人の御指導を迎いでのことである。やっこの事業も途についた感がある。

ともあれ先立つものは何とやら。

御好意のある人のとりのがしをなくしよう。とりのがしのない方法は敷いた積りだ。しかし、強制する様になってもならない。岩原教授への奥付であれば問題はなからうが、物には念を入れて入れ過ぎることはないという言葉もある。

形成外科学会、外遊もひかえている。薬屋からもせしめねばならない。

学会、野口、外遊、伊勢亀、退職、赤坂各財務担当重役宜しく頼みませ、いよいよ三面からの総攻撃(?)開始となる。

40・11・17

幹部会

済生会宇都宮、小児病院を除いて年末人事決定す。

岩原先生御苦勞様でした。先生がいければ熱燗で一ぱいやり

たいところ。

マーボーで二本空ける。
 木枯しが頬に気持良い。

40・11・20

同窓会総会。於ホテルニュージャパン。

退職記念事業に関し大方の先生からの賛同を得られてほっとする。ただ開業医の先生からは二、三お叱りを受けた。これに関して医局長が各個別に当らねばなるまい。次期幹事、伊藤、泉田、木住野、村上、矢部。

40・11・27

岩原教授、再度幻のマーゲンクレプスの発作を起す。又、食過ぎ。三辺先生に診ていただきたことないといわれほっとする。

「プロフェッサー、来週のスケジュール私がお断り申し上げます。おきます。」

28日 栃木県医師会医学講座

29日 齋藤君結婚式

30日 学会演題締切り日

1日 市立川崎病院にて頸腕障害講演

2日 幹部会

3日 骨関節老化文部省班研究報告会

4日 池田君結婚式並び骨腫瘍班研究会

7、8日 浜松行

9日 医局忘年会

10・11日 小田原同門会

更に年末をひかえて連日のスケジュールがひしめいている。勿論今列挙した予定以外に通常の診療、教育、研究もある。これじゃ病気になる方がどうかしている。肉体のみならず、精神的な疲労を加味すればとうてい医局長の比ではない。

「先生体が大切です、無理です。」

「いや、ありがとう。」

「だめです。」

「明日は約束してあるから。」

「私が断ります。」

「いや、食べないから。」

何としてもだめであるガンコ親父。やむをえない。とりあえず斎藤、鷺谷先生にその由電話しておく。

後日談。

牛乳一本と果物小量だけで宇都宮を往復された由。「さすがに参ったよ。」とのこと……体が参ったのかと思ったら食べたくて参ったらしい。ホントカシラ。

40・12・3

骨関節老化班研究会。於ホテルオークラ、「医局長に又、叱られるが、オークラの料理はうまいよ。」

全部食べられた。そう思ったから、うまく消化の良い二品だけを選んでおいたのです。

40・12・9

忘年会。於むさしの。

プロフェッサー大分良い気嫌で芸者ワルツ等を踊っておる。こちらは日頃の疲れが出て完全にグロッキー。

40・12・13

小林進、米谷、学位通過。オメデトウ。池田先生八合あげる

遂に池田先生が酔っぱらわれるのを見る。やはり小林の骨腫瘍の学位通過がうれしかったからに違いない。

しかし、医局にも悪いやつがいる。

「池田先生、それで六ばいめ、次はラッキーセブンですから」

まだ七はいです。次は末広がりですから。ぐっとあけて下さい。」

「ほうかい。」

「八はいめです。先生は軽く一升空けましたね。あと二はいで丁度一本ですからぐっとあけて下さい。」

「ほうかい。」

わずか一時間余りの間にヨップで八ハイ空ければ亀でも酔うのは当然である。

しかし、その後医局を出られてから、小林と一緒に新宿へ出てキャバレーで桜組の女の子と踊ったというのだからそのタフ

ネス振りには頭が下る。

40・12・24

インターン入局案内会。於医師談話室、大分ブッテ来た。

午後三時からは立川へ行ってブツ。木住野先輩に大分御迷惑をかける。

今年の整形外科の前評判はすばらしい。人気は第一。うまくすると三〇名近く入局するかも知れない。とらぬ狸の皮算用とならねばいいが。

立川で事務長と会い、パートをどうやら二万円まで値上げさせる。これで東電を除いて二万円以下の所はなくなった。

クリスマス・イブ、新宿駅ビルで、アイスクリームのデコレーションケーキを買って帰る。

40・12・25

研究費、十月末までの支払を済ます。今井先生が締めてくれたおかげで、どうにか足りそうだ。

40・12・28

第五回リハビリテーション委員会。

大分具体化して来た。来春早々より仕事にかかれそうだ。外来という広いスペースを獲得したことは幸いだっただが、何と工事費とリハビリテーション用器具購入費用一切を含めて三百万円となさけない。工事費はどんなに切りつめても百五十万円か

かってしまう。機能訓練器具、百五十万円で何を買えるのだろうか。間歇及び持続牽引器とオーバードットフレームを買ったら、残りは半分になる。器械屋をおどしすかして値引きさせねばなるまい。又、冷房も入らずに夏の訓練が出来るであろうか。今から心配だ、しかし、センターがあるという、しかも広いスペースをもってという既成事実は重大なことだ。将来の第三期工事着工の際の強みである。しばらくは我慢をさせるか。来年度よりの発足を目指す。

40・12・31

大晦日。

新年宴会の見廻り。指田主任御苦労さん。年々若い看護婦がDuty以外の新年宴会の手伝いに来なくなるといふ。暮から新年にかけてそれぞれ自分の生活があるという。それに対して主任も強制は出来ない、今年も手伝ってくれたのは柳沢君だけの様だ。

いつの間にやら医局長になって大過なく半年経った。早いものである。ただ一日一日を過して来たのではなく、毎日の積み重ねであったと自己満足す。

来年はもっと忙しくなる。

ワイフよ、覚悟しておけよ。

41・1・1

午前零時に氷川神社初詣で。

願ひ事、家内健康。

午前九時、慶応着。見廻り、主な所への挨拶。午前一〇時賀状整理。

午後一時 医学部新年宴会。

午後二時半 医局新年宴会。

午後五時 岩原先生室にて新年宴会。

これが現職中最後となるかも知れない。しかし、小生が入局して以来の一〇年間と何の変る所はない。若しかしたら来年からは大きく変わるかも知れないなんて全く考えられないのである。

41・1・5

浜野先生逝去さる。

岩原、池田先生と共に焼香す。

先生の写真、全くお若い。慶応のためにも Lepira のためにももっと生きていてほしかった。

41・1・10

松井先生送別会、於盧山。

松井先生、御指導ありがとうございました。「ヤンペ、医局長なんてものはね、うまくいった時は教授の責任にして、まずくいった時は自分の責任にすればいいんだよ。要はそれだけだ。」

今後共、おしえを守って、野口、イセキ、赤坂、矢部と四人

集らば、先生がいなくとも立派にやりとげていってみせます。

41・1・12

退職記念事業に関し、岩原教授と直接話をしてみる。

一、式はごく内輪に。

一、業績集は従来の形式では気乗りがしない。

一、脊椎脊髄外科のモノグラムは書きたいが間に合わん。しかし、落ち着いたらばちぼちと書いて行く積りだ。

一、随筆集みたいなものを書きたい。

以上の四点が気嫌がよく色々話してくれた。ついでに医局の秘書をもう一人頼むことを承諾させてしまう。

41・1・20

同窓会幹事会。

池田助教教授を含め、一月十二日の四点に関し協議する。

更に退職記念サヨナラ講演のことについても話す。

三共河村氏より岩原先生の私生活面での映画作りの話を聞く。植木造りに関しての四季を撮りたいという。うまくとれば、退職記念の式宴で上映したいからといって励みます。

41・2・1

岩原先生のカバンを持って村山へ行く。

「骨関節結核の今日」を講演す。

坂本院長より療養所の未来像を聞く。国立は良いものだ。上

地をけずってどんな建物でも出来る。

小金井、寺小屋で御馳走になる。

「医局長、今日は久保君をはじめ村山の連中に大分オキユウをすえたが、まああの位いっても良いだろう。」

退職後の件にからまってちょっと心配になっていたことだ。

何も現在、村山療養所を刺激する様な言葉を講演中に含ませなくとも良いのにも思っていたが……又、それが岩原先生らしくもある。イゴッソー。いい様がない。

「ハア。」

41・2・7

岩原教授外遊時持参用学術映画「椎間板症」製作に関し、岩波映画高村、河上両氏と会食する。

平林にいう。

「金のことは心配せずに立派なものを作ること。多分サヨナラ講演に役立つであろうから。」

五月までに完成させる予定である。

41・2・14

小田原市立、田宮院長、永眠さる。

小山医長より電話あり。

池田助教授と話す。

「矢部君、心配することはないよ。大舟に乗った気でいたまえ。」

安心はしてみるものの気がかりではある。

遂に松林教授に相談に行く。内々に加倉井療養所課長に当たってみてくれるとのこと。

結局は医局長一人ゴマメの菌ギリであることを知る。

池田先生におまかせしよう。

41・2・28

婦人科、野嶽教授と決る。

41・3・14

内科、五味教授に決る。

うちは大丈夫だ。

41・3・19

本年度研究費、二月末日までの分支払い完了し、残二百円となる。我ながらうまく使ったものだ。出来れば来年度から予算制にしたい。

41・3・20

手の外科学会に発表する論文を書き上げる。Brand 新法の術後の症例のスライドが足りない。二十二日に駿河療養所へ行って写して来なければならぬ。又、統計表用スライド原稿明日だけで切り上げないと二十四日の予演会に間に合わない。

41・3・21

山根、加藤尚君に研究室でつかまった。延々夜十二時まで彼等の *Hand* 発表の相談に来る。問題であった考按の結論、三人して作りあげほっとする。

徹夜でスライド原稿を仕上げる。

今夜あたりは学会関係者の殆んどが徹夜していることであろう。しかしながら今学会には、非関係者も自ら進んで協力してくれている。医局の総力をあげてという感がする。その学究的な雰囲気には思わず襟を正したくなる。何がかかる雰囲気醸し出しているのであろうか。

41・3・22

駿河療養所行、学会前の骨休み、パートでここに来る時のみが俺の安息日である。

41・3・24

予演会。

手の外科学会、矢部、山根、
整形外科学会、池田、土方、城所、花岡、加藤。
同研修会、池田、
リハビリテーション学会、山根、加藤以上十題。

すばらしい予演会だった。小生が入局して以来こんなに充実している予演会を聞いたことはない。

41・3・28・29

第九回日本手の外科学会、於東京プリンスホテル。片山教授最後の会長。大分派手である。うちの形成外科学会ではこれ程金は使えまい。しかし、実があればたとえ表面は派手でなくとも満足されるであろう。

一週間漬のまとめであったが、どうやら *Lepa* の手の外科においては津下先生を抜いたかも知れないなんて自己過剰評価をしてうのぼれている。余勢をかって追加、質問も多くする。微細血管吻合、*Microsurgery* の必要性を痛感する。

41・3・30・31

第三十九回日本整形外科学会。

西先生立派でした。榎田主任御苦労様でした。

慶応の発表論文、池田助教発表を始とし、加藤、山根、土方君等いづれもすばらしかった。自我自賛。馬鹿な医局長もあるものである。だって仕方がない。岩原先生の喜びが伝わって来る。そして自分自身もウレシイのだから。

今日程強く岩原整形外科学教室に入った誇りを感じたことはない。

かかる形で日々の雑用が報われるものとすれば、何時まで医局長をやっても苦にならない。

明日からは大手を振って闊歩出来る。

41・4・2

片山教授退職記念パーティー。

池田助教より、その盛大さについての話を聞く。

よし又、新しく出発だ。

41・4・7

コンファレンス後、岩原教授曰く。

「今年は東京の学会であったため、特別報告会は開かない。学会においても慶応は大きくなったことを喜ばしく思う。私が教室を担当してから最良の学会であったと考える。勿論未だ不充分的点はあるが、特に池田助教、山根、加藤君のは出来が良好であった……。」

あのガンコ親父が、かつて学会における発表成果を賞めてくれたことがあったろうか。

41・4・9

新年度開始。フレッシュマン一名のオリエンテーションを行なう。

遂にとらぬ狸となつてしまった。国家試験終了後における外科産婦人科の追い込みが大部効いたらしい。大体医局長が、フレッシュマン獲得の最重要期に論文を書いて発表して、良い気になってゐるからそんな事になるのだ。

自業自得。人事でもう一年苦勞せにやいかん。

41・4・14

秘書、式場嬢来る。ちょっといかす子だ。ともあれ、新聞広告で集った二百名近くの子から最終的には岩原先生が遅んだ秘書である。

準幹部会。出席者、N・Y・A・I・と同窓会会計係の並木君。

議題三つ。

- ① 募金の件、退職記念事業担当重役、A並木
- ② 募金の件、外遊担当重役・I
- ③ 募金の件、形成外科学会担当重役、N各担当重役よりその経過報告を聞く。

退職記念事業に関する同窓の寄付は比較的円滑に行なっている。この分であればぼぼ予定額に達するであろう。六月ボーナス期を第二回募金期として手紙を送送すること。しかし、葉屋の中にはひどいことをいうやつがいる。

「うちは退職に関して金は出しません。新任に対しては寄付をさせていただく会社の方針になっています。」

「そんな所に寄付を強制すれば、岩原先生のツラヨゴシになる。そうであれば俺の方でヒンムシッテヤル。」

学会担当重役N氏頼しつたのみまっせ。

外遊に関して同窓より寄付をおおぐことは色々ともむづかしからう。ただ外遊することを知らせる義務はある。というわけで、その由手紙を送送することは先日と同窓会幹事会で決まっている。助手会においては、助手全員の総意にもとづきなにかしの御賤別を包むことは決ったが、しかし、これだけの金で

はどうすることも出来ない。

「学会よりは外遊が先だからどうかして下さいよ。」

外遊担当重役、I君の発言。

Y「どうにかしましょう。まあ学会担当重役は腕もあるし、東電からまとまった寄付も来るという話もあるし、私が学会という名の元に寄付をとる一案を持ってますから、薬屋の寄付はまず君の方へ廻していただきましょう。」

N「よしよし、所で医局長その案というのはどういうことだね。」

Y「まずその前に学会場は決ったのですか。」

N「まだなんだ。」

Y「まだじゃ困りますよ。」

N「うん、伊藤先生がやるといっていたから。」

Y「先生、もう四月ですよ。学会の予告も出さねばならないし、抄録も発送しなければなりません。七月二十日締切りだから早くしないと間に合わないですよ。第一もういい会場はなくなっていますよ、どうします。」

N「うん、じゃ明日にでも伊藤先生にはっばかけるか。」

Y「そうじゃなくってこちらで二、三当ってから伊藤先生に選んでもらい、岩原先生に伝えていただくのがスジですよ。先生もう当ってみたのでしょうか。」

N「うん。だけど高過ぎたり、広すぎたりで、皆帯に短しタスキに長しなんだ。」

Y「先生、全共連ビルは穴ですよ。当ってごらんください。」

ところで学会担当重役殿、僕はね、医局長をやっているところに来ることがあるんだ。こんなに苦労して足りない人事をやっているでしょう。増員とか新設の際には院長や医長がワイワイいって来るけれども、リーグルに出張者が行く様になると盆と正月にビール一打持って来るだけで、喉元過ぎた暑さを忘れてしまう。ギネでは、同窓会総会の時に税金と称して一院二万円をとっているそうですよ。だからうちでも学会の時位は出張者一名に対して二万円位の税金をとってもいいでしょう。うまくすれば百万円になりますよ。」

N「うん。」

A「しかし、そうしたらブランチの院長は大変でしょう。今年は外科で三つ、内科で一つ学会を担当しているし。」

Y「勿論エゲツなくやることは出来ない。慶応の中のある科が、エゲツなくやったということで関連病院長会議の話題になったことはある。」

I「こんなのはどうですか。一応医長宛に学会が出来ないから宜しくとの手紙を出して、院長にその金を出させるかどうかは各医長の手腕にまかせる。院長も医者への要請であれば関連病院長会議の話題にすることは出来ない。医長だつてモデル代その他で多少のストックがある所が多いし、外科の割り当て方式に比べれば、ずっと出やすいのじゃないですか。」

Y「私もそう思っている。医長にそのニュアンスを解してもらって、それだけの金で助手一人が安泰であるとすれば、結構問題なく出るのでないでしょうか。そしてそれには教授退職

のこともちょっとふれてもらう、そして院長が出してくれたプランチホスピタルは、記念式典に院長を招待したらどうですか。すれば院長さんも喜ぶし、その時又、金をつつんで来ますよ。」

N「うん、幹事会にはかり、大方の医長さんの意見を聞いてごらん。
それから実行に移した方がいいよ。」

すべての悪事の計画はここより出発する。小生はその事務的な代行者に過ぎない。四人の悪魔が集って相談し練った案を幹部会や幹事会、その他の重要な会議に上程するのだから、うっかりすると幹部会も足をすくわれる。しかし、医局長はこれら悪魔の存在が非常に強い。誰が大悪魔であろうか。

41・4・15

会場は全共連ビルに決る。

直ちに広告を出すことやら、会員への通達の書類原稿作りやらで、今日は一日くれてしまった。

41・4・16

今日は午後より全医局員を動員してリハビリテーションセンターの引っ越しを行なう。作り変えさせた持統牽引装置が未だとどかない。泉工舎、あと一週間待ってくれとのこと。一週間は牽引のみ第五診察室でやらねばならないだろう。

41・4・18

リハビリテーションセンター発足す。まずは円滑な滑り出しである。

センター主任岩原寅猪。

池田先生との努力が実った喜びをかみしめる。

41・4・30

医局旅行。於伊豆北川本間旅館。全館貸切、出席者九五名、バス二台貸切。幹事、野口、山崎、有馬。全費用六〇万円也。

岩原教授夫妻、池田、伊藤、山口先生等出席。鈴木進先生も地元を代表して出席さる。

勿論岩原教授にとって最後の医局旅行。

赤坂、伊勢亀、大谷君、そして小生もバスの中からの酔が廻って、宴開始後二〇分で裸となる。

岩原先生もハッスルしてくれた。曰ク、

「医局長参ってしまったから、ワシは大部 Körper gut の子と踊ったよ。医局長損をしたね。」

幹事御苦労さん。しかし、玉代高過ぎたぞ。

41・5・2

幹部会後、岩原教授よりのお話しあり。

「岩原は今日の教授会で、五月九日で退職、教授を退き、十日から慶応の客員教授となり又、村山療養所所長に就任することが決りました。まだ老骨に鞭打ては働けるといふことでありが

たいことです。次の主任教授が決るまで岩原は客員教授のまま主任教授の職務を遂行して下さいということ、これは異例のことだそうです。夏休み後になるかと思いますが、秋には次の主任教授が決ると思います。」

時は無情なものである。

しかし、その時はあまりにも早かった。

幹部一同寂として声なく、ただこの瞬間を身をもって膚に感ずるのみ。

続いて小生の頭の中は走馬燈の様に廻転し出した。

まずは就職先が決ってよかった。

来週からの勤務状態は？

来年四月に決められている退職記念式典は？

岩原、池田先生共大変な時期に外遊がぶっかってしまった。

医局長は動揺しないだろうか。

ともあれ今後益々医局長がしっかりせにゃいけないことだけは分った。

幹部会終了後は、岩原先生を除いた幹部と、野口、赤坂、伊勢亀、大谷君等に医局長室まで集っていただき、退職後のアレコレにつき話す。

41・5・4

恒例のフレッシュマン教授招待日。

今後の年中行事は岩原先生にとって総べて最後のものとなる。

しかし、岩原先生は特にいつもと変りがない。オセンチになるのは俺だけかしらん。

41・5・9

三木威勇治教授御葬儀。午後二時より於築地本願寺。

岩原先生主任教授退職の日でもある。その心中や如何。

池田助教授外遊歓送会。

野口講師新任祝賀会。

午後六時より於二幸食堂。

「池田先生、頼りないやつですが留居を守って行きます。何かあらば直ちに連絡しますから心おきなく世界の整形外科を学んで来て下さい。」

「野口さん。オメデトウ。これからも宜しく頼みませ。」

41・5・10

岩原客員教授兼村山療養所々長、村山行。

41・5・12

池田助教授午後十時五十分羽田発。

やはり部屋をとっておいてよかった。

41・5・12

岩原教授退職願提出のための印を貰う。俺は何故こんな時期に医局長になったのだろう。

コンファレンス終了後、助手全員に対して教授からの話しあり、一応の経過報告後、

「皆動揺することなく勉強して下さい。そして懸案の人は出来るだけ早く論文をしあげて下さい。」

六十六年の年輪の差を感じるだけである。

41・5・14

同窓会幹事会。

特に退職記念式典の日取りに関して話し合う。

形成外科学会のプランチからの募金の件に関しては、特に結論を得ず、持ち越し。

41・5・23

藤野君、形成外科講師に決る。

平林君、学位通過。

共におめでとう。

41・5・25

昨夜泥棒侵入。医局保管庫をこじあげ、更に小金庫二個をこじあげ、現金のみ四万円余を持ち逃げする。直ちに警視庁、四谷警察署刑事課捜査係に連絡し、現場検証を行なう。侵入路はベランダである、被害届も提出す。

苦しも一日前であつたら……ぞっとする。薬屋からの寄付その他三〇万円余を並木君が三井銀行へ昨日あずけたばかりであ

る。更に医局員の給料袋が更に数名分保管庫の中に入れてあった。

早速岩原教授にも報告する。

今後益々大金を扱うものであれば、注意せにゃいけない。会計係よ小切手帳を作りましょう。そして現金は医局におかないことにしましょう。おたがいに指紋をとられたりしちゃ不愉快だ。

41・6・8

対フレッシュマン戦野球試合。

一一対八でフレッシュマンの勝。

敗戦投手矢部、自責点一二六點。

41・6・11

池田助教帰国予定日、しかし帰らず。

歓迎者約三〇名そのまま帰る。

41・6・12

池田先生帰国す、医局関係出迎え者医局長以下四名のみ。

「いや、矢部君ワシヤむこうの日付で手紙出してしまったかう、失敬々々。ホーカイ、昨日は三〇名も来てたのかい。」
相変わらず元気なのでほっとする。

しかし、こんな間違いは失敬、ホーカイじゃ済まされないから今後は気をつけて下さい。手紙を再度出してもよいし、電報

電話という文明の力もあるのですから……。

41・6・13

整形外科教授選考委員会発足。同委員、牛場、相沢、小林赤倉、工藤教授。

選考委員会発足後、三カ月以内に決まるのが普通である。

来春の本学会における特別講演「椎体侵襲に関する諸問題」池田助教担当決定する。

41・6・22

医局長会議。

① 助手定員制の話、浅野案。

② 二五階の結核病棟を外科一般ベット化する話。

いずれも内科、外科の独断、横暴さの現われである。もっと各科の事情を考え、慶応全体を考えての案であってほしい。岩原先生の口頃のいいぐせ、「整形外科はグローセファッハである。実力で示そう」を言わしめる論拠はここにある。

整形外科は横しまなことはない。しかし、他科の横車は許されない。いずれに関しても当然表面はおだやかに底には針を秘めての発言を行なう。チョビヒゲ君分ったか知らん。天野さんだけが分ってくれた様だ。

41・6・23

岩原教授の外遊に関する届を至急出してほしいとのこと。六

月二十七日の教授会に間に合わなければ三田の承認を貰えないとのことである。

忙しくて忘れておった。

「まだこんなものを出すのですか。」

41・6・27

微生物渡辺助教に会う。外遊時のお小遣い、少しでも稼いでおかないと。

イセキ君、御苦労様。

幹部会。

学会——東日本、脳神経、災害医学、老年医学会の発表者決める。

人事——奥島、山田君それぞれ村山、浜松行決定。八月より小児科病院、神奈川済生会、川崎市立病院へ形成外科より出張者を出す事等決る。

小生の講師就任問題に関し岩原教授よりお話しがある。

ただ有難く御受けするのみである。勿論医局長の上に更に講師の重職を良く全うし得るなどは考えていない。しかし、今は医局長を引き受ける際におけるが如き不安はない。講師としての勉強を一生懸命にやるだけのことである。更に岩原先生が下さった最後の賜りものとも思っていない。岩原教授ほど、人を見る目の確かな人はおらない。その岩原教授がなれといわれるのだからやりさえすれば俺にも出来るものと思うわけであ

る。

とはいふものの一抔の不安はある。

そう入局後、未だ日が浅い頃よく自分自身と池田、泉田先生とを比べてみたことがある。多くははるかに距離が離れて及ばないことを歎じ、ある時はその自分が多少とも前進し、少しながらも距離が縮まったことを喜んだものだった。一〇年前の遠い昔が昨日の様に感じられる。

池田、泉田両先生の様になれるかどうかは分らないが、親父の命令であれば、ただガムシヤラにやらねばならないだけである。

よって医局長になった時ほどの不安はない。

医長会。於南国酒家。出席者四九名。

昨年行なった出張病院調査表の簡単な統計と現医局の現況を訳したプリントを配る。

岩原教授からも慶応病院と医局の現況及び未来像についてのお話がある。即ち関連病院長会議でも話題となった関連病院の格づけと出張者配分に関し、医局の立場より話される。

これに対し、各医長さんから、各病院の現況と医局に対する要望事項を聞く。

- 1 慶応と関連病院との間のコネクションの強化
 - 2 入院患者数のみで出張者数を決めることなく、その内容に応じた人事、これらの声は考えねばなるまい。
- さて懇親会に移ってから各医長さんに形成外科学会に対する

寄付のことを話してみる。大方了承し、賛同いただけただけのほどとする。

41・7・13

有馬とフレッシュマン三名をつれて医局のお中元をとどけに伺う。

このタタキを何度たべたことであろうか。

来年のタタキも同じ味がするであろうか。

有馬は相変らず強い。

フレッシュマンは良く食べる。

41・7・19

東大のリハビリテーションセンター発足にあたり、池田助教授とともに見学に行く。

物療のリハビリだけあり、各治療部門に分れ、職能療法、水治療法室等もある。いかにも充実しているみせかけはあるが、機能訓練室は狭く、水治療法室の入口も車椅子が通るかどうか疑問である。

慶応の方がより実用的、合理的であることを感ずる。慶応は税金の無駄使いは出来ない。

41・7・20

退職記念事業基金第二回集金を終り、目標額の三分の二に達せんとする。八月の外遊に際し一五〇万の先渡しは可能であ

る。

十月の最終締切りまではどうやら目標額に達することであろう。

41・7・23

形成外科学会の評議員会は武田が引き受けてくれた。教授招待は日本新薬に決っている。

41・7・25

同門会。於銀座むらき。

衛材と話し、形成外科学会の合同懇親会を引き受けてもらう。

これで同学会の三大会議の担当スポンサーが決ったわけだ。しかし、学会をやるのに薬屋に頼まねば出来ない日本の医学制度……いや、医局長はそんなことを考えてはいけない。

41・7・30

昨日伊勢亀君のお父さんがなくなられた。酷暑中、小金井まで岩原教授、池田助教授と共に葬儀に参加する。

帰院後、直ちに幹部会。

午後五時から岩原教授外遊歓送会。於東京プリンスホテル。教室並び村山療養所合同主催。退職記念用基金より一五〇万、医局員からのささやかな御饗別五〇万、計二百万円を御渡しする。

国際学会に発表する映画の試写をも兼ね行なう。出来仲々宜しい。平林、河野君御苦勞様。そして御尊父の御病氣にも拘らず献身的な努力をした伊勢亀君、御苦勞様。

41・8・6

岩原教授御夫妻、午前九時羽田発、送行者約六十名。

あのゴツイ親父が終始にこにこしている。小学生の遠足の前夜に似ている。

旅よ安かれと祈る。

医局へ帰ってボーヤとしてしていると、伊勢亀君が来て曰く。

「俺にはもう一人ヤンチャ親父が残っていたのでよ。」
伊勢亀君、残り少なくなった夏休みを充分とって下さい。

41・8・18

岩原教授の名代にて育生更生医療指定医認定委員会に出席する。

「今日は岩原先生がいけないから、いずれもスムーズに通りますね。」

41・8・20・21

夏休みも残り少ない。未だ行ったことのない水戸ひばり学園から平の福島整肢療護園、須賀川の公立岩瀬病院へ行ってみる。

先月買ったブルーボードの調子は上々。しかし暑い日だっ

た。

東北の若でそれぞれ献身的な診療を行なっている春日、月村小林医長に頭が下がる。それぞれ積る苦情を聞く、むしろ犠牲は医長さんの奥さんにある様だ。

どうも医局長という肩書のため、ザックバランな話が出来ないので苦痛である。

41・8・27・28

東日本予演会。

午後四時小山国保病院の今中医長に呼ばれる。

利根川に舟を浮べ小魚の天プラで一パイやる。女気抜、さすがに清涼。

夜は宇都宮行、軟派組と徹夜マーシャン博徒組に分れる。

帰りのウナギ騒動、折があれば又、話しましょう。

41・9・2

東日本臨床整形外科学会、於鬼怒川あさや旅館、慶応関係演題七題。

一般に低調。

41・9・5

岩原教授から医局へ手紙来る。

映画、好評だったとのこと。

ほっとしたのも束の間、烏山の留守宅より電話があつて金が

足りなくなつたから至急どうにかしてくれとのこと。

そんなに使つ理由がないのだが……。

41・9・12

二学期開始。外来専属七名、病棟配属一六名となる。

41・9・22

医局長選挙。小生二〇、伊勢亀君二〇票と同数となる。

医局長が医局員の面倒をみてやれなくなつたための反響と解して宜しいだろうか。

岩原教授は常時おられなくなつたし、池用助教授、野口講師と小生の三名の幹部だけでは、たとえ外遊、学会、退職の三大

行事を控えていなくとも手薄である。

次回幹部会に計つて、副医局長を認めさせよう。

41・9・24

集談会。慶応担当。池田助教授司会。

懇親会、於水明亭。ちよっとオソマツだったが、教授留守中であればかえつてこの方が良かったかも知れん。

41・9・30

岩原教授帰国。

親父はスコブル元氣であつたが、奥さんが疲れておられる様子。この二カ月で大分老けられた感じがして痛ましい。

早くお宅に帰して休ませてあげたいのだが親父の方がいい気嫌になつていて仲々腰ががららない。

これでは奥様も疲れられた筈である。

41・10・5

学位授与式。

藤野、花岡、平林、山口、河野、内西、横井君おめでとう。

41・10・12

幹部会。

① 関連病院A、B、Cランク付

② 人事、真岡、ひばりの件

③ 理科特、施設助成補助金申請の件

④ パラプレジァ医学会事務所を慶応におく件

⑤ 副医局長、伊勢亀君に決る。

41・10・14

同窓会幹事会。

出席者、伊藤、泉田、赤坂、並木、矢部。

① 同窓会総会、十一月十二日留園と決る。

② それまでに基金の募集を完了すること。

③ 退職記念の式典の日取りについて、当初考えた四月の線では多分遅過ぎるであろうこと。後任教授が決り次第行なう様になるであろうこと。この件に関しては何にお偉方の意見を聞

いてみることに。

④ 業績集の編纂にとりかかること。

⑤ 退職記念のふるさと特集号を出版すること。

以上決定す。

41・10・20

フレッシュマン独立祭、於二幸食堂。

年々名物になって来た。看護婦の集りが良く女の方が多い。故に岩原先生は気嫌良く鼻の下を長くしている。これが現職中最後の独立祭となるというのに。

新名君、尿瓶のジョッキには参ったよ。

41・10・31

日本形成外科学会前夜、

午後三時よりリハーサル、

午後六時より教授招待。於白紙庵。被招待者10名。

41・11・1

第九回日本形成外科学会総会第一日。於全共連ビル、会長岩原寅猪。

朝七時につく、受付が狭い。マイクの調子がおかしい、直ちに治し、八時には準備万端完了す。

八時半、会長の挨拶があつて会は開かれた。まずは順調な滑り出しである。

一般演題、聞きたいものが多いがどうも身を入れて聞くことが出来ない。受付へ行ったり、スライド係りの所へ行ったり落着かない。

正午を過ぎて午前の演題が終る、評議員を赤坂プリンスホテルまで案内する。書記をしつつ、天下の状勢を判断する。

午後の演題は特に興味なく、ぶらぶらする。

合同懇親会の会計を終えて疲れていることを知る。タクシーで帰る。

41・11・2

手の演題質問する気であったがやめる。どうしても身を入れて聞くことが出来ない。

マイクの調子が治らないので気にかかる。東電の院長から会費をとってしまったらしい。

あとは惰性で時間が経ち、何時の間にやら閉会となった。

一応大過なく終えた事を喜ぶ。

伊藤先生、野口さん、藤野、御苦労様でした。

岩原先生、慶応の形成外科も大きくなってよかったですね。

暦が一枚一枚はがれて行く。残る祝日も少なくなって来た。

大晦日が近いのを感じる。

41・11・3

祝・前田和三郎先生抜勲。

41・11・12

同窓会総会、前田先生抜勲の祝いをかねる。於留園。出席者九十八名。

評議員会で退職記念式典の日取りに關し、大方の意見を聞く。やはり次期教授決定後は一カ月程度の時期に集約される。基金はほぼ目標に達したことを報告する。

41・11・14

教授会。

次回の教授会において整形外科教授選挙がなされることに決る。十一月二十八日である。

41・11・19 ~ 20

秋の医局旅行。形成外科学会の慰労を兼ねる。於上諏訪。池田助教授以下二十五名。

井上先輩の歓待を受ける。

翌二十日諏訪湖で釣を楽しむ。雑魚が面白い様につれる。一回に三匹もかかる。

池田助教授もしばらくの康きを楽しんだようだ。

41・11・28

教授会。インターン問題で長引き仲々終わらない。教授選考は最後の議題である。医局において何回も第一会議室に電話する。教課の大高君曰く、「決りましたらすぐに電話しますよ」

大高君から電話あり次第池田助教授の部屋へ電話する様に伊

勢亀君に頼んで、小生は北里講堂へ赴く。図書室の入口を出たり入ったりする。第一会議室より下る階段の足音複数と共に景気よく喋る岩原先生の声が耳にとび込んだ。

六号棟地下横の暗い小径で一人になった岩原先生に追いつく。

「先生ようございました。」

「うん。」

当然なるべきものがあっただけ。ただ一人うわづっている自分を感ずるが、この喜びはかくしようがない。

教授室に入って岩原先生もニコッとされる、

「お茶でも入れようか。」

しばらくして池田先生もこられる。さすがに興奮の色はかくしきれなかった。

医局で乾杯する。

41・11・30

最後の幹部会。

① サヨナラ臨床講義 一月十九日。

② 退職記念並名譽教授就任祝賀会 一月二十一日

③ 退職記念特別講演「椎間板症」の映画、以上決る。

本日をもって岩原先生は客員教授を辞任する。

41・12・1

岩原名譽教授新任。以後村山に専任。

池田主任教授新任。

× × ×

岩原先生は岩原教授退職記念並名譽教授就任祝賀会において「私ほど幸福な人生を歩んで来た人はいない。私が困れば廻りの人がなんとなく解決してくれた。私はただ歩みさえすればよかった」と話されました。

私はあの時、映画に映る岩原先生をかすむ眼で眺めつつ「私ほど幸福な医局長はこの世におるまい」と感じたのです。





会食風景

野口朝生

土曜日の昼、医局員全員そろそろと医局に集まる会食のためである。広くもない所だからやがて満員御礼となる。若いものは立っている。岩原先生は十二時半頃おみえになる。

それまで食事は待たねばならない。皆ちんちんおあずけのスタイルでつばきを飲んで待っている。育ちざかりの者にとり難行苦行である。やがて会食が始まる。岩原先生はトーストミルクが定食である。終るのは早い。すると視線は自然と医局員の食べている方向に向く。いつもそばばかり食べていると、この男はそばはそばでも女の子のそばも好きだろうとか、うなぎばかり食べていると、あんなに精をつけてひとり身がもつかとかさざまな妄念がわく。口に出される。それを言われるのがいやさにさばると多数の医局員の誰がいなか良くおぼえられる。しばらくするとその男はやられる。塗物の弁当持参のものもある。目がどうしてもそこに行く。あけてびっくり玉手箱、中にチーズやしょうがをハート型に切ったのをおいてあり、爪ようじがキュービッドの矢の如くささっている。名ずけて愛妻弁当という。以来食物の消化力が非常に良くなる。時に集談会



廻診

富田恭弘

の予演会がある。皆神妙な顔をして聞いているかっこうをする。中には目をあいて実はねむっている特殊技能の持主もある。この時はそれまでベッドの上で昨夜の御乱行の疲れを休めていたものもおき上って出てくる。最後にちらっと時計を見、大ぎのびをされた時を見はかって、医局長がはんこをいただく。あまりくわしく説明などすると皆が待っているの、何か適當なことをいっている。やがておたちになる。全員起立、礼。しばらく間をおいてひとしきりざわめき。

一人医長でやっている、医局の連中が来て、廻診がなくていいですねとひやかして行く。僕が廻診を苦手の様に皆誤解しているのは、心外にたえない。先輩の言では、我々の時代の廻診には岩原先生の雷に昔日の佛はないとの事だが、どうもこういう事は主観が主だからなんともいえない、少なくとも週二回の廻診にはかなりのスリルとサスペンスがあった。ギブスのまき方の悪い時は患者の毛布を利用し、良肢位のごとくみせかけ、かつ患者には廻診中動かぬ様に命じてひたすら

先生の目の錯覚を利用して難を免れた事もある。患者のなかにはアッという間に岩原先生に直訴に及ぶのがあり主治医をして佐倉宗五郎はやはりはりつけが適当であったと思わせる事もあった。

始めは先生が患者の前でつぶやく一言があまり感じないが、三年、四年となるうちその一言がかなりの内容と方針を濃縮している事が判った。関係のないような言葉が後からの勉強でアッとなることがよくあった。その点銭形平次とガラッパの關係にている。おわりに僕が岩原先生に廻診中暴力をふるわれたという医局のうわさにつき一言のべさせていただく。

ある時ミエロを読みちがえたところ先生から「何をいっている」とレントゲンフィルムで頭を軽くコンとやられた。たまたま患者が内科の浅野教授の知人で、その席に同席していたため廻診後浅野教授が「整形の廻診はきびしいですね」と話しかけられた。そこで「ハア」といって「お手やわらかな方ではないから」「いえ今日はごきげんがよくお手やわらかな方でした」と答えておいた。その瞬間の浅野教授の目には体を張って生きて行く男達への尊敬の輝きがあったかどうかはつまびらかでない。

その直後今井望先生がつくづく「君は可愛がられてるよ」、といておられたがどうも愛情の表現に問題があるようである。廻診にさいして医局員たるもの一応の心がまえと勉強はしてのぞむわけだが、それらを鎧袖一触していく岩原先生の姿には乱戦でむらがる兵等をけちらして進む騎馬武者の華麗な詩情を感じ

じさせるものがあり、やはり名優の名舞台だと思ふ。



岩原先生の外来

赤坂 勁二郎

医局の二年生になると、外来で岩原先生の書記をつとめることになった。まずたまげたことは、それまで書記としてお手伝いして来たお兄さん方に比して、けた外れに書かされる量が多いのである。脊髄麻痺のある患者でも来ようものなら四ページに及ぶ記載が稀れではなかった。天馬空を征くがごとき(?)先生の手では無い。吾々の手でそうなのである。

沢山書かされるから、先生が治療方法などを書かれるところは、診断名を書き込むべき表紙から何ページも先になる。こっちは書き終った面を開いたまま先生の方に差し出す。すると先生は必ず最初のページまでめぐりもどって診断を書き込み、再び所見記載の最後の部分を聞きなおして、インディカチオンを書かれる。「診断があつての治療である」という先生の信条がさせる手間のかけ方である。この辺の理屈がわかってからはこちらで表紙のところまでめぐり返してお手許に差し出すことにしたが、凡人にしてみれば治療を書いてから表紙までめぐって診断を書き込まなければ手間は半分ですむし、所詮は書き忘れさえしなけりゃいいじゃないかと思わずにはいられない。意地

悪くわざと外来の立て混んでいる時をねらって、何度か所見の最後の部を開いてお渡ししてみたが、手間をはぶいて順序を狂わすことを一度もなさらなかった。

月日はいたずらに過ぎて、自分が口述し、診断や適応を記載する立場になった。こんなことぐらいという甘さのない綿密な所見の拾い上げ、確実な診断の上に立ってこそ治療があるという厳しき、ともに思い出すことは度々であつてもなかなか真似の出来ないことである。せいぜい似て来たところといえ、いくら忙がしい時でも美人のクランケが来るととたんにご気嫌がなおることだけであるらしい。



学会と岩原先生

平林 洵

医局長が汽車の切符の手配に奔走して学会間近しを感じる。

演者が発表原稿を持って教授室の前を右往左往する姿、そして予演会、学会ムードはいやが上にも盛り上がる。

学会参加希望者が少ないと憤られたものだ。医局長としての duty のランキングを、学会 Conference 廻診、オペ見学、外来見学、昼食会……と先生は決めておられた。

「〇〇大学のように何でも、かでも質問したり、追加するのは大人げない。むしろ売名的ですらある。」と嫌われたが、反面「自分の専門領域についてはどしどし自信をもって発言しな

ければいけない。」が口ぐせであった。曰く、「一〇を知っていて何もいわぬのも悪いし、十二にいうのもよくない、八くらいが丁度よろしい」と。

ご本人の発言たるや、周知の如く、時として聞いている者からははらすほど辛らつをさわる。人は、長年の実績でそれを許しもしたし、ひそかに歓迎した。

ところが肝賢の自分の演説はまず演出効果ゼロに近い。学会ではじめて十六唵映画を駆使した昔のモダンボーイも、長ずるに従い、たけた話術と自信が災いして、急造のスライドと原稿なしの話してはただスライド係りが泣くだけであった。

それではならじと、けんこんいってき、男の花道は映画 Discé Lesion で立派に飾れたと他も認め自負もしておられる、快哉。

今までは「岩原」の暖簾だけでも人は道をあけてくれたが、これからはそうはいかない。將に実力だけで拓く、というより今までの反動も覚悟し、それに耐えうる余力も貯えねばならない。

印象に残っていること

佐藤 キツ子

岩原先生は何時になっても最後の患者さんまでご診察をなされた。他の教授は適当に時間を切り上げるということを聞いたので一時過ぎのカルテをソッと第二に廻そうとすると「やりますよ、診ますよ、折角岩原を頼って来たんだから」愛妻弁当が遅くなるだけだと思つた。まさしく「看板に偽りなし」の整形外科でありました。

大名行列は整形外科総廻診の代名詞でありました。頑健な先生方の間をぐりぬけてやっと近づく先生はあの大きな手を大腿頸部骨折のおばあさんの耳に当て腰をかがめ柔和なお顔でうなずきながら何度も同じことを大きな声で説明していらした。大変ほほえましい情景で「高砂のチヂババ」を連想したことがありました。

中年婦人。ハーブトクラーゲ。ルンパーゴ。クニーゲレンクシュメルツ。——こんなカルテをごらんになると何やらブツブツおっしゃって「年のせいですね」と一言。患者さんが不服そうにしていると「ドンドン入れてください。——佐藤君次、ドンドン呼んでください」とおっしゃる。「患者は可愛いものですと目頃おっしゃる先生もこの種だけはいけないようでしたこんな時そばにいる私は大変戸惑ったのですが……さてその

私も中年婦人に属して来ました。嫌われないように物事をつつましかに、そうしてせいぜいおしゃれもしていままでごひいきにあずかりたいと思います。

先生が厚生学院長になられたのは昭和三十五年当学院にも学生運動らしきものがチラチラはじめた頃でした。整形から教務に廻された私は幸運にも又、ここで先生のご指導をうけられることになり困ったことがあるとすぐに「学院長訓話」をお願いしたものです。ある時のお話の中にあつた「自由は要求される方にも自由がある」とおっしゃられたこの言葉が感銘深く残っております……。今、私は総婦長室に勤務している関係で労組やその他からよく話合いを持ち込まれるが興奮しやすい私は窮余の一策でよくこの言葉を使わせていただきますが七、八年前のあの時の先生が見えてきて、聞えてきて、大変勇気をあたえてくれます。



教室の業績

論文

頸部症候群

岩原寅猪、池田亀夫、ほか

医人薬人 42年1月

幼小児の義手

池田亀夫、加藤哲也、山根安夫、ほか

リハビリテーション医学

4 (1) 57 52 42年1月

胸腰移行部椎間板ヘルニアに対する

前方侵襲法

池田亀夫、池田彬

臨床整形外科 2 (1) 42年1月

老人の骨折

桜田允也、池田彬、災害医学、山崎正一、樋口智久、10

(1) 42年1月

脛骨粉碎骨折、遅延治療骨折、偽関節に対する腓骨移植の成績

桜田允也、池田彬、山崎正一、樋口智久

災害医学、10 (1) 42年1月

膝関節拘縮を来した大腿骨々髄釘法

斎藤正也、山崎正一、災害医学、10 (2) 42年1月

頸椎損傷

池田亀夫、診断と治療、55 (2) 42年2月

脊髄腫瘍のまとめ——自家93例を中心に——

泉田重雄、池田彬、外科、29 (4) 42年4月

日本人腰仙部の外科的局所解剖学的研究

今中欣一、日整会誌、41 (1) 17 42年4月

椎間板造影法

平林湧、河野通隆、臨床整形外科、2 (4) 42年4月

整形外科領域のボディ、メカニックス

池田亀夫、平林洌、看護技術 42年5月

特集リハビリテーション、大腿骨々折

池田亀夫、平林洌、診断と治療、55 (6) 42年6月

肩こりの一つの病態

岩原寅猪、平林洌、河野通隆、土方貞久

日整会誌、41 (1) 42年

頸椎頸髓損傷の救急処置

平林洌、宗近靖、関安、臨床外科、22 (7) 42年7月

脊椎分離症、二り症の椎間板造影像について

平林洌、河野通隆、田辺碩、日整会誌 41 (2) 42年5月

腰椎の二り、特に腰椎後方二りについて

河野通隆 平林 洌、吉沢英造 整形外科 18 (9) 779

42年8月

スポーツ災害の救急処置

池田亀夫、臨床外科全書 9 (2) 281

腰椎々体血管腫の全剔治験例

福田宏明、臨床整形外科 2 (8) 42年8月

腰部椎間板造影法の合併症

池田亀夫、高橋惇、石井良章、城所靖郎

土方貞久、臨床整形外科 2 (9) 42年9月

骨腫瘍の診断と分類の困難性

池田亀夫、臨床整形外科、2 (10) 42年10月

遠位橈尺関節の外傷性障害について

内西兼一郎、臨床整形外科、2 (7) 42年7月

椎体侵襲に関する諸問題

池田亀夫、慶応医学、44 (6) 42年11月

いわゆる鞭打ち損傷の発生機序ならびに損傷機転

池田亀夫、小林利昭、臨床外科、22 (12) 42年12月

原発巣診断の困難であった腰部冷膿瘍の症例

岩田清二、整形外科 18 (11) 42年10月

実験的骨肉腫の継代移植における電子顕微鏡的研究

北野正人、日整会誌、41 (8) 42年

両側先天性両前腕骨内側脱臼の症例

月村泰治、真崎裕介、津布久雅男、富士川恭輔、整形外科、

19 (1) 50 43年1月

橈骨欠損症における血管造影像について

池田亀夫、矢部裕、村上宝久、加藤哲也、山根宏夫、整形外科 19 (2) 97 43年2月

頸部外傷―特に頸椎の損傷について―

池田亀夫、宗近靖、津布久雅男 外科診療、10 (1) 17 43年1月

後部 kantenabrennung について

津布久雅男 臨床整形外科 3 (1) 79 43年1月

鞭打ち損傷の最近の知見と治療―整形外科の立場から―

池田亀夫、興和医報 43年1月

横紋筋肉腫について

石井良章、伊勢亀富士朗、宗近靖、花岡英弥、臨床整形外科 3 (2) 43年2月

頸腕障害の治療

池田亀夫、治療 50 (2) 43年 2月

いわゆる鞭打ち損傷の発生機序ならびに病態

池田亀夫、三谷哲史、浅井博一 臨床整形外科 3 (4) 43年4月

いわゆる鞭打ち損傷の問題点

池田亀夫、平林洵、慶応医学、45 2 43年3月

学会報告

虫垂切除後におきた大腿神経麻痺

富士川恭輔 三三二回整形外科集談会 四一、一二

治療法病院よりみた肘関節形成術

齋藤正也、西郷恵一郎 三三三回整形外科集談会 四二・一

複数椎間癒着の予後調査

山口義臣 山口雅成、梅沢文彦 三三三回整形外科集談会 四二、一

四二、一

興味ある経過をたどった Schmorl 結節の症例

土方貞久 三三四回整形外科集談会 四二、二

示指基節背側脱臼の二手術治療例

浅井博一 三三五回整形外科集談会 四二、三

横紋筋肉腫の二症例

石井良章、伊勢亀富士朗、宗近靖、花岡英弥 三三六回整形外科集談会 四二、四

興味ある経過をとった馬尾神経鞘腫例

西郷恵一郎 三三七回整形外科集談会 四二、五

有鈎骨脱臼の治験例

新名正由 三三八回整形外科集談会 四二、六

尺骨遠位端掌側脱臼の二例

齋藤守 三三九回整形外科集談会 四二、九

このごろの頸腕障害の集計

佐々木正 三三九回整形外科集談会 四二、九

第四腰椎々体 Fibromyxoma と思われる症例の手術治験

小林慶二 三四〇回整形外科集談会 四二、一〇

第十胸椎 Aneurysmal Bone Cyst 症例

水島斌雄 三四一回整形外科集談会 四二、一一

巨大な脊髄硬膜外囊腫の症例

新名正由 富田 勲 三四二回整形外科集談会 四二、一

二

骨形成を伴える左腓腹筋海綿状血管腫の症例

阿久津寿一 三四三回整形外科集談会 四三、一

右下肢多発性 Glomus tumor の症例

米谷俊朗・鷺谷澄夫・原保 三四四回整形外科集談会 四三、二

Ellis van Creveld 症候群の一例

佐々木正 三四四回整形外科集談会 四三、二

椎弓切除後の頸椎柱の変化

有馬 享 三四四回整形外科集談会 四三、二

興味ある多発性内軟骨腫の長期観察例

望月研一 三四五回整形外科集談会 四三、三

特別講演 椎間板症という考え方

岩原寅猪 四〇回日整会総会 四二、四

協同研究 椎体侵襲に関する諸問題

池田亀夫 四〇回日整会総会 四二、四

腰部前彎度と荷重相との相互関係に関する光弾性実験的研究

吉沢英造 四〇回日整会総会 四二、四

前後部における椎体癒着の優劣に関する光弾性実験的研究

釵持政男 四〇回日整会総会 四二、四

椎間板の弾性状態に関する研究(第一報)

山口義臣 梅沢文彦 石下峻一郎 四〇回日整会総会
四二、四

膝変形における荷重相の光弾性実験的研究

岩間清二 四一回日整会総会 四三、四

タクシー、バス運転手に対する調査—鞭うち損傷に関連して

櫻田允也 新垣敏雄 四一回日整会総会 四三、四

前後部における椎体固定の優劣に関する実験的研究

山口義臣 石名田洋一 四一回日整会総会 四三、四

椎間板損傷の修復機転に関する実験的研究

土方貞久 四一回日整会総会 四三、四

椎体侵襲に関する局所外科解剖学的研究

並木見而 野村 勇 山崎正一 四一回日整会総会
四三、四

われわれの脊椎カリエス根治療法

大谷 清・久保義信・野町昭三郎・蕪木初枝・和田 茂・
齋藤 彊・奥島平八郎・小林慶二 四一回日整会総会
四三、四

膝交叉靭帯不全損傷の修復に関する実験的研究

吉岡義之 一四回災害医学会 四一、一〇

自家腱絡による十字靭帯形成術に関する実験的研究

未安 誠 一四回災害医学会 四一、一〇

大腿骨骨折治療の検討

櫻田允也・花岡英弥・山崎正一・齋藤正也 一四回災害医
学会 四一、一〇

脛骨近位端骨折の処置と予後

橋爪信晴・伊勢亀富士朗 一五回災害医学会 四二、一〇

半月板剥出術適応の吟味

高尾徹二・今井 望 一五回災害医学会 四二、一〇

Spondyloepiphyseal dysplasia tarda (Rubin) の三例

野口朝生・芝田 仁・野村 勇・岩田清二・柴崎啓一
一六回東日本臨床整形外科学会 四二、八

頸椎脱臼骨折について

宗近 靖・奥島平八郎・真崎裕介・樋口智久・津布久雅男
一六回東日本臨床整形外科学会 四二、八

脊髓腫瘍手術成績の検討

西郷憲一郎・池田彬 一六回東日本臨床整形外科学会

四二、八

前腕骨骨幹部骨折の治療

矢部 裕・奥島平八郎・高江洲明 一〇回日本手の外科学会

四二、四

橈骨欠損症における血管造影像について

池田亀夫・矢部 裕・加藤哲也・山根宏夫・村上宝久

一〇回日本手の外科学会 四二、四

いわゆるサリドマイド児の調査——その形態的分析および経時
的变化について——

池田亀夫・矢部 裕・加藤哲也・山根宏夫・泉田重雄・村

上宝久 一回日本手の外科学会 四三、四

自家M・P関節遊離移植の経験

矢部 裕 一回日本手の外科学会 四三、四

Neurovascular island flap を追加した造指術の二症例

内西兼一郎・矢部 裕 一回日本手の外科学会 四三、

四

パラプレジヤ用車椅子の調査

今井銀四郎 一回パラプレジヤ学会

脊損者の集団就職(映画)

今井銀四郎 一回パラプレジヤ学会

脊髓麻痺を伴なう脊椎脱臼骨折の手術経験

野口朝生・津布久雅男・宗近 靖・石井良章

一回パラプレジヤ学会

一四年後に再発した上腕骨骨肉腫の症例

野口朝生・芝田 仁・福田宏明・小林慶二・福田邦夫

二六回癌学会 四二

6-aminocotinineによる実験的脊椎骨異常 橋爪信晴

七回先天異常学会 四二、四

先天性風車翼指の三例

矢部 裕・山根宏夫・加藤哲也 八回先天異常学会

四三、四

先天脱臼に対する観血整復とコロンナ手術

赤坂勁二郎・釘持政男・村用 光・小兒外科学会 四二、

六

幼小児内反手の手術

矢部 裕・山根宏夫・加藤哲也・泉田重雄・村上宝久

鞭打ち損傷①病態に関する実験的研究

小林利昭 二五回脳神経外科学会 四一、一〇

末梢神経損傷断位が術後指趾小筋機能回復に及ぼす影響に関する研究

柴垣栄三郎 二五回脳神経外科学会 四一。一〇

いわゆる鞭打損傷の本態に関する研究

池田亀夫・池田 彬・平林 洵・小林利昭・三谷哲史・高

橋惇・土橋善藏・浅井博一・小林慶二・櫻田允也・新垣敏

雄・佐々木正・小此木啓吾・岩崎徹也・鈴木敏生

二六回脳神経外科学会 四二、一〇

頸部椎間板の加齢変化に関する研究

田辺 碩 二六回脳神経外科学会 四二、一〇

人 事

医局新任人事

岩原寅猪 名誉教授

池田亀夫 教授

四一、一二

四一、一二

細川昌俊 芳賀日赤整形外科医長 四二、一二

富田恭弘 稻城病院整形外科医長 四一、一二

伊勢亀富士朗 医局長 四二、二

村尾真俊 日野病院整形外科医長 四二、四

吉沢英造 福生病院整形外科医長 四二、四

岡崎睦夫 奥島病院 四二、四

菅野卓郎 川崎市立病院整形外科医長 四二、七

今中欣一 都立台東病院整形外科医長 四二、七

赤坂勁二郎 講師 四二、八

野末 洋 済生会神奈川病院整形外科医長 四二、九

新入局

谷口 茂 (名大)

暈雅太郎 (四五)

村上隆一 (四五)

中西忠行 (四五)

長沢正彦 (四五)

千野直一 (四五)

土肥信之 (四五)

淵上寛治 (四五)

関 恒夫 (四五)

肥沼竜之介 (新大)

松木 忠 (新大)

中川道彦 (金大)

開業

- 田辺雅久(川崎) 四二、一
- 土田精一(国立) 四三、四
- 金井司郎(藤沢) 四三、八
- 奥島平八郎(府中) 四三四

留学

- 花岡英弥(アメリカ・クリーブランド)
- 山口雅成(スイス・チューリッヒ)

結婚

- 新名正由 四一、九
- 岩田清二 四一、一〇
- 望月研一 四一、一二
- 福田宏明 四一、一二
- 末沢慶紀 四二、三
- 関 宏 四二、三
- 高橋 惇 四二、五
- 浜野恭之 四二、四
- 宇田正長 四二、一〇
- 柳下慶男 四二、一〇
- 横井正博 四三、二
- 中川道彦 四三、三
- 暁 雅太郎 四三、三

- 真崎裕介 四三、三
- 千野直一 四三、五
- 宮本 建 四三、五

長子誕生

- 村尾真俊 四一、九
- 栗山 栄 四一、一一
- 赤坂勤二郎 四二、一
- 津布久雅男 四二、一〇
- 福田宏明 四二、一〇
- 田中 守 四三、三
- 池田 彬 四三、四



編集後記

同窓会総会やその他の集まりで、何度も諸先生に催促をうけ「もう直ぐ出ます、いまやっているんです」とソバ屋の出前の言い沢みたいなことばかり言って参りましたが、今日やっと出来上りました。遅れに遅れましたのはひとえに担当者の怠慢の責任であります。心からおわび申し上げます。

本号は、前からご案内の通り、岩原先生の退職記念号で各方面からの記事を出来るだけ集めさせて頂きました。各先生のご協力に対して重ねてお礼を申し上げます。

祝賀会でのスピーチや座談会でのご発言をテープから編集する段階で不明瞭な箇所その他に当方で多少手を加えさせていただいたところがあります。この間、先生方の意に反しないように十分気をつけた積りではございますが、万一そのようなことのあるありました箇所についての文責は全て担当者にある訳でございます。まして、よろしくご海容のほどをお願い申し上げます。

(赤坂)

ふるさと

慶応義塾大学医学部
整外外科同窓会誌

第六号

昭和四十三年六月十日 印刷

昭和四十三年六月十五日 発行

編集発行人 池田亀夫

印刷所 株式会社 創文社

東京都目黒区三四二(一三)一〇

電話(三三)四五五八番

(七五)二七〇四番

発行所 慶応義塾大学医学部
整形外科同窓会

東京都新宿区信濃町三五
電話(三五)一一二一番

(非売品)

振替口座番号 東京一四二九八二

加入者名 慶応義塾大学医学部

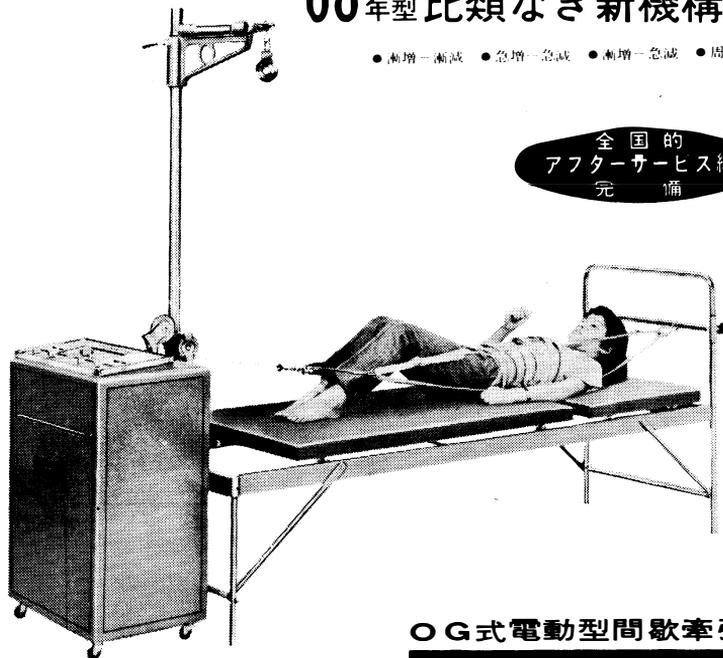
整形外科同窓会

ORTHOTRAC

強さ 便利さ 正確さ………**抜群!**
68 年型 比類なき新機構!!

- 漸増—漸減
- 急増—急減
- 漸増—急減
- 周期任意

全国的
 アフターサービス網
 完 備



OG式電動型間歇牽引装置

ホルトトラック

最古の開発・最新の技術
 追従ゆるさぬOGメカニズム

- L-100 (デラックス大型)
- L-80 (デラックス大型)
- L-40 (ポータブル型)

- 全自動ワンタッチ操作
- オールタイマー方式
- 回転音振動などの雑音皆無
- 故障が全くない特殊機構
- 牽引ウェイト 0-100kg

- **イミテーションについてご注意**
 外観・機構をそっくり模造した粗悪品が最近出回っています。"OG ORTHO TRAC"こそ皆様の信頼に應え得る電動型間歇牽引装置です。

本 社 岡山市海吉長田1835-7 TEL (0862) (代)77-7181~5
 営業所 東京 (813) 9633・大阪 (371) 5797・福岡 (64) 8451
 名古屋 (881) 1838・岡山 (77) 7181

TRADE MARK

OG 技研株式会社

義肢コルセット及整形外科器械
岩原式四肢万能索引装置
身体障害者用補助車一式

株式
会社 **河村製作所**

社長 河村 孝信

東京都豊島区西巣鴨2~2445番地
電話池袋 (971) 0256・0257番

義肢整形器械製作
慶応病院整形外科御用

合資
会社 **溝口製作所**

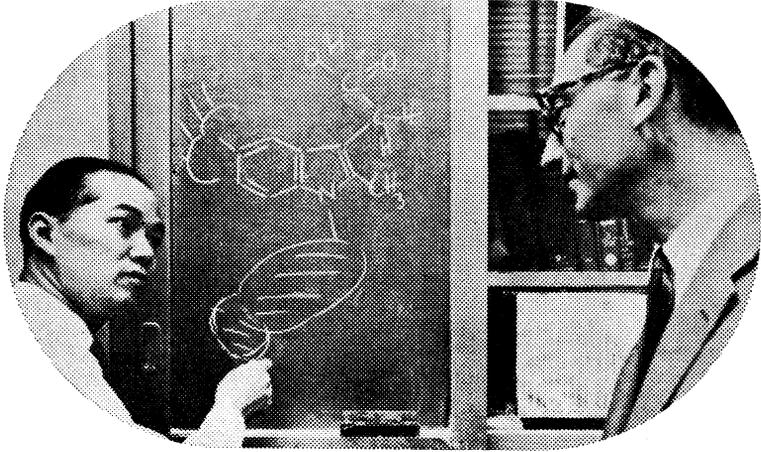
社長 溝口 政雄

東京都台東区池ノ端七軒町51番地
電話 駒込(821)3817・(828)6403番

健保適用

ステロイド開発陣が世に問う

ユニークな非ステロイド剤！



非ステロイド性消炎・鎮痛・解熱剤

インダシン[®]カプセル

(インドメタシン)

- 速やかに疼痛を軽減、確実に炎症・腫脹・発熱を緩解し、筋骨格系機能を著明に改善します。
- 副腎皮質ホルモン剤の投与量を大幅に節減できます。
- 重篤な副作用がほとんどなく、長期にわたり比較的安全に投与できます。また高血圧、心臓障害、糖尿病などの併発患者にも使用できます。

〔適応症〕 下記疾患の消炎、鎮痛、解熱
慢性関節リウマチ、変形性関節症、痛風。
その他、強直性脊椎炎、急性筋骨格系疾患（滑液囊炎、関節周囲炎、腱鞘炎、腱炎、筋炎、結合織炎）、整形外科の炎症性疼痛性疾患（腰痛症、関節痛、膝・頭・肩・背痛、頸腕症候群）、外傷、捻挫などにも使用され、しばしば効果が認められています。

〔包装〕 25mg/cap. (劇) : 100, 500, 1000カプセル 薬価基準 1カプセル(25mg) ¥40.00

姉妹品 インダシン[®]坐剤

(インドメタシン)

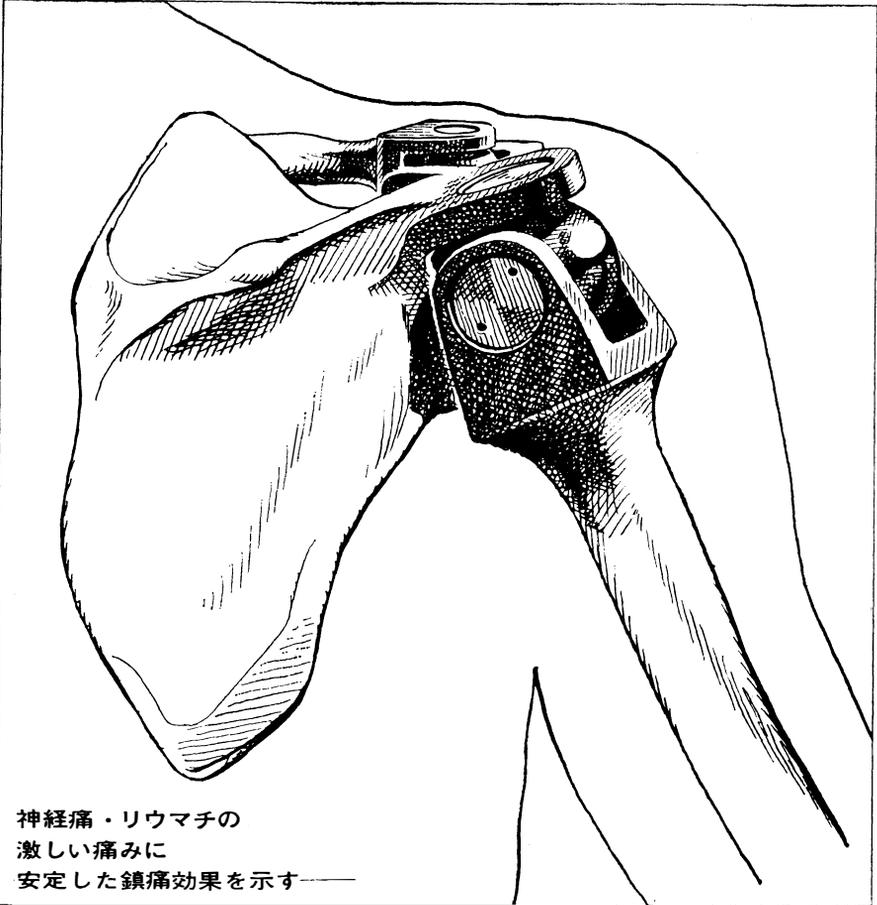
〔包装〕 50mg/supp. (劇) : 10, 50個



製造 日本メルク万有株式会社 販売 万有製薬株式会社

RC-RB87A1M

OSADRIN



神経痛・リウマチの
激しい痛みにも
安定した鎮痛効果を示す——

オサドリンは、鎮痛・解熱成分の合理的な配合により、抗神経痛、抗リウマチ効果は相乗的に強化され、とりわけ、鎮痛作用は卓越している。また、副作用の発現も少なく、神経痛・リウマチの急性・慢性疼痛あるいは一般症状の対症療法剤として、長期にわたる大量投与に適している

●適応症

神経痛および神経炎、リウマチ性疾患、感冒、生理痛、歯痛、眼疾患ならびに眼痛、その他の疼痛性・炎症

性疾患。

●包装

錠…100錠 500錠 1,000錠 3,000錠
注…3ml:5.3ml 50.5ml:5.5ml:50
健保適用 1錠 21.00円
IA (3ml) 73.00円
(5ml) 97.00円

リウマチ・神経痛治療剤

オサドリン錠

●包装 120錠 600錠 1,200錠
3,600錠
健保適用 1錠 14.70円

急性・慢性期のリウマチあるいはステロイド療法からの離脱には、オサドリンの主成分にフレドニゾロンを配合し、消炎効果を強化した——

P 大日本製薬
大阪市東区道修町3-25
提携 クノールA-G(西株)

神経痛・リウマチ治療剤

オサドリン®

フェンピラゾン アミノヒリン その他



フートアップ[®]

脛直した足先を効果的な歩行に矯正

新発売!

特 徴

- 無理なく効果的に歩行できる
- 着脱が片手でできる
- 左 右 両 用
- 誰にでも合う
- 屋内、屋外使用可能

用 途

- 脳卒中
- 脳性麻痺
- 内反足、外反足、脊髄炎
- 前脛骨筋麻痺
- 弛緩性麻痺



有限
会社

東京衛材研究所

東京都墨田区京島1-21-10
TEL (611) 1101 (代表)

健保採用

筋肉の緊張と痙攣に 武田販売

骨格筋痙攣弛緩剤

ロバキシン[®]

(メトカルバモール製剤)

1. 中枢性の確実な筋弛緩作用が持続し、有効率が高い。
2. 正常な筋肉運動への影響がなく、疼痛をともなう筋緊張・痙攣をとく。
3. 注射は筋注のほか、静注も可能である。
4. 内服剤は他剤（グレラン・アスピリン・アリナミン・コントールなど）との併用で効果はさらに高まる。
5. 連用しても蓄積・習慣作用がない。
6. 毒性が低く、安全性が高い。

注	5 ml	10管	50管
顆粒		100錠	500錠
錠	300錠	1000錠	2000錠5000錠

腰痛

筋肉痛・神経痛に 筋弛緩・鎮痛・消炎剤

ドスパン[®]

きわめて強力な中枢性筋弛緩作用を有するメトカルバモール（商品名ロバキシン）と鎮痛・消炎剤を配合したもので、間接的直接的鎮痛効果をあわせて疼痛病態の軽快治癒に総合的かつ合理的な臨床作用を発揮します。

注	10ml	10管	50管
錠	300錠	1000錠	5000錠



製造 グレラン製薬株式会社
東京都世田谷区野沢三丁目3番9号

販売 武田薬品工業株式会社
大阪市東区道修町2丁目27番地

健保採用

強力・迅速・的確な効果の発現

活性持続型ビタミン

アリナミン® F50

「タケダ」

アリナミンはすぐれた薬理的・生化学的作用を有し普通1日量100mg以上の内服又は高単位の注射でアリナミン効果を強力に発現し、すぐれた治療効果をあらわします。

〔適応症〕

神経痛・リウマチ・筋肉痛・腰痛・神経炎・神経麻痺・しびれ感・術後の神経障害・疼痛・術後の腸管麻痺・膀胱麻痺・自律神経失調症・疲労・脚気・糖尿病・胃下垂・便秘・心筋障害・心機能障害・高血圧・低血圧・脳溢血後遺症・農夫症・湿疹・妊娠悪阻・月経困難症・分娩時和痛・夜尿症・難聴・嗅覚障害・耳鳴・嘔声・眼精疲労・仮性近視・視神経炎等。

〔高単位製剤の包装・健保薬価〕

剤型	含 量	健保薬価(円)	アリナミンF	アリナミン
錠	25mg	11.80	30・100・200・500・1000入	30・200・1000入
	50mg	23.10		30・100・500・1000入
	100mg			
注射	10ml 25mg	95.00	5・10・50管	
	20ml 50mg	176.00		
	20ml 100mg	323.00		



武田薬品工業株式会社 大阪市東区道修町2丁目27番地
(Aアリ全51-4)

新しい非ステロイド性消炎剤

A PRIMARY ANTI-INFLAMMATORY AGENT

手術後、外傷後の
炎症性反応に
感染性炎症反応に

「新発売」
《非ステロイド性消炎剤》

リリペン

一般名：ベンジダミン塩酸塩
イタリア・アンジェリーニ社提携品

RIRIPEN

リリペンは、局所性の一般炎症、たとえば手術後、外傷後あるいは感染性の炎症に対して特異的な効果を示す新しい消炎剤です。

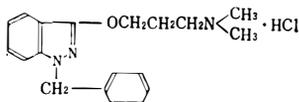
リリペンは炎症反応が過度に進展したり、異常な経過をたどり、体に悪影響を与えるような反応となるのを抑制するだけでなく、炎症本来の正常防衛反応の回復能力を促進させる組織保護作用をも示します。

このような性質を持っているので欧州各国では種々の消炎剤のなかでも特に区別して A Primary Anti-inflammatory Agent と呼ばれ各科にみられる炎症性疾患あるいは炎症症状に First Choice の消炎剤として使用されています。

▶特長

- ★消炎作用は炎症部位に集中する。
- ★鎮痛作用は極めて強い。
- ★確実な解熱作用を示す。
- ★吸収が速く、効果の発現が速い。
- ★すぐれた機能回復作用をもつ。
- ★創傷治癒（瘢痕形成）を遅らせない。
- ★シュワルツマン反応を抑制する。
- ★筋弛緩作用とパパバリン様の鎮痙作用を示す。
- ★消化管粘膜に悪影響を及ぼさない。

▶構造式



1-Benzyl-3-(3-dimethylaminopropoxy)-1H-indazole hydrochloride

▶適応症

- ★各科領域：手術後ならびに外傷後の炎症性反応
- ★外科・整形外科領域：腰痛症、関節症。
- ★泌尿器科領域：膀胱炎、睪丸炎、副睪丸炎、尿路結石、検査後痛。
- ★歯科領域：智歯周囲炎、急性単純性歯髓炎、抜歯後痛。
- ★耳鼻咽喉科領域：咽・喉頭炎、扁桃炎、鼻炎。
- ★内科領域：感冒、急・慢性気管支炎

▶用法・用量

通常成人 1回50mgを1日3回、食後に投与して下さい。
症状が緩解した場合、または軽症の場合には1回25mgを1日3回投与します。
なお、感染性疾患に対しては化学療法剤と併用するのが効果的です。

▶包装・薬価基準

	包 装	新 薬 価
錠25 (25mg)	100T、500T、1000T 3000T	1 T 32円00
錠(50mg)	100T、500T、1000T	1 T 57円00

純良医薬



第一製薬

瘢痕拘縮に

マッサージへの適用

- 血液凝固阻止・・・
- 血管拡張・・・
- 線維素溶解・・・
- 抗炎症・・・
- 血液循環促進・・・

ヒルドイド

■ヒルドイドは動物臓器より抽出した皮膚吸収性の Heparinoid を主剤とした、無刺激の軟膏である。

■ヒルドイドは組織の加水作用 (Hydration) を増強し、線維素溶解作用を促進し組織軟化をはかる。

■マッサージ時に併用することは、マッサージを容易ならしめるばかりでなく、ヒルドイドとマッサージの相乗効果が期待される。

■パラフィン浴や、超音波療法との併用が推奨されている。併用により、ヒルドイドの効果を増強すると共に、機能訓練に際し患者の苦痛を軽減し、機能訓練の実をあげ得る。

(パラフィン浴の実際につきましては、直接お問合せ下さい)

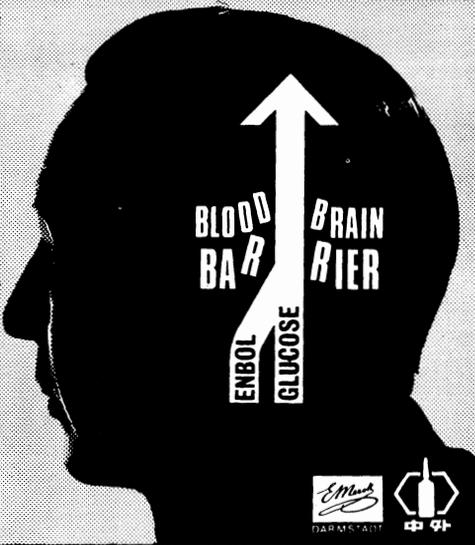
健保採用

瘢痕拘縮(マッサージと併用)及び早期使用による予防。 乳腺炎
斜頸、小児麻痺・脳卒中の予後、捻挫・血腫・打撲・腱鞘炎・その他
スポーツ外傷一般、関節疾患、下腿潰瘍、レントゲン潰瘍、凍傷



輸入元 マルホ株式会社 大阪市大淀区中津本通1-2

《新発売・社保適用》



《脳機能障害に原因療法的に効く》

全く新しいタイプの脳機能改善剤です。血液-脳関門に作用してグルコースその他の透過性を調節し、脳細胞に賦活的に働いて脳の栄養を改善します。

効果は一過性でなく、慢性化した症状にも有効です。

〔適応症〕 下記疾患に伴う諸症状（頭痛、頭重、めまい、記録障害、言語障害等）の改善。

- 脳出血後遺症、脳軟化後遺症
- 脳動脈硬化症、老年痴呆を主症状とする老年精神病、●頭部外傷後遺症 ●脳炎、髄膜炎後遺症

〔包装〕 (100mg)

100錠、500錠、1000錠

〔薬価〕 1錠 25.30

脳代謝・機能改善剤

エンボール錠

中外製薬株式会社
東京都北区浮間5-5-1

★健保適用

組織への速やかな移行と高い貯留性
すぐれた作用・効果の発現



対称S-S型ビタミンB₁剤

持続型活性ビタミンB₁剤

ベストン®

ベストンは組織親和性が強く、心、筋肉、肝、神経などの主要組織に高濃度にかつ速やかに移行して、多彩な薬理作用を発揮し、各科領域の疾患にすぐれた治療成績が認められています。

〔健保薬価〕

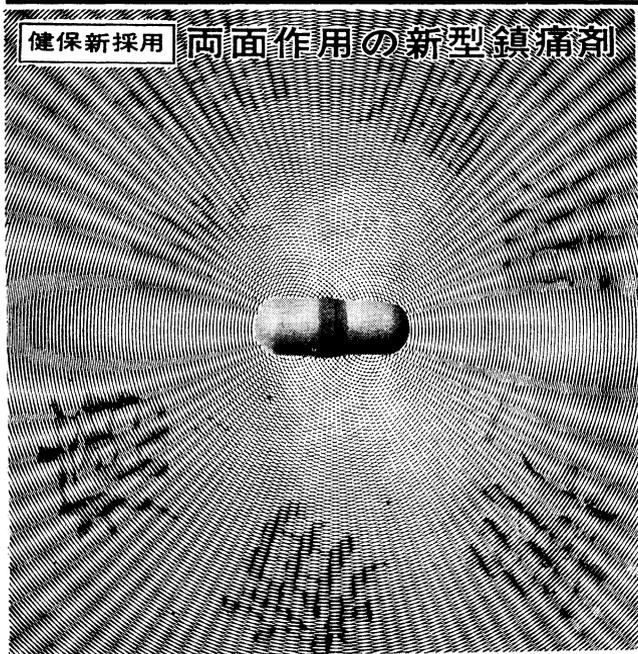
商品名	規格	単位	健保薬価
ベストン糖衣錠	5mg	1錠	¥ 2.30
	25mg	1錠	¥ 10.20
	50mg	1錠	¥ 20.20
ベストン散	1%	1g	¥ 4.60
	10%	1g	¥ 40.40
ベストンシロップ	1%	1ml	¥ 5.10
ベストン注射液	10mg	2ml	1管 ¥ 40.00
	25mg	10ml	1管 ¥ 95.00
	50mg	20ml	1管 ¥ 176.00



田辺製薬株式会社
大阪市東区道修町3丁目21番地
支店 東京・福岡・札幌・名古屋

健保新採用

両面作用の新型鎮痛剤



従来どの鎮痛剤の系統にも属さない新物質
メフェナム酸単味の製剤で、その最大の特長
は「中枢における鎮痛」と「末梢における抗
炎症」の両面作用を有していることです。

効果は持続性—吸収は比較的緩徐で、45～50
分後に発現しますが、効果は6～8時間持続
します。

副作用は僅少—胃腸障害は少なく、また非麻
薬性ですので習慣性や耽溺性もありません。

適応症は広範囲—神経痛・歯痛・月経痛・分
娩後痛・手術後痛・頭痛



販売
三共株式会社



提携
パーク・デービス三共株式会社

新しい鎮痛剤

薬価基準 1錠 30.10円

グリファン錠

健保適用

〔特 長〕

- 非ピリン系の単味で確実な効果を示す合成鎮痛剤です。
- 作用は速効的、かつ持続性です。
- 毒性が低く、習慣性または耽溺性がありません。

〔適応症〕

炎症・膿瘍などによる歯牙性疼痛、抜歯後の疼痛、検査術後の疼痛、手術後の疼痛、関節痛、腰背痛、腰痛症、神経痛、頭痛、生理痛。

〔包 装〕

100錠
(メタルシート
10錠×10)
500錠

製造販売元

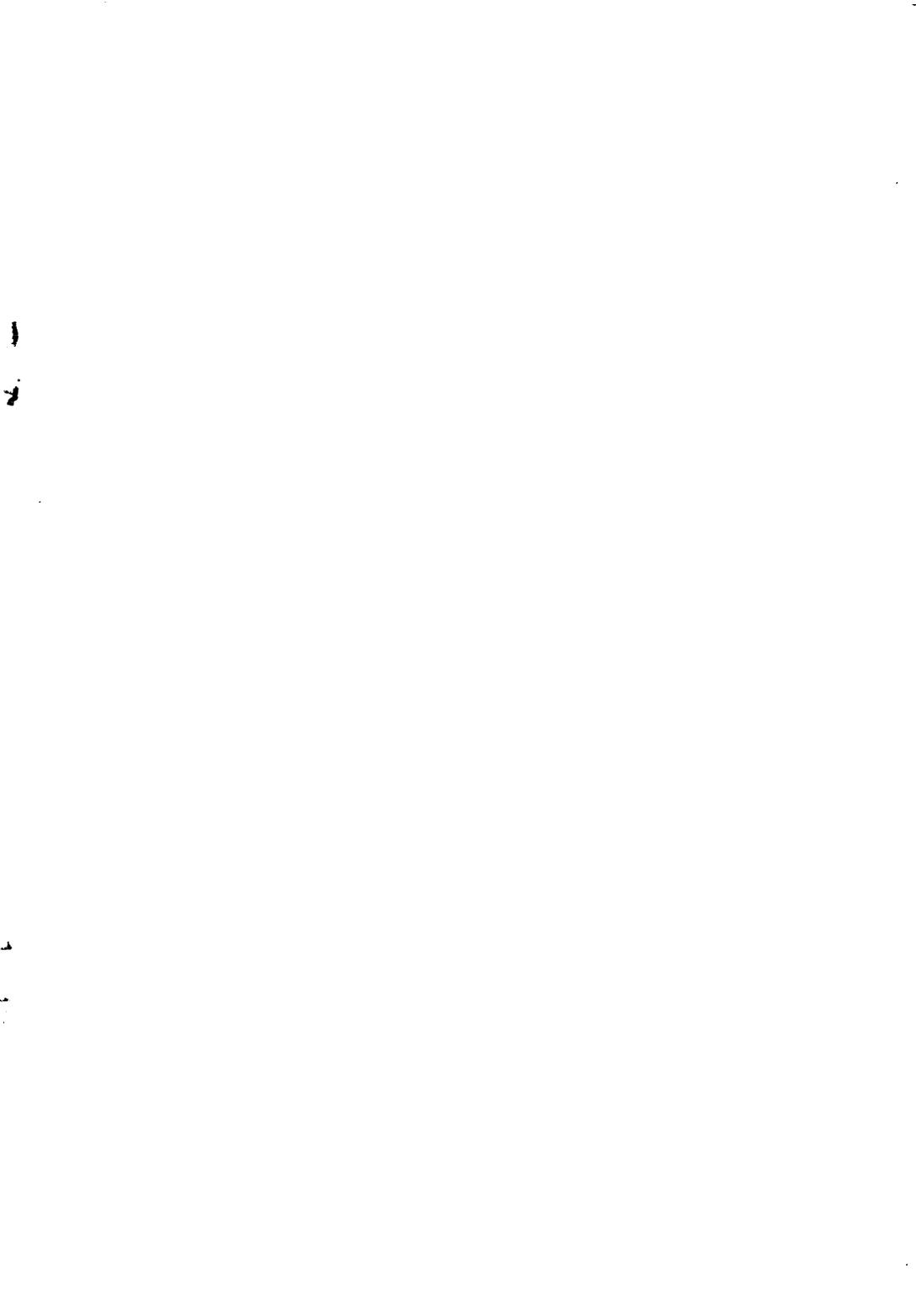


中外製薬

NIPPON
ROUSSEL

輸入元

日本ルセル株式会社
東京都中央区日本橋室町4-5



非ピリン系 新鎮痛剤！



キョーリンAP2[®]顆粒

適 応 症：手術後の疼痛、腫瘍の疼痛、検査後の疼痛、頭痛、咽頭痛、神経痛、関節痛、頸肩腕症候群の疼痛、腰痛、排尿痛、生理痛、婦人科領域の疼痛、眼痛、歯痛、耳痛。

用法・用量：通常成人は1回0.5gを1日3～4回服用する。症状によって適宜増減する。

包 装：100g、500g、0.5g×1,000包
0.5g×3,000包

薬価基準：1g 56.90



キョーリン薬品

東京都千代田区神田駿河台2-5

慶應義塾大学医学部整形外科同窓会誌

1953.5号